文化部活動の地域移行に関する
実践研究事例集

～令和３年度地域部活動推進事業及び地域文化倶楽部（仮称）創設支援事業より～

文　化　庁

令和４年11月

目次

目次 ・・・・・・・ 1

1．はじめに ・・・・・・・ 2

2．事業の概要 ・・・・・・・ 3

〇先行事例 ・・・・・・・ 4

3．事例

〇地域部活動推進事業　一覧 ・・・・・・・ 6

〇地域文化倶楽部（仮称）創設支援事業一覧 ・・・・・・・ 7～8

〇地域部活動推進事業 ・・・・・・・ 9～36

〇地域文化倶楽部（仮称）創設支援事業 ・・・・・・・ 37～85

1．はじめに

中学校等（義務教育学校後期課程、中等教育学校前期課程、特別支援学校中等部を含む。）の文化部活動は、これまで生徒の文化芸術等に親しむ機会を確保し、生徒の自主的・主体的な参加による活動を通じて、達成感の獲得、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資するとともに、自主性の育成にも寄与するものとして、大きな役割を担ってきました。
また、学校教育の一環として、人間関係の構築や自己肯定感の向上などの教育的意義だけでなく、問題行動の発生抑制、学校への信頼感・一体感の醸成等にも大きく貢献してきました。

一方で、深刻な少子化の進行により、中学校等の生徒数の減少が加速化し、部活動は持続可能性という面で厳しさを増すとともに、休日も含めた指導が求められたりするなど、教師にとって大きな業務負担となっています。
他方、地域の文化芸術団体や指導者等と学校との連携・協働が十分でない状況もみられます。

学校における部活動に関する厳しい状況は、中央教育審議会や国会等においても指摘されてきており、文化庁においても、「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」（平成30年12月。以下「ガイドライン」という。）も踏まえ、「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について」（令和２年９月）において、「令和５年度以降、 休日の部活動の段階的な地域移行を図るとともに、休日の部活動の指導を望まない教師が 休日の部活動に従事しないこととする」と示したところです。

こうした状況を受け、令和３年度から、文化庁の委託事業「地域部活動推進事業」及び「地域文化倶楽部（仮称）創設支援事業」を実施し、子供たちが身近な地域で学校の文化部活動に代わり得る継続的で質の高い多様な文化芸術活動の機会を確保できるよう、学校や地域が地域の文化施設や文化芸術団体、芸術系教育機関等との連携により、文化部活動の地域移行に向けた体制構築や持続可能な文化芸術活動の環境整備を行うためのモデル事業を実施してきました。

また、令和４年２月からは、有識者による「文化部活動の地域移行に関する検討会議」を設置し、地域における子供たちの質の高い文化芸術活動の整備方策等の具体策が議論され、令和４年８月９日に提言が取りまとめられました。この提言では、「目指す姿」として、①少子化の中でも、将来にわたり子供たちが文化芸術に継続して親しむ機会を確保すること。働き方改革を推進し、学校教育の質の向上にもつながること。②文化芸術は、豊かな人間性を涵養し、想像力と感性を育む等、人間が人間らしく生きる糧となるものであること。③地域移行を契機に、生徒や保護者等が地域の活動に参画することは、地域における文化芸術の発展を主体的に形成、さらには地域社会を豊かにすることにつながることなど、部活動の意義の継承・発展、新しい価値の創出が盛り込まれています。

「改革の方向性」として、まずは休日の部活動について地域移行していくことが基本とされ、課題への対応策が整理されています。この中では、文化庁において取組事例を参考資料としてまとめ、各地方公共団体において、これらの事例を参照しつつ、地域の実情等を踏まえた受け入れ体制等の構築等の取組を着実に進めていくことが必要である旨も示されています。

各地方公共団体や学校・文化芸術団体等において、部活動の地域移行に向けて取り組んでいる方々や、これから取り組もうとしている方々の参考となることを目的として、 令和3年度「文化部活動の地域移行に関する実践研究事例」を作成しました。本事例集をご活用いただくことで、今後の皆さんの取組の一助となることを願っています。

2．事業の概要

令和3年度 地域文化倶楽部（仮称）の創設に向けた実践研究について

事業の趣旨		学校における働き方改革を推進するとともに、子供たちが継続的で質の高い多様な文化芸術活動の機会を確保できるよう、文化部活動の地域移行に向けた体制構築や持続可能な文化芸術活動の環境整備を行うため、地域部活動・合同部活動推進事業及び地域文化倶楽部（仮称）創設支援事業を実施する。
事業内容	休日の部活動の地域移行	地域の実情を踏まえ、地域人材の確保や費用負担の在り方、運営団体の確保などの課題に総合的に取り組むために、全国各地の拠点校（地域）において実践研究を実施する。
	地域文化倶楽部等	少子化の進展等に対応するために、地域の実情を踏まえ、都市・過疎地域における合同部活動やICT 活用による文化倶楽部活動機会の充実に向けた実践研究を実施する。
推進主体	休日の部活動の地域移行	都道府県教育委員会、指定都市教育委員会
	地域文化倶楽部等	地域の文化施設や文化芸術団体、芸術系教育機関等
期間		令和3年 4月1日～令和4年 3月10日

地域文化倶楽部（仮称）の創設に向けた実践研究

文化庁

背景　課題

子供たちが身近な地域で学校の文化部活動に代わりうる継続的で質の高い多様な文化芸術活動の機会を確保できるよう，学校や地域が地域の文化施設や文化芸術団体，芸術系教育機関等との連携により，文化部活動の地域移行に向けた体制構築や持続可能な文化芸術活動の環境整備を行うためのモデル事業を実施する。（令和5年度より学校部活動の段階的地域移行）

○児童・生徒の文化芸術活動が居住地域や家庭の教育力・経済力に左右される現状（**表現や鑑賞機会の格差**）
○少子化に伴う部活動の廃部や部員減少，児童・生徒のニーズの多様化（**学校内での活動機会の不足や喪失**）
○部活動指導や大会引率等による教員の長時間勤務や休日出勤が常態化（**学校における働き方改革の必要性**）
○部活動に代わりうる継続的で質の高い文化芸術活動環境の不足（**体制構築や持続可能な環境整備の必要性**）

事業内容

地域部活動推進事業

休日の部活動の地域移行（地域部活動）に向けて生徒の指導や大会の引率を行う地域人材の確保や活動場所・用具の確保，移動手段の確保，それらにかかる費用負担やコーディネート等の課題解決を目指すとともに、少子化に伴う廃部や部員減少，ニーズの多様化による指導者不足等に対応するための合同部活動実施に向けた移動手段の確保や，ICTを活用した練習・指導法の確立，それらにかかる費用負担等の課題解決を目指すため，全都道府県各１地域に拠点校を設け，モデル事業を実施。

※ **令和3年度より実施。モデル事業としては令和４年度で終了予定。**

地域文化倶楽部（仮称）創設支援事業

子供たちが身近な地域で質の高い多様な文化芸術活動の機会を確保できるよう，**地域の文化施設や文化芸術団体，芸術系教育機関等が中心となって，新たな受け皿となる「地域文化倶楽部」（仮称）を創設するためのモデル事業を全国３０件程度実施**し，課題や手法を分析・検証する。※**令和3年度より実施。**

アウトプット（活動目標）

・学校と地域文化団体や芸術系教育機関、地域文化施設等との連携　　30件程度
・人材・場所・用具等の確保、ICTを活用した練習・指導法に関する課題解決を目指し文化部活動を地域へ移行するモデル事業実施　　47件

アウトカム（成果目標）

・教員の部活動指導にかかる負担軽減
・部活動に代わりうる活動拠点の創出
・誰もが芸術文化活動に平等に触れることができる受け皿の創設。
・多様な文化芸術活動へのニーズへの対応。

インパクト（国民・社会への影響）

・学校の働き方改革への貢献
・地域の文化芸術団体等の活性化
・子供たちの文化芸術活動への活性化
・豊かな人間形成の促進
・創造活動水準の向上

文化部活動の地域移行に係る先行事例

新潟県胎内市立　全中学校

p17

- 胎内市内の中学校の合同部活動を、**地域の指導者とICTの活用**により実施
- ICTの活用では、愛知県吹奏楽連盟作成のサポート**動画を活用した練習や遠隔地の指導者による双方向の動画のやりとりでのリモート指導**を実施
- 学校、保護者、地域等の関係者による検討会議で方策を検討

活動場所：胎内市立中条中学校、黒川中学校
活動形態：合同部活動（地域移行前の段階として実施）
活動分野：吹奏楽
指 導 者 ：地域の指導者１名、県外の指導者２名
参加者：５１名
管理責任主体：胎内市教育委員会

富山県朝日町立　朝日中学校

p18

- 令和３年４月から、**学校部活動の一部を地域クラブである朝日町型部活動コミュニティクラブでの活動に移行**
- スポーツ、文化活動の幅広い提供を目指して委員会を立ち上げコミュニティクラブを設立
- 地域クラブ活動の**指導者は、原則、従来より学校部活動の指導に関わっている外部指導員と兼職兼業の顧問で、学校部活動との連携に取り組む**

活動場所：朝日中学校
活動頻度：週２回（平日１回、休日１回）
活動分野：吹奏楽
指 導 者 ：地域の指導者２名
参 加 者 ：20名、スポーツ安全保険に加入
管理責任主体：朝日町型部活動コミュニティクラブ

静岡県掛川市立　全中学校

p23

- 子供たちの**音楽活動の場として特定非営利活動法人掛川文化クラブが設立し、週２日、吹奏楽、弦楽、合唱**の３部門で活動
- 活動場所としては、中学校の他、**生涯学習センター、公民館、文化会館**などを活用
- 吹奏楽部がない学校の生徒、運動部、他の文化部に所属する生徒の参加とともに、吹奏楽部との合同練習会も実施

活動場所：掛川市立城東中学校、掛川市生涯学習センターなど
活動頻度：週２回（平日１日、休日１日）
活動分野：吹奏楽、弦楽器、合唱
指 導 者 ：地域の指導者（市民楽団の楽団員）21名、学生ボランティア4名）
参 加 者 ：23名程度、合同練習参加の吹奏楽部22名程度
スポーツ安全保険に加入
管理責任主体：特定非営利活動法人掛川文化クラブ

兵庫県淡路市立 北淡中学校

p26

- **県及び市において関係者による委員会等を設置**し、地域の人材バンクの活用、吹奏楽連盟との連携により、**パート指導を地域の指導者に依頼するなど可能な部分から取組**を実施
- **指導において求められる事項や服務についての研修動画**を市教委が作成、指導者に動画と対面を組み合わせた研修の実施
- **活動場所が学校**となるため、ボランティア、代行員などを活用し**安全管理を工夫**（県内他市の取組を含む）

活動場所：淡路市立北淡中学校
活動分野：吹奏楽
参 加 者 ：22名程度
活動頻度：週３回（平日２日、休日１日）
指 導 者 ：教員OB２名、プロの演奏家１名
管理責任主体：淡路市教育委員会

徳島県徳島市　川内中学校

p30

- 阿波人形浄瑠璃の専門施設「阿波十郎兵衛屋敷」を活動場所として、施設を運営する**NPO法人阿波農村舞台の会がコーディネート及び講師の派遣**を実施
- 夏休みや発表に向けた期間を中心に２時間程度実施
- **人形の基本的操作方法の指導**や**太夫や三味線体験、歴史学習**を実施

活動場所：川内中学校
活動分野：伝統芸能（阿波人形浄瑠璃）
参 加 者 ：８名、スポーツ安全保険に加入
活動頻度：夏季休業期間を中心に月１～２回
指 導 者 ：地域の指導者
管理責任主体：ＮＰＯ法人阿波農村舞台の会

徳島県徳島市　徳島中学校

p30

- **徳島交響楽団ジュニアオーケストラが学校と連携を図り、コーディネート及び講師の派遣**を実施
- パート練習や合奏の指導、他校との合同練習への引率
- **指導者は**アマチュア奏者として楽器演奏活動を長年継続しており、**徳島交響楽団ジュニアオーケストラも指導するなど、指導経験が豊富**

活動場所：徳島中学校
活動分野：オーケストラ
参 加 者 ：53名、スポーツ安全保険に加入
活動頻度：月２，３回程度
指 導 者 ：徳島交響楽団所属のアマチュア奏者
管理責任主体：徳島交響楽団ジュニアオーケストラ

NPO法人　日本地域部活動文化部推進本部

p69

- 平成30年に創部した**最初の文化系の地域部活動の実施団体**で、当初は音楽、演劇、放送の分野での活動を実施
- 毎年、子供たちの希望により実施する分野を決定するなど、**子供たちの自主性・主体性を最大限に尊重した活動**を展開
- **企業などから協賛を得る**工夫も行っている。

活動場所：掛川市美感ホール
活動分野：表現、制作、運営
参 加 者 ：46名、スポーツ安全保険に加入
活動頻度：部活動90回、講師指導8回
指 導 者 ：外部指導者（オンラインを基本）
管理責任主体：NPO法人　日本地域部活動文化部推進本部（Pocca）

地域部活動推進事業一覧

番号	都道府県	市町村名	主な活動種別	
1	北海道	紋別市	1	茶道
			2	琴
			3	書道
			4	美術
2	秋田県	大館市	1	吹奏楽
3	栃木県	佐野市	1	吹奏楽
4	埼玉県	白岡市	1	吹奏楽
5	千葉県	大多喜町	1	吹奏楽
6	東京都	豊島区	1	琴
			2	茶道
			3	茶華道
7	神奈川県	秦野市	1	吹奏楽
8	新潟県	胎内市	1	吹奏楽
9	富山県	朝日町	1	吹奏楽
10	福井県	敦賀市	1	吹奏楽
11	山梨県	市川三郷町	1	吹奏楽
12	長野県	長野市	1	演劇
13	岐阜県	安八町	1	吹奏楽
14	静岡県	掛川市	1	吹奏楽
15	愛知県	犬山市	1	吹奏楽
16	三重県	名張市	1	コンピューター
			2	茶道
17	兵庫県	淡路市	1	吹奏楽
18	奈良県	生駒市	1	吹奏楽
19	岡山県	赤磐市	1	吹奏楽
20	山口県	周南市	1	吹奏楽
21	徳島県	徳島市	1	オーケストラ
			2	民芸（人形浄瑠璃）
22	香川県	琴平町	1	吹奏楽
23	福岡県	中間市	1	吹奏楽
24	熊本県	南関町	1	吹奏楽
25	宮崎県	延岡市	1	吹奏楽
26	鹿児島県	与論町	1	吹奏楽
27	沖縄県	南城市	1	吹奏楽

地域文化倶楽部（仮称）創設支援事業一覧

番号	都道府県	団体名	主な活動種別	
1	北海道	一般社団法人北海道茶道文化振興協会	1	茶道
2	秋田県	大館マーチングバンド TEDAOLE（テダオーレ）	1	マーチングバンド
3	山形県	寒河江市立寒河江中部小学校 地域学校協働本部	1	金管バンド
4	福島県	アーティスト・イン・スクール西会津実行委員会	1	現代美術
5	茨城県	取手文化倶楽部 AFTER SCHOOL MUSICAL	1	ミュージカル
6	群馬県	渋川子ども若者未来創造プロジェクト	1	舞台芸術
7	埼玉県	一般社団法人さいたまスーパーシニアバンド	1	吹奏楽
8	埼玉県	有限会社東京演劇アンサンブル	1	演劇
9	埼玉県	一般社団法人 全国邦楽器組合連合会	1	和楽器（箏）
10	千葉県	Kashiwa Special Sounds	1	吹奏楽
11	東京都	一般社団法人日本伝統文化の会	1	和楽器
12	東京都	東京大学　アート・クロスロード実行委員会	1	文化芸術活動
13	東京都	プレイキッズシアター	1	舞台芸術
14	東京都	東京邦楽器商工業協同組合	1	和楽器
15	東京都	有限会社 劇団風の子	1	演劇
16	東京都	江戸長唄ごひいき衆	1	長唄
17	東京都	有限会社青年劇場	1	演劇
18	東京都	株式会社オフィスワン・ツー	1	現代演劇
19	東京都	京島長屋文化連絡会	1	長屋文化
20	東京都	江東すみだ大道芸協会	1	大道芸
21	東京都	足立区役所　地域のちから推進部地域文化課	1	音楽
22	東京都	一般財団法人民族衣裳文化普及協会	1	民族衣裳（きもの）
23	東京都	公益社団法人日本芸能実演家団体協議会	1	日本舞踊
			2	三味線
			3	落語
24	東京都	Marimelo株式会社	1	ミュージカル
25	神奈川県	小田原こども舞台芸術クラブ	1	能楽
26	神奈川県	一般社団法人横浜若葉町計画	1	即興ダンス
27	神奈川県	C.C.C.THEATER	1	演劇

地域文化倶楽部（仮称）創設支援事業一覧

28	長野県	一般社団法人シアター＆アーツうえだ	1	演劇
			2	文芸
			3	音楽
			4	芸術
			5	郷土歴史
			6	将棋
29	静岡県	特定非営利活動法人 静岡地域教育芸術協会	1	吹奏楽
30	静岡県	公益社団法人教育演劇研究協会	1	演劇
31	静岡県	袋井市文化協会グループ	1	合唱
			2	演劇
			3	ヒップホップ
32	静岡県	特定非営利活動法人日本地域部活動文化部推進本部	1	文化芸術全般
33	愛知県	有限会社総合劇集団俳優館	1	ミュージカル
34	愛知県	NPO法人むすめかぶき	1	伝統文化（歌舞伎）
			2	日本画
35	滋賀県	大津芸能倶楽部プロジェクト	1	落語
			2	常磐津（三味線音楽）
			3	芝居（コント）
36	大阪府	プレイングラボ	1	演劇
37	大阪府	堺シティオペラ一般社団法人	1	オペラ
38	兵庫県	一般社団法人　江原河畔劇場	1	演劇
39	兵庫県	特定非営利活動法人やんちゃんこ	1	演劇
40	兵庫県	大手前大学	1	演劇
41	兵庫県	特定非営利活動法人ダンスボックス	1	コンテンポラリーダンス
42	兵庫県	株式会社Global Entertaiment-JAPAN	1	タップダンス
			2	大道芸（道化師）
			3	ミュージカル
43	和歌山県	和歌山小さなこどもの歌声倶楽部	1	合唱
44	高知県	（株）千クリエイティブカンパニー	1	ミュージカル
45	高知県	合同会社TC Entertaiment	1	ボーカル
			2	ギター
			3	ジャグリング
			4	アナウンス
46	大分県	ホルトホール大分みらい共同事業体	1	図工/美術
			2	音楽
47	宮崎県	特定非営利活動法人MIYAZAKI C-DANCE CENTER	1	ダンス
48	宮崎県	公益財団法人宮崎県芸術文化協会	1	短歌

地域部活動推進事業

URL:https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721701_01.pdf

No.1 北海道紋別市

Ⅰ．基本情報

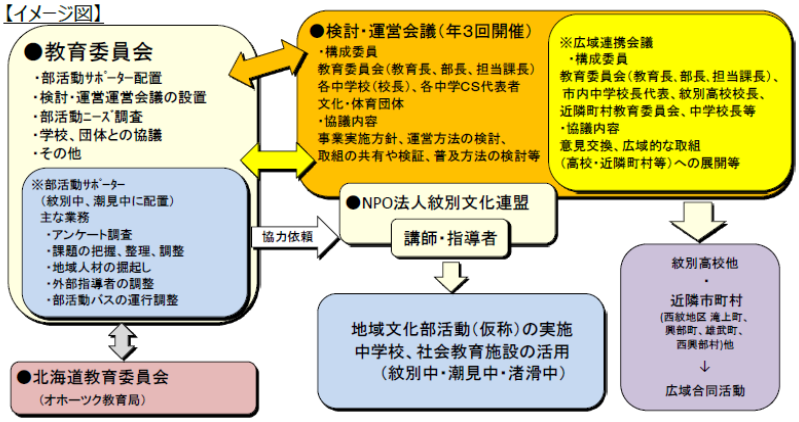
（運営主体）紋別市教育委員会

主な活動種別

茶道、琴、書道、美術

（事業目標）　部活動は、協調性や社会性を育み、体力や集中力を高めるほか、生涯の友人を得たりと、子ども達が成長していく過程で非常に重要な機会であり、その機会を提供するため、三つの課題（持続的な活動、教員の働き方改革、広域的な連携）について、研究を実施する。

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

【北海道の取組】
○校長会、中体連、PTA、教育長会、スポーツ文化団体、再委託先教育委員会、学識経験者（大学教授）等を構成員とした「第１回地域部活動推進協議会」を７月７日に開催し、事業の取組状況、地域移行に向けた各団体の課題や今後の方向性について意見交換を行った。第２回は２月22日に開催した。
○11月20日に「地域部活動推進フォーラム」と題し、YouTubeライブ配信及びアーカイブ配信を行うことで、拠点校の取組を広く道民に周知した。
○平日の部活動と休日の活動の指導の一貫性の確保が課題である。
○コンクール等の主催は基本的に学校関係者が中心なので、今後主催団体をどうしていくのかが課題である。
○単独の市町村だけでは運営できないため、広域連携をする必要があるが、移動手段等の確保が新たな課題である。
○文化系の活動では、一人一人の興味ややりがいを引き出すような種目があるので、もっと地域での受け皿を広げる必要性がある。
○活動を維持するためには、どこまで受益者負担にするのかなど、文化団体等への予算的裏付けが必要である。

【再委託先（紋別市）の取組】
○実施主体である市教育委員会が任用した部活動サポーター２名（会計年度任用職員）が、地域部活動推進に係る事務のほか文化団体等との協議を行っており、教職員への負担はほぼない状況である。学校には、募集案内の配布・回収、休みの連絡などについて協力依頼している。
○地域部活動は、週１回程度の開催で学校部活動との併用も可能とし、活動時間は、学校部活動と同様の時間帯としている。
○各種目に指導者を１名ずつ派遣するよう各文化団体に依頼している。なお、指導者については、後継者の育成も兼ねて他に１名の補助者が同伴している。
○各校の文化系部活動が吹奏楽部と美術部のみの活動であったため、既存の部活動との調整が不要であった。
○生徒数、教職員の減少により、部活動の維持が困難。（学校）
○地域で実施するのであれば、どんどん進めてほしい。（学校）

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

・ 地域指導者が学校部活動の一環として文化系活動の場を子どもたちに提供したことは意義あることと評価している。既に、学校の文化系部活動は吹奏楽・美術部のみとなっていたため、茶道・書道・琴・ダンスの活動は教員の働き方改革には直接的な効果は見られないが、生徒の活動の場が広がったことは本事業の成果と捉えている。
・ 部活動の地域移行というテーマに、教育委員会が主体となり地域指導者が運営に関わるという一つの形態が生まれたことは、学校だけに頼る現行の部活動のあり方に問題提起をしたことになった。部活動を支えるファクターに保護者の存在があるが、本市の小さな取組が地域社会での話題になることで部活動の改善が進んでいくことになると考える。

指導、運営上の工夫

○児童・生徒への指導に関する工夫
・ 指導に関しては地域指導者に一任。単なる「習い事」ではなく、学校関係者以外との交流を通じて学び合うことや子どもたちの自主性を尊重するクラブ活動の在り方をともに創っていくため、部活動の一環であることを理解していただいた。
○運営上の工夫
・ 指導と管理の分業体制構築。運営業務は教育委員会（主に部活動サポーター）が行い、地域人材の活用を支援し、会場準備・整理、関係者への連絡、運営に係る事務、子どもたちの送迎など具体的支援を行った。
・ 合同部活動の観点から、会場校へ生徒送迎を行い、活動時間を決め、学校のきまりである18時完全下校に間に合うよう対応した。

今後に向けた方針・方向性

・ 教職員の勤務実態など地域移行の必要性を地域と共有し、学校と地域が連携し運営上の工夫をするなど、地域の実情を踏まえた最善の方策を考える必要がある。
・ 文化系の講師は、既に職務をリタイヤしている人も多く、平日の放課後の指導も可能だが、高齢であることから、後継者の育成も含めた体制を整える必要がある。
・ 令和４年度より文化連盟に業務委託し、引き続き活動を継続するとともに、持続可能な運営体制を構築していくための協議を関係者と進めていく。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721701_02.pdf:

No.2　秋田県大館市

Ⅰ．基本情報

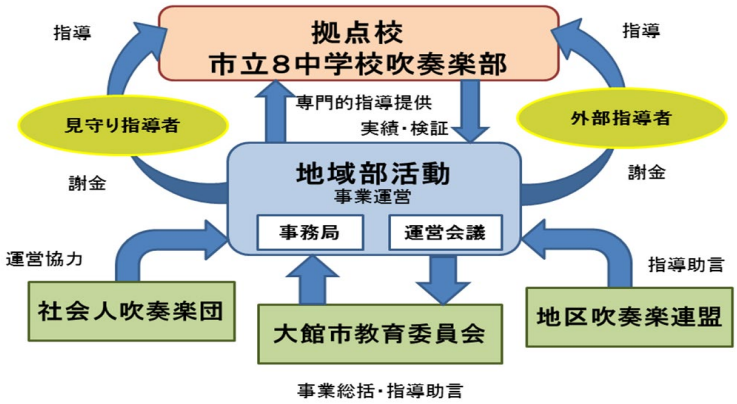
主な活動種別

吹奏楽

（運営主体）大館市教育委員会学校教育課

（事業目標）吹奏楽部の生徒が専門的な指導を受ける機会を保障することにより、表現する楽しさを味わい、部活動に充実感をもつことができる。将来的に吹奏楽指導が学校教育に限定されることなく、地域社会教育として、生涯にわたり吹奏楽に親しむ環境を広げ、市民と共に地域の音楽文化を醸成する。

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

４月：事業説明（市校長会・市教頭会・市吹奏楽連盟）
　　運営会議①（市内各社会人吹奏楽団への個別の説明）
５月：外部指導者の選定６月：事業開始　＊外部指導者による合奏指導（８校×１回）
７月：＊外部指導者による基礎指導（２校×１回）８月：見守り指導者への個別の意見聴取
10月：運営会議②（紙面による中間報告）　　＊外部指導者による合奏指導（８校×１回）
11月：＊外部指導者による基礎指導（１校×２回）
12月：＊外部指導者による基礎指導（１校×１回、２校×２回）
１月：＊外部指導者による基礎指導（１校×１回）、生徒へのアンケート調査
２月：運営会議③　生徒へのアンケート集計・分析、顧問教諭への聞き取り調査
３月：事業のまとめ、来年度の計画作成

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

・昨年度までは、外部からの専門的な指導を受けたいとの希望はあっても、講師謝金、講師の選定や依頼、連絡調整の事務的な手続き等を考えると顧問教諭が二の足を踏んでいたところ、事業事務局がそれらを担うことで、精神的負担、対応する業務が軽減された。
・市内８校が同様に専門的な指導を受ける事ができ、地区全体の機運の向上につながった。
・これまで顧問教諭が個別の楽器の演奏法の指導まで担っていた負担があったが、本事業により、それらを解消する一助になる手応えを掴むことができた。
・指導方法に悩む顧問教諭も多いが、見守り指導者がいることから、顧問も一受講者として集中することができ、外部指導者の指導法を学ぶ機会ともなった。複数の見守り指導者を育てる実践的な研修の場となった。
・基礎練習法については短時間で効率よく、生徒主体で行うという意識改革、練習法の改善が求められており、その課題に応えてくれる外部指導者だったことから、地区全体の意識改革につながった。

指導、運営上の工夫

○児童・生徒への指導に関する工夫
・外部指導者が吹奏楽の指導経験で、音楽以外の生徒指導、部活動の運営など、総合的に指導できた。各校の顧問教師との関係性もよく、平日と休日の指導が連動し、生徒の戸惑いはほとんどなかった。
・楽器の基礎的な演奏法は、県内の演奏家に外部指導者を依頼するなど指導内容を限定することで、様々な外部講師を発掘することができた。
・直接外部指導者に質問できないことも、各校へ身近な見守り指導者が派遣されていることで、生徒の安心につながっている。

○運営上の工夫
・外部指導者が各校を巡回する、各校が１か所の会場に集まるなど色々な形態を試行することができ、それぞれのメリット・デメリットを検証できた。
・外部指導者の指導を保護者会も参観することで、これからの部活動の在り方、部活動ガイドラインを遵守した上での練習の持ち方などを理解してもらうことにつながった。

今後に向けた方針・方向性

・令和５年度から、大館市地域文化倶楽部の本格運営を目指す。吹奏楽分野だけではなく、市内で活動している、文化会館が主催するジュニアコーラス、ヴァイオリンクラブ等、地域の児童生徒が参加する文化活動の諸団体の理解を得ながら、地域文化倶楽部の組織・体制を広げる。
・吹奏楽部の土日の活動内容について、大館市地域文化倶楽部が、市教育委員会・学校・地域と協議の上、年間スケジュールと外部指導者の派遣を調整する。
・楽器ごとの基本奏法の講習は、各校の部活担当者主体でなく、地域の指導者で行い、そのつながりで日常の練習にも地域の指導者が携われる環境を構築していきたい。
・令和４年度は、市立８中学校だけではなく、県立中学校も含めた９中学校の生徒へ対象を拡大し、令和５年度の市全体の地域移行につなげていく。
・地域文化倶楽部が、第三者委員会として苦情窓口の役割も担い、学校や保護者、主催団体との調整ができるようにする。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721701_03.pdf

No.3　栃木県佐野市

Ⅰ．基本情報

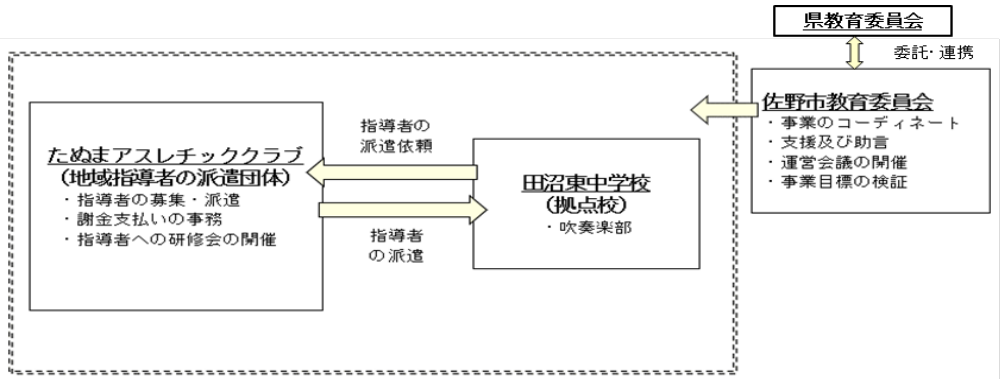
主な活動種別

吹奏楽

（運営主体）委託先　佐野市教育委員会
再々委託先　非営利活動法人たぬまアスレチッククラブ

（事業目標）
本県では、地域部活動の着実な推進と本県の実態に合った部活動改革の方策を検討するために、地域文化部活動と地域運動部活動に係る実践研究を同一中学校で実施し、課題や成果を検証することとした。
【具体的な目標】
○部活動顧問の時間外勤務総時間数の削減　○専門的な文化技術指導による生徒の意欲や技術の向上
○教員の負担感の軽減　　○地域における指導体制の構築

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

【県における活動概要】
　事業の開始にあたり、県においては年間２回の部活動改革推進会議を開催し、拠点校における実践研究の成果や課題を検証するとともに、国の動向を踏まえた本県の部活動改革について検討した。なお、本県は運動部活動と文化部活動の地域移行を一体的に進めることを目標としていることから、文化部・運動部関係者の合同事業として実施した。

【市における活動概要】
　拠点校においては、教員、生徒、保護者に地域部活動を実施することになった背景や目的について説明する機会を設け、事業について理解を図った。また、拠点校、運営団体、市教育委員会が参加する研修会を５月に開催し、留意事項を確認し、教員と地域指導者が同じ認識のもと、地域部活動を開始できるように準備を進めた。
　６月から、月２回の活動を基本に学校施設内において活動を開始し、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う活動禁止期間を除き、地域指導者による指導を行った。また、活動の様子を学校ホームページ等に掲載し、周知を図った。
　活動開始後の10月には、拠点校、運営団体、市教育委員会が参加する会議を開催し、実施状況の確認や指導方法に関する協議を行った。また、指導者派遣が終了した１月には、12月に実施したアンケート調査の結果を分析し、成果と課題を検証した。
　なお、会議の際には、顧問と地域指導者の打合せの時間をもち、活動方針の共有を図る機会とした。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

地域部活動推進事業に関するアンケート調査を実施し、成果として次の回答が得られた。
【教員】
・週末に休養をとることができるようになった。
・教材研究に充てられる時間が増えた。
【生徒】
・技能が向上した。
・部活動がもっと好きになった。
【地域指導者】
・生徒の意欲や技能の向上が感じられた。
【保護者】
・学校と指導者の連携が取れているのであれば、地域で部活動ができることは望ましいことである。
・子どもが、専門的知識を備えている地域指導者の指導を受けられることは良いことだ。

指導、運営上の工夫

○児童・生徒への指導に関する工夫
【スムーズな移行に向けた工夫】
・地域指導者の指導の実施にあたり、はじめの２回の活動は教員が一緒に携わることにした。理由として、指導者と教員が対話をし、生徒の活動状況、必要な配慮や留意点などの情報の共有が必要だったからである。その後の指導者のみの活動に円滑に移行することができた。

○運営上の工夫
【連絡体制に関する工夫】
・欠席生徒がいた場合の家庭への連絡体制を整え、安心して活動ができるように配慮した。急に地域指導者の都合がつかなくなった場合の連絡体制や対応についても事前に共有した。

今後に向けた方針・方向性

【新たな体制・組織の構築】
・地域移行を図っていくためには、事業実践による成果と課題を十分に踏まえ、運営団体の確保や地域の実状に合った新たな体制や組織づくりなどについて検討することが重要である。その際には、教育委員会と文化芸術関係団体の所管部署と成果や課題、取組状況などについて情報共有を図った上で、連携する必要がある。
【兼職兼業による指導者確保について】
・時間外勤務時間が長時間となっている現状を十分に踏まえた上で、教員による兼職兼業によって指導者を確保することを手段の一つとして検討する必要がある。
【周知・啓発について】
・拠点校以外の教員、生徒、保護者に対して、学校部活動から地域部活動への移行の必要性や現状について、周知啓発する。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721701_04.pdf

No.4　埼玉県白岡市

Ⅰ．基本情報

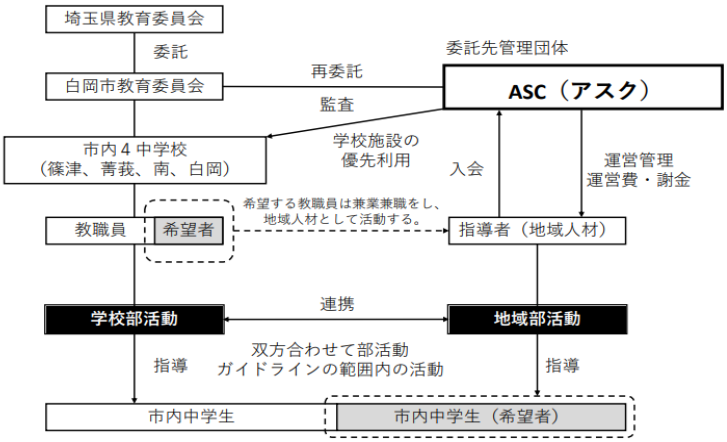
（運営主体）	ＡＳＣ（アスク） ※ＰＴＡのＯＢを中心として地域部活動ために発足した組織

主な活動種別

吹奏楽

（事業目標）	白岡市では、生徒にとって望ましい部活動の環境を構築する観点から、国や埼玉県のガイドラインに則り、「白岡市部活動ガイドライン」を策定し、部活動の適正化を推進している。 現在、国や埼玉県では学校の働き方改革も考慮した更なる部活動改革の推進を目指し、部活動を学校単位から地域単位の取組に移行することが求められている。 本事業は、生徒にとって望ましい部活動の実現を目指すとともに、部活動における教員の負担軽減を図ることを目的に、地域人材の協力を得ながら休日の部活動の段階的な地域移行を進めるために、人材の確保や費用負担の在り方、運営団体の確保などの課題に総合的に取り組むものである。

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

原則、３時間程度の練習（吹奏楽）を週１回
中学校の部活動に準じた活動内容（コンクール等に向けた楽曲の演奏）

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

・教員が休日に従事することがなくなったため、従来の学校部活動と比較して１週につき約３時間の勤務時間を削減することができた。
・本事業では、生徒にとって影響がない形での地域展開を目指しており、これまでと同様の内容で充実した活動をすることができたため、影響は特になかった。
・地域移行による教職員や生徒の成果よりも、教育委員会や管理運営団体としてのノウハウを得ることや、課題の整理をすることができた。

指導、運営上の工夫

生徒、保護者、学校に混乱をさせないソフトランディングを目指した運営を心掛けた。運営団体の受け皿は、ＰＴＡのＯＢを中心とした組織であり、地域部活動のために発足したものである。生徒、保護者、学校、教育委員会をつなげる役割を果たしており、運営上最も工夫した点である。
　中学校部活動よりのシステムにするのか、社会体育やクラブチームのようなシステムにするのかによっても教職員の負担は変わってくると思われる。今回の工夫としては地域部活動を中学校部活動に準じた活動とすることで、教職員の負担を減らせるのではという考えのもと運営している。

今後に向けた方針・方向性

・課題に対する解決策の提案とフォーラム・シンポジウム等の開催

・コーディネーターの設置と運営委員会の開催

・各種説明会等の実施

・人材バンクの設置と活用

・ＩＣＴ機器の活用

（※詳細はURLを確認ください。）

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721701_05.pdf

No.5　千葉県夷隅郡大多喜町

Ⅰ．基本情報

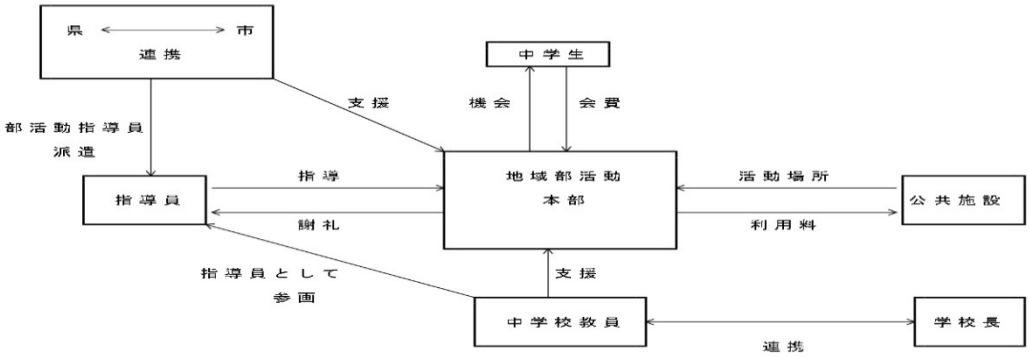
（運営主体）大多喜中学校後援会

主な活動種別

吹奏楽

（事業目標）休日の地域部活動を下記により実践し、持続可能な部活動の運営と教員の負担軽減を図る。
○　移行する部活動数･･･１部活（吹奏楽）
○　地域部活動の実施期間･･･６月～２月
○　活動の頻度･･･実施期間内の週１回（土曜または日曜）３時間以内
○　確保する指導者数･･･外部指導員（常勤及び臨時講師）、兼業教員

団体･組織等の連携



Ⅱ．活動概要

大多喜中学校吹奏楽部は意欲の高い生徒が多く、積極的に活動を行っている。主顧問が家庭の事情で休日の部活動を行うことが難しい。そのため、専門的な知識や技術を持ち、長年、県立高等学校で吹奏楽部の指導をしてきた退職教員に、地域指導者として休日の活動を依頼している。

Ⅲ．成果･課題

本事業による成果

＜生徒＞
･外部講師による専門性の高い指導を受けることができ、意識の高い生徒にとって休日の部活動が充実した。
･財政面での補助により、昨年よりも家庭の個人負担が軽減した。

＜教員＞
･教員は技能面の指導に対する負担が軽減した。
･副顧問は学校の解･施錠の負担が減った。吹奏楽に関する知識がない副顧問は、音楽面の指導に対する精神的な負担から解放された。

＜事業＞
･学校外の施設を活動場所にする際の課題が明らかになった。
･謝金の所得税の処理等、地域部活動の実施主体が完全に独立した事業主となったときの問題点が明らかになった。

指導、運営上の工夫

○児童･生徒への指導に関する工夫
･休日の部活動を専門的な知識や技術を持っている外部講師から指導を受けることで、質の高い充実した活動につながり、生徒の意欲向上や技術向上を図ることができた。
･休日の地域部活動を平日の学校部活動の延長と位置づけて委託することにより、学校部活動での顧問や生徒の取り組みが、地域部活動に十分反映される。

○運営上の工夫
･当初は中学校内での活動を中心に行っていたが、校舎の解錠、施錠の管理を教職員が行うことになり、休日勤務の負担が解消されなかった。休日の教員の負担を減らすため、年度途中から町内の高等学校や町の公民館を利用して活動した。
･持ち運びの難しい、大きな打楽器等は高等学校を会場にすることによって解消された。また、高校生から教えてもらったり、一緒に活動したりすることで技能面が大幅に向上した。

今後に向けた方針･方向性

･地域の実情から、外部の任意団体に部活動全体を委ねる体制の構築は難しいため、校内の部活動を基盤とし、外部講師を招へいすることで、部活動顧問としての教員の負担を軽減していく。

･家庭の事情等、恵まれた希望者だけが恩恵を受けられるといった、学校部活動内の分断が起きないよう、一人も取り残すことなく、すべての部員が意欲的に参加でき、有意義な活動とするための部活動の在り方について模索していく。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721701_06.pdf

No.6 東京都豊島区

Ⅰ．基本情報

主な活動種別

琴、茶道、茶華道

（運営主体）
豊島区教育委員会
駒込中学校PTA
駒中おやじの会

（事業目標）
・地域に活動の場を広げ、披露または参加を継続的に行うことで、段階的に地域の活動としていく。
・地域人材による指導や運営により、教員の従事時間を軽減する。
・持続可能な継続的サポート体制を構築する。

団体・組織等の連携

・豊島区教育委員会が指導者の派遣や謝金の対応を行う。
・区民ひろば駒込・区民ひろば仰高・地域文化創造館・駒込福祉作業所等の協力により披露・参加の発表の場を設け地域に発信・還元する。
・地域の駒中おやじの会や駒込中学校PTAが管理や発表会の運営・運搬等のサポートを行う。

Ⅱ．活動概要

・週あたり琴２回・表千家茶道１回・裏千家茶華道１回、週休日の練習・演奏会のうち、平日は週２回と週休日は月２回を地域の人材を活用して指導・運営を行う。
・夏（納涼）と冬（新春）の発表会を開催し、季節毎の発表会を行う。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

・平日における指導は、週４時間、年間延べ８０時間の削減となった。また、披露の場の活動や引率における指導が年間８回で延べ１６時間の削減となった。

・週休日の発表時においては、１回につき３部延べ７時間の削減となり、準備も含めた教員の関わりが軽減した。

・日本文化部発表会においては、会場設営や準備等の運営をおやじの会が主体で行い、生徒が進行を務め、保護者や地域の方に発表をした。

・区民ひろば駒込と区民ひろば仰高において、茶道部と茶華道部の体験や披露の機会を設定し、参加者募集の掲示を行い、地域の方に参加いただく活動をそれぞれ４回ずつ行った。（感染症拡大のため一部は中止）

・校内の活動時は教員の勤務時間を超えてPTAやおやじの会がサポートする予定であったが、感染症の拡大により、部活動の時間短縮や自粛期間が長く、十分に実施できなかった。

・おやじの会引率・運搬予定であった駒込福祉作業所での新春演奏会は感染症拡大時期となり中止した。

指導、運営上の工夫

○児童・生徒への指導に関する工夫
・平日の活動時間を教員の勤務時間の１７時までとしていた茶道などは地域のサポートにより１時間延長した。
・琴のメンテナンス等は理解を得て外部指導員に一任することができた。
・今後、運搬等のサポートも得ていく。
・茶華道で指導者の知人の指導への協力が得られた。
・琴でも指導者の知人や成人した卒業生の協力を得られる可能性がある。
・発表会に向けた練習回数を地域のサポートの調整により、増やして実施できる。
・活動を広げることで、地域から琴や花器の寄贈があった。

○運営上の工夫
・外部人材の指導者が全活動時の指導に関わることができ、生徒への十分な指導を行うことができる。
・平日の活動では指導者が放課後より少し早く準備いただき、勤務時間終了後の活動をサポートいただくことで、部員である生徒の２時間の活動時間を確保できる。
・年度当初の部活動紹介において、外部指導者が全校生徒に向けて話し、掲示物でも募集を行った。
・教員はPTA会長と連絡を取り希望の人数等を伝えることで、会長からPTAやおやじの会のメーリングリストにより周知やサポート人員の確保を行っている。

今後に向けた方針・方向性

・夏（納涼）と冬（新春）に発表会を地域のサポーターにより開催、いずれ季節毎の発表会としていく。

・区民ひろばや町会の掲示板に活動への参加者募集の広報を行い、地域の方に参加いただく活動を今年度は４回ずつ予定したが、運営上サポートの無理のない範囲で回数を増やす。（毎月１回ずつ実施する等）

・おやじの会の提案により、染井西福寺や駒込日枝神社（駒込山王会館）での披露や練習を計画していく。

・教員は活動日程の把握や連絡を行い、活動時は全時間参加いただける外部指導員に任せ、必要に応じてサポートを依頼する体制を整える。

・ソメイヨシノの発祥地であり、六義園や染井墓地などの日本文化を地域の特色としており、その地域の中で、生徒が発表会等を開き、地或に発信することで、地域の特色に還元するとともに「地域の中の部活動」として成長させていく。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721701_07.pdf

No.7 神奈川県秦野市

Ⅰ．基本情報

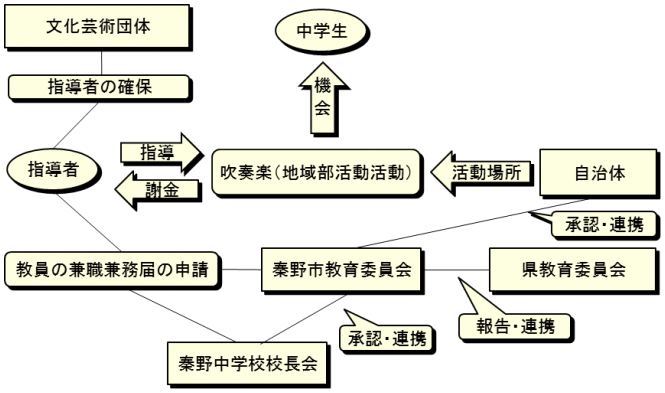
主な活動種別

吹奏楽、演劇

（運営主体） 秦野市教育委員会（教育指導課）

（事業目標） 教員の働き方改革の観点から、秦野市内の公立中学校の休日の文化部活動を段階的に地域移行していくことに向けて、指導者の人材確保や活動に伴う費用負担の在り方等の課題に総合的に取り組むことで、より効果的で質の高い文化芸術活動の機会を確保できるようにして、中学生をはじめとする青少年にとってふさわしい文化活動環境を実現するため、今ある学校部活動の在り方を柔軟に捉えて、将来に向けて持続可能な部活動の在り方を整えていくことを目的とする。

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

（定量的観点）
・事業開始当初は、休日の部活動に顧問教職員が参加しないことに不安を感じている生徒が多くいたため、これまでの学校部活動と同じように顧問教職員が休日の部活動に参加する形を取っていたが、事業が進むにつれて、休日に顧問教職員が部活動に従事しないような体制になってきた。
・本事業での指導者を「地域部活動支援協力者」として実施要項等を作成し、南中学校吹奏楽部には教育指導課から９名（教職員３名・教職員以外６名）にその職を委嘱した。
（定性的観点）
・休日の部活動そのものに大きな変化はないので、生徒は大きな負担は感じていなかった。
・顧問教職員としては、「自分の仕事ができる」「休める環境づくりになっている」との意見があった。また、学校内で部活動をしたい人に合わせる体制ではなく、部活動をする、しないを選択できる環境にしていくことが大切だとの意見もあった。
（以上、抜粋）

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

・10月から１月までの秦野市立南中学校の休日の部活動実施日は16日であり、そのうち３名の部活動顧問教職員が携わった日は、平均で7.6日だった。このことから、活動開始当初に目標とした、「休日の部活動に係わる教職員の勤務時間を25％減少すること」について、達成することができた。

・本事業の推進について、手探りで始めたが、75％以上の教職員が肯定的に捉えていることは、大きな成果と考える。

指導、運営上の工夫

・指導者には秦野市教育委員会が作成した「地域部活動指導ガイドブック」を配付して、研修を行った。

・生徒の活動については、部活動ガイドラインに沿った活動時間や活動日数とした。

・拠点校である学校の部員が主に活動している。

・民間企業とのタイアップ等については課題があるが、今後、検討していきたい。

・楽器等の用具については、原則として、個人持ちを使用しているが、吹奏楽に必要な学校備品として一部の楽器について借用しているかたちとなっているため、今後の検討課題である。

今後に向けた方針・方向性

・令和４年度も拠点校での取組を継続していき、市内の先行事例として、他校に情報共有を図っていく。

・「部活動にこれまで通り携わりたい教職員」に対しては、兼職兼業を推進していく。
・学校運営協議会等で地域人材の発掘のための検討を行い、開かれた学校づくりを目指していく。

・令和４年度は、本事業は教育委員会だけでは活動を維持することが難しいため、参加対象者を教育委員会担当者と首長部局担当課の担当者とした連絡協議会・連絡会を県教育委員会主催で開催し、令和５年度に向けた各市町村における「地域部活動」の在り方を検討・計画をすすめる。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721701_08.pdf

No.8 新潟県胎内市

Ⅰ．基本情報

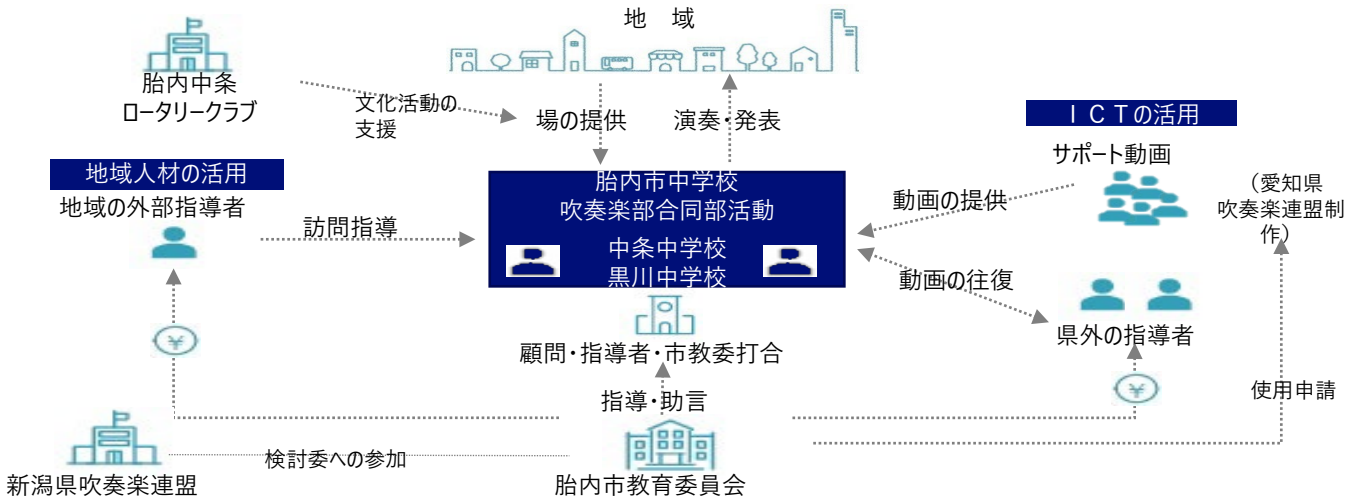
主な活動種別

吹奏楽

（運営主体）　胎内市教育委員会
胎内市立中条中学校、胎内市立黒川中学校

（事業目標）
・　外部指導者やICTを活用した合同部活動を実施することを通して、部活動顧問の負担軽減を図る。
・　文化部活動の地域部活動への移行の在り方について検討し、令和４年度から胎内市内吹奏楽部の休日の地域部活動を段階的に実施する。

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

地域移行に向けた吹奏楽部の合同部活動を、地域人材とＩＣＴの活用を主な内容として実施した。

①地域人材の活用
　共通の外部指導者による訪問指導を２つの中学校に対し定期的に実施
②ＩＣＴを活用した練習・指導法の工夫
・サポート動画による練習（タブレットの活用）
　インターネット上のサポート動画（愛知県吹奏楽連盟制作）を活用した個別練習
・遠隔地の指導者によるリモート指導（双方向の動画のやりとり）
　県外（埼玉及び千葉）の指導者からの動画のやりとり（課題→返信）による指導
・編集による擬似的な合同演奏（ＩＣＴ機器の活用）
　個別の学校で練習、録音した曲をＩＣＴ機器で編集、合奏曲にして地域で発表
③地域移行に向けた検討会議の開催
　学校、保護者、地域等の関係者による検討会議で地域移行の方策を検討

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

・ＩＣＴ機器(タブレット等)とインターネット等の活用により、地方小都市においても都市部の優れた指導者の指導に接することができた。(愛知県吹奏楽連盟によるサポート動画の活用)
・ＩＣＴ機器（タブレット、音楽用ハンディビデオレコーダー等）を活用して、遠隔地の指導者との動画のやりとりによる専門的な指導が受けられた。(遠隔地の指導者によるリモート指導)
・地域人材を市内吹奏楽部の共通の外部講師として定期的に派遣したこと(地域人材の活用)により、上記２つと合わせ指導にかかる教員の負担軽減が図られた。
・学校規模や環境にかかわらず優れた指導を受けられる機会が増え、生徒の意欲が向上した。

指導、運営上の工夫

○児童・生徒への指導に関する工夫

・新型コロナウィルス感染拡大防止のため集合しての合同活動が実施できなかったため、各校で同じ曲を個別に練習し、その録音を編集して擬似的な合奏曲を作ることを目標に合同活動をすすめた。
・合奏曲等をはじめ演奏等の発表を地域で積極的に行うことで生徒の活動への意欲、成就感を高めた。

○運営上の工夫

・地域の外部指導者を中心に県外の指導者と連携したり、市教育委員会から要請して愛知県吹奏楽連盟の支援を得たりするなど、広域的な指導・支援体制の構築に努めた。
・練習にタブレットを活用したり、活動に対する意見や感想の集約にwebアンケートを活用するなど、ＩＣＴの活用で効率的な運営に努めた。
・事業の推進・検討のための委員会に、新潟県吹奏楽連盟、胎内市ＰＴＡ連絡協議会、中条胎内ロータリークラブ等から参加してもらい、地域での推進体制の構築に努めた。

今後に向けた方針・方向性

・令和４年度は引き続き、外部指導者やＩＣＴを活用した合同部活動をすすめ、部活動顧問の負担軽減、効果的・効率的な活動の在り方について、実践研究をすすめる。
・ＩＣＴの活用（サポート動画や、県外指導者からのリモート指導）により、生徒の自主的な活動を工夫して、専門性が無くともできる見守り活動への参画など地域からのより広範な支援・参画体制を検討する。
・文化活動に積極的な地域の団体や愛好者等と連携して、生徒の活動を支援する環境の整備を図る。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721701_09.pdf

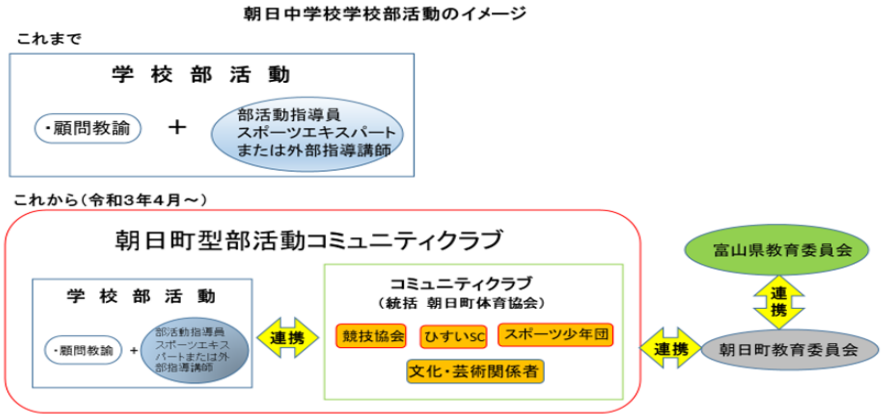
No.9 富山県朝日町

Ⅰ．基本情報

（運営主体）　朝日町型部活動コミュニティクラブ	主な活動種別：吹奏楽

（事業目標）
・学校における文化・芸術部活動に要する労働時間の削減を図ることによる教員の負担軽減
・学校と地域人材（指導者）とが連携・協力した地域部活動のあり方を検討
・将来に渡って持続可能な地域部活動運営に係る費用負担の内容及び支出等のあり方の検討

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

地域と学校が連携・協力した「朝日町型部活動コミュニティクラブ」を設立・運営し、学校教員の負担を減らすとともに、地域住民の協力を得て、生徒のスポーツ、文化・芸術環境を充実させるとともに、生徒の自主性・主体性を尊重した多様な活動ができる場を提供する。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

・地域クラブへ移行する取り組みについて、指導者、教員、生徒、保護者アンケートにおいて、「良い」「やや良い」など肯定的な回答が高い割合を占めた。

・生徒からは、指導の充実、体力・技術の向上について、ほとんどの生徒が「とても感じる」「やや感じる」と 答えている。
【吹奏楽部：北陸大会へ初出場で銅賞】

指導、運営上の工夫

・学校部活動及び地域クラブの活動の施設利用等について、情報共有ソフト（Teams）を利用して、学校、教育委員会、体育施設管理者で情報共有をしている。
・地域クラブ指導者、学校部活動顧問、町教委との全体調整会議を開催し、活動により生じた課題等の解決に向けた協議をしている。
・地域クラブに参加するにあたり、参加申込書において保護者より保険への加入及び緊急連絡先の使用の同意を得ている。
・地域クラブごとの緊急連絡網を作成。（指導者、顧問、学校、教育委員会等）

今後に向けた方針・方向性

・吹奏楽部については、楽器の運搬や活動場所の確保が難しく、中学校での活動に限られる場合が多い。
・しかし、校舎使用には施設管理が伴うため、顧問教員が兼職兼業で関わらざるを得ない状況である。
→令和５年度以降は、退職した教員経験者に施設管理の業務を依頼するなど、指導者以外の人材を確保し、専門の指導者が指導に専念できる体制を整える。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721701_10.pdf

No.10 福井県敦賀市

Ⅰ．基本情報

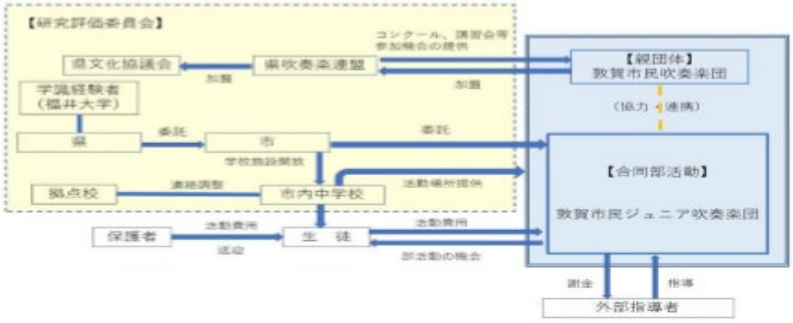
（運営主体） 敦賀市民ジュニア吹奏楽団

主な活動種別

吹奏楽

（事業目標）
①吹奏楽部を有する市内４中学校全ての休日部活動地域移行、地域吹奏楽ジュニア団体との連携
②中学校吹奏楽部の合同部活動の実施、アンサンブルコンテストへの合同チームでの出場
③練習場所、楽器の確保に向けたシステムの構築
④持続可能な活動となり得る受益者負担額の設定
⑤コーチ陣（市内の楽器愛好家、演奏家等）の配備、学校部活動顧問の関わりかたの取り決め
⑥ジュニア団体と一般団体の合同演奏会の実施

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

これまで、敦賀市民吹奏楽団員が各中学校吹奏楽部の依頼に応じて演奏指導を行ってきた。地域の音楽文化の向上・発展に寄与したいという団員の思いと、教員の働き方改革の実現に向け、敦賀市民吹奏楽団を親団体とした「敦賀市民ジュニア吹奏楽団」を立ち上げた。学校部活動への支援を目的に、月２回土曜日に活動を実施。そのうち１回は基礎合奏練習（親団体の団員も参加）、１回は外部講師による楽器別講習とし、個々の技能向上を目指す。会場への移動は各中学校を経由する借り上げバスで行う。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

・地域部活動に参加した生徒の９７％が、地域部活動に満足していると回答している。外部指導者から専門性の高い技術指導を受けられたり、市民吹奏楽団員と一緒に合奏する中でわからないことをすぐ訊けたりでき、生徒にとって有益な活動が展開できている。保護者からも同様の意見が聞かれた。
・学校部活動では、以前よりも生徒同士の教え合いが見られたり参加している団員の技術向上が見られたりするなど、地域部活動が好影響を与えていることがわかる。
・顧問・副顧問８名のうち半数が、部活動に対する負担感が減ったと回答している。月２回の土曜日に学校部活動に携わらなくてもよくなり、時間的な負担が減少した。

指導、運営上の工夫

・個々の生徒の技能向上のため、合奏指導と楽器別講習を交互に実施。
合奏指導には、大人の吹奏楽団員が一緒に合奏に入り、合奏時にわからないことを生徒がすぐに訊くことができる環境にしている。また、基礎合奏を中心とし、生徒の譜読みに充てる時間の軽減を図っている。
楽器別講習では県内の楽器指導者を招聘し、個々の演奏技術、パート内のアンサンブル技術を高めている。
参加生徒が多い楽器については、指導者を増員して対応している。
（新型コロナウイルス感染症の収束状況によっては、県外指導者の招聘も計画している）

今後に向けた方針・方向性

・新型コロナウイルス感染拡大のため、令和３年度の実施が予定の半数以下となり、事業の検証が不十分であったため、令和４年度も引き続きモデル事業を実施する。〈教員の負担軽減〉
・当該校が練習会場となる日程を年度当初に明示。顧問以外の教員による学校開放や学校開放に携わった教員への手当の支給（兼職兼業）について方針を決定（敦賀市、令和４年４月～）
・年間活動計画を作成し、学校部活動との連携について検討会議を実施（敦賀市・敦賀市中学校吹奏楽部会、令和４年４～５月）〈保護者の費用負担〉
・年間に必要な経費を算出し、令和５年度からの受益者負担額を設定（敦賀市民ジュニア吹奏楽団、令和４年度）〈地域への周知〉
・３年生引退前に地域ジュニア吹奏楽団としての演奏会を開催（敦賀市民ジュニア吹奏楽団、令和４年８～９月）

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721701_11.pdf

No.11 山梨県西八代郡市川三郷町

Ⅰ．基本情報

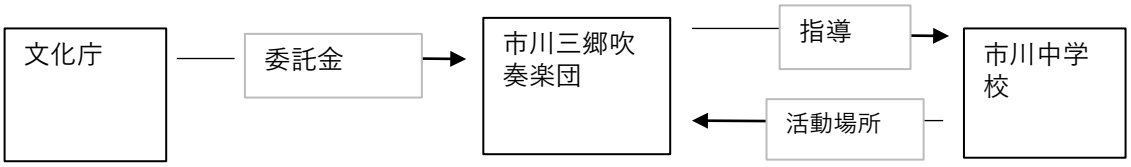
（運営主体）市川三郷吹奏楽団

主な活動種別

吹奏楽

（事業目標）教員の働き方改革が進められている現在、部活動の活動制限が図られている。市川三郷吹奏楽団が市川中学校吹奏楽部指導に関わることで、教員の多忙化解消、専門的指導に繋がり、より一層学校生活の活性化が推進される。

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

土日のどちらか半日、パート練習やセクション練習、合奏に混ざって生徒にアドバイス等を行った。山梨県吹奏楽コンクールでは、銀賞を受賞することが出来た。
生徒からは「今後も積極的に指導を受けたい」、顧問からは「専門的な指導や指導を任せられる部分があったことで負担の軽減になった」というアンケート結果を得られた。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

・吹奏楽では様々な楽器を使用する。楽団員がそれぞれの担当楽器毎に指導を行うことで、専門的な指導を行うことができた。その結果、生徒の知識や基礎力の向上につながり、山梨県吹奏楽コンクール、山梨県アンサンブルコンテスト両大会において、前年度より格上の賞を受賞することができた。このことは、生徒のモチベーションの向上につながっていると考える。
・生徒のアンケートからは、「今後も積極的に指導を受けたい」という結果が得られた。
・顧問のアンケートからは、専門的な指導を行ってもらったり、指導を任せられる部分があったことで負担の軽減になった」という結果が得られた。

指導、運営上の工夫

〇児童・生徒への指導に関する工夫
・パート毎の指導を基本として行った。その際、練習内容や次回までにできるようになって欲しいこと等をノート（各パート１冊用意）にまとめ、生徒がいつでも見返せるようにした。また、指導者も毎回同じとは限らないため、次回の指導者も前回の内容がわかるように記入ができるよう、統一した形式を準備し記入するようにした。
・大会前は指導者を増員して対応し、生徒一人一人に目がいくようにした。
・生徒の習熟度を見ながら、パート毎の指導だけでなく個人の練習を行う等、その都度生徒に合った対応を心掛けた。
・生徒に指導を行うだけでなく、楽団の練習の見学をしてもらうことで、客観的に自分達の練習を振り返る時間を設けた。生徒も刺激を受けたようで、モチベーションアップに繋がった。

〇運営上の工夫
・指導日を毎月決めるのではなく、半期ごと（４月～８月、９月～２月）とすることで、楽団・学校双方の予定が立てやすく見通しを持った指導が可能であった。
・毎月、指導報告を行い、まとめたものを楽団内で共有した。各パートから挙がったよかった点や課題点を共有することで、バンドとしての課題も見え指導に活かせた。
・半期ごとに生徒・顧問へのアンケートを行った。アンケート結果を踏まえ、指導へ活かすよう努めた。

今後に向けた方針・方向性

部活動を地域移行することで、一般の吹奏楽団の後進育成に繋がると考える。山梨県は吹奏楽人口が少ないため、楽団を維持する意味でも、地域に根差した活動を行い将来の楽団員確保を考えることは重要である。その際、練習場所を確保することが第一の課題であると考える。学校外での指導ができるよう、学校と市町村と連携を取り練習環境を確実に整える必要がある。
それを踏まえて、令和４年度は町の施設を優先的に利用し、学校外での部活動を試行する。生徒の安全面に関して、連絡網等の作成を中学校に依頼し、楽団・中学校で連携できるようにする。それに伴い、生徒の個人情報（アレルギー等も含む）共有の安全管理について検討、構築を目指す。活動場所や経費に関しては、市町村に協力を仰ぎ継続的に指導ができる体制の構築を図る。また、指導体制も楽団内の負担が分散されるよう練習方法について検討する。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721701_12.pdf

No.12　長野県長野市

Ⅰ．基本情報

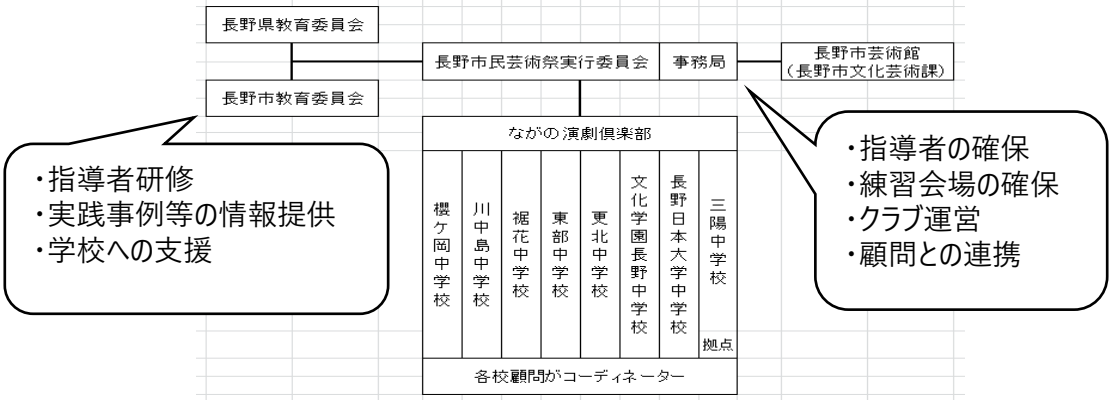
（運営主体）ながの演劇倶楽部

主な活動種別

演劇

（事業目標）　文化芸実団体と連携した地域文化活動の在り方を検証する
・８校合同による文化活動拠点の構築
・定期的な活動実施
・保護者の負担を最小限に抑える資金運営
・地域部活動での専門的な指導と多様な活動機会の保障

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

・定期的な部活動の指導
・演劇部がない学校や、演劇部に属さないが演劇に取り組みたい生徒を集めてのワークショップ
・指導者は４人を予定
※新型コロナウイルス感染症の感染予防による活動自粛で、大人の演劇活動も自粛しているため、計画通りの活動が実施できていない。

【定量的観点】
・顧問は、演劇経験と知識が不十分なため、指導への不安があることから、日常の部活動における基本的な指導法についての研修の機会に位置付ける。

【定性的観点】
・顧問は、指導への心理的負担軽減や、休日の時間的な負担軽減につながることから、肯定的な意見が非常に多い。
・子どもや保護者は、専門的な知識や技術を学べる場、他校の生徒との交流の場であることから、肯定的な意見が非常に多く、定期的に活動することを望んでいる。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

長野市文化芸術課が主催した「中学校演劇部のためのワークショップ」（２回）へ、倶楽部より講師として３人参加した。教職員が演劇について、知識不足に対する精神的な不安がある中、今後の部活動指導の参考としたり、生徒が主体的に活動できる練習方法等を教職員自身が学ぶ機会としたりできた。
そのほか、部活動の指導や演劇部に属さない生徒を集めてのワークショップ等を実施したかったが、コロナの影響により断念した。コロナの感染状況を踏まえ、次年度以降に実施を検討したい。

指導、運営上の工夫

○児童・生徒への指導に関する工夫
・生徒にとっても、教職員にとっても、分かりやすい指導
・誰もが心から楽しめる雰囲気づくり
○児童・生徒への指導に関する工夫
・指導者同士が指導方法等について頻繁に打合せを行う。
・教員が簡単に指導できるよう、マニュアルを作成する。
・時代を鑑み、ＩＣＴや動画配信等を活用した活動を視野に検討している。

今後に向けた方針・方向性

・部活動の指導については、定期的に学校に出向いての活動は可能と思われるため、次年度計画を立て講師による指導を行う。また、成果として、文化祭での発表などを目標に指導を行う。
・生徒や教員への指導や情報提供について、ＩＣＴや動画配信等の活用も検討している。
・拠点校を中心に、ワークショップを開催する。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721701_13.pdf

No.13 岐阜県安八郡安八町

Ⅰ．基本情報

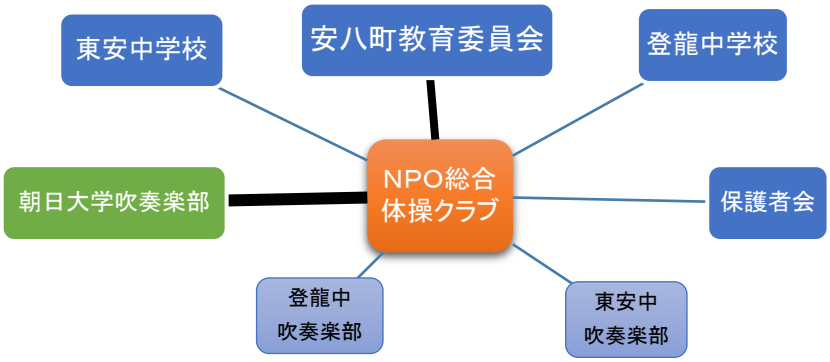
（運営主体）特定非営利活動法人NPO総合体操クラブ

主な活動種別

吹奏楽

（事業目標）持続可能な部活動の運営と、教員の負担軽減の両方を実現する。
吹奏楽部の休日の部活動へ地域クラブから専門の知識や技術を要する指導者を派遣し、部活の質の向上と教員の負担軽減を実現する。初年度はお試し期間とし、年間5回程度の地域移行を実施し、保護者や教員へ本事業の趣旨を理解度を高める。

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

文化部のみではなく、運動部も含めた部活動の地域移行に関する説明会・アンケート・パイロット事業を行う。教員が指導を行う場合は地域指導者としてカウントするため時間数は9時間減少。しかしながら、コロナの影響で予定回数ができなかった。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

○現状の把握
・400名の保護者、35名の教員、6部活動で実態調査を実施。部活動の受託に向けた課題を明らかにするために、保護者等に対してアンケートを実施し、クラブ活動自体の試験運営を行った。

○アンケートの分析結果からわかったこと
・部活動に8割の生徒が加入しているが、週末の実施回数が部活動指針より多すぎる部があること。
・学校部活動費で賄えない部分の保護者負担は種目によって様々である。
・財政的にも自立し、持続可能な部活動とするためには、保護者に対して必要経費の内容や金額について十分な理解を深めることが非常に重要である。

指導、運営上の工夫

○児童・生徒への指導に関する工夫
・コロナ禍での指導なので、なるべくパートごとに場所を変えたり、話すときはマスク着用。
・基礎を繰り返し行うこと。
・数少ない指導なので、質問等を多くする。

○運営上の工夫
・アンケートは直接事務局に回答がくるように、オンラインで行った。
・結果は全てフィードバックした。
・コロナの関係で、少しでも人数を少なくするために、大学生のパートリーダーは途中から中止し、教師一人の指導とした（学校側の要望）。
・コロナのまん延防止期間が長く、部活動がほとんど中止になったことで、臨機応変に対応することになった。

今後に向けた方針・方向性

○令和5年度からの段階的な地域移行に関する方針・計画
・校舎内のセキュリティ問題を解決するために、学校外での活動とする。
・指導者の問題として、交響楽団等に依頼すると、保護者負担が高額となり、教員に引き続き依頼する場合は、過重労働問題が解決されない。
・教員の問題として、学校部活動は異動があっても誰かが担当すれば部活動がなくなることはないが、地域移行した場合、指導している教員が異動すればたちまち指導者不在で地域部活はできなくなる。それを防ぐためにも、教員は勤務校では指導しない、もしくはセカンド指導者になるべきと考える。指導したい教員は、居住地の地域指導者として活躍してもらいたい。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721701_14.pdf

No.14 静岡県掛川市

Ⅰ．基本情報

（運営主体）　掛川市教育委員会

主な活動種別

吹奏楽

（事業目標）　現在の部活動には、生徒・教員数の減少、教員の多忙化、生徒・保護者のニーズの多様化等の様々な課題が挙がっている。このような課題を解消し、生徒・教員にとって望ましい部活動を行うための体制や環境の整備等の仕組みの構築を目指す。本事業を通して、段階的に学校部活動を地域に移行するための手立てや仕組みを実践的に研究し、その成果等を県内に広めることで、モデル市以外でも、各地区や市町の実情に応じて部活動の地域移行が実施できるようにする。

団体・組織等の連携

本事業における運営主体の掛川市教育委員会は、掛川市立城東中学校を拠点校の中心に設定するとともに、活動主体として、特定非営利活動法人掛川文化クラブに再々委託した。掛川文化クラブは指導者や学生ボランティアを集め、練習会や体験会等の運営に当たった。この掛川文化クラブは学校に吹奏楽部がない生徒やその他の文化部や運動部に所属している生徒にとって、新たに音楽活動（吹奏楽、弦楽、合唱）を行うことのできる場となった。また、地域の楽団に所属する演奏家や高校生などのボランティアの支援を受けながら、質の高い指導を受けることのできる環境をつくることで、生徒の演奏技術の向上につなげることができた。

Ⅱ．活動概要

掛川文化クラブは水曜日（全12回）と土曜日（全21回）に掛川市立城東中学校や市内公民館、掛川市生涯学習センター等を拠点として活動を行った。特に拠点校である城東中学校の吹奏楽部員が掛川文化クラブの活動に参加できる機会を設け、地域人材による指導や部活動顧問の負担軽減などについて成果や課題を明らかにするための実践的な研究を行った。

平日については部活動顧問による指導に加え、掛川文化クラブのスタッフが部活動指導員として指導に関わることで、顧問の学校業務に携わる時間を確保するだけでなく、休日の掛川文化クラブでの活動と関連付けることができた。

休日については、10月より月に１回程度、吹奏楽部と掛川文化クラブの活動時間を調整し、吹奏楽部員が掛川文化クラブの活動にクラブ会員として合同で練習した。また、11月27日には掛川文化クラブと市内中学校吹奏楽部の合同練習会を開催し、地域のクラブで音楽活動を行うことのよさを伝える機会を設けた。さらに、１月22日には成果発表会を開催し、クラブ会員の発表の場を設けた。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

（顧問の視点）
◆合同練習や吹奏楽交流会が開催された10月～12月の城東中学校吹奏楽部顧問の休日の部活動従事時間は、一昨年度に比べて削減することができた（一昨年度は48時間、今年度は43.5時間、約10％減）。

（参加した児童生徒の視点）
〇掛川文化クラブの活動に満足している。
①これまでの掛川文化クラブとの合同練習会に満足している。
②地域の指導者による技術指導に満足している。
③今後も地域の指導者による指導を受けたいと思う。
④掛川文化クラブに参加し、音楽活動に取り組みたいと思う。
⑤将来、地域の楽団に参加し、音楽活動に取り組みたいと思う。

（保護者の視点）
◆「地域で音楽活動できる場所が少ないことから、掛川文化クラブのようなクラブができたことはとてもうれしい」（クラブ会員保護者の感想）という声が聞かれるなど、本事業を期待を寄せる保護者が多かった。

指導、運営上の工夫

（指導上の工夫）
・地域の市民楽団に所属する楽団員が指導した。長年、楽器の演奏を経験していることに加え、社会人になっても音楽活動を継続しているため、生徒に音楽を生涯にわたって楽しむことのすばらしさを伝えることができた。
・各パートに指導者がいるため、学校部活動ではできないようなきめ細かな演奏方法の指導ができた。また、楽器の状態確認やメンテナンスの方法などの技術指導以外の指導も実現した。
・学校の校舎を使用することで、感染予防対策を徹底しながらパート別の練習を行うことができた。

（運営上の工夫）
・掛川文化クラブは地域の楽団を運営するスタッフが関わって運営されている。そのため、地域指導者の確保や発表会等の運営など、地域団体の良さを生かした運営ができた。
・掛川市教育委員会が中心となることで、募集チラシの配布や休日の校舎使用、各校の吹奏楽部同士の連携、交流会の案内配布など、拠点校以外との連携もスムーズであった。
・掛川市教育委員会を中心に市内小中学校で使用されていない楽器を集めたことにより、活動に十分な数の楽器を確保できた。
・学校の校舎を活用することで、会場費用の負担を軽減した。

今後に向けた方針・方向性

1　部活動の地域展開方針
（１）　方針
平日も含めたすべての部活動を地域クラブ化する。
また、ニーズに応じた新たなクラブを設置する。
（２）　管理体制
本研究で連携した掛川文化クラブのような市民による地域クラブの設立には大きな労力が必要であり、他の種目に横展開するためには指導者だけではなくクラブの管理運営をする人材を確保しなければならず、持続可能性の点からも課題が多い。そこで、一般財団法人掛川市文化財団と連携して、クラブの管理運営を担う「地域クラブ管理事務局（仮称）」の設置により、現在の学校が管理する部活動を事務局が管理する地域クラブに移行し、会員や会費の管理、指導者の派遣などを事務局が担う体制にする。このように管理運営と指導を分業制にすることで、様々な分野において指導者が参画しやすい環境を整える。今後、掛川市の文化部活動は、管理事務局が管理する文化系の地域クラブと掛川文化クラブのような市民団体が立ち上げた地域クラブに代わる。
2　地域移行スケジュール
令和４～８年度
・部活動地域展開基本計画策定
・地域クラブ管理事務局設立準備
・公認クラブ活動支援　・指導者確保、育成
・市民への広報　・部活動数の適正化検討
・会場、指導者調整　他

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721701_15.pdf

No.15 愛知県犬山市

Ⅰ．基本情報

（運営主体） 犬山市教育委員会

主な活動種別

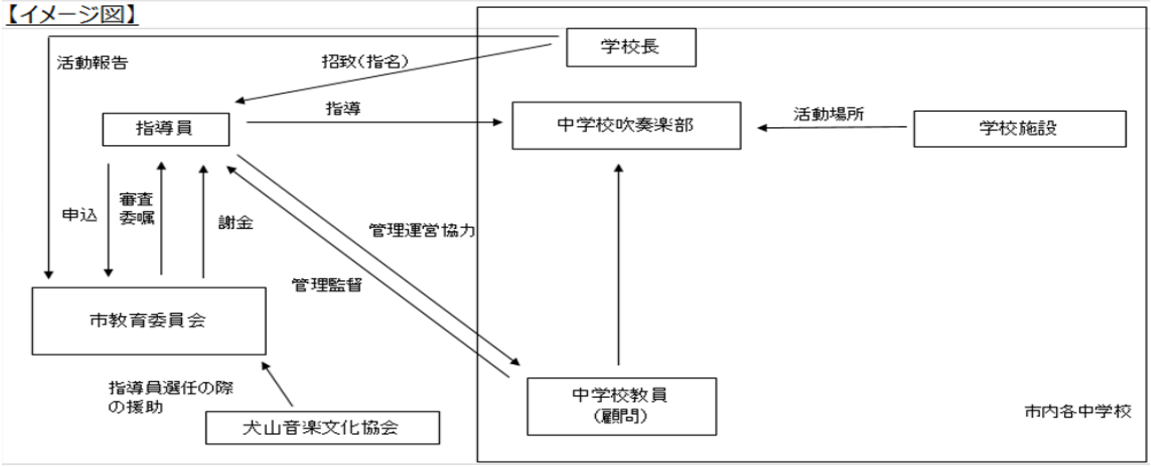
吹奏楽

（事業目標）・楽器や技術レベルに応じて、各校が希望する人材を確保（委嘱）し、ニーズに対応した体制を確立する。
・年間の指導時間・活動時間として、1校あたり130時間程度、市内４中学校で520時間確保する。
・地区大会での受賞や、県大会への出場を目指すなど優秀な成績を残す。

団体・組織等の連携

拠点校名：城東中学校を含む犬山市内４中学校

【イメージ図】



Ⅱ．活動概要

拠点校を城東中学校に置き、市内４中学校の吹奏楽部の活動充実を図るため「犬山市立中学校吹奏楽部部動指導員設置要綱」に基づき、専門的なスキルを有し、生徒への技術指導が可能な地域の指導員を委嘱し、各校の実情と希望により派遣（中学校が招致）した。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

専門的なスキルを有する指導員を委嘱することで、教員による技術指導の負担は軽減されている。

生徒も指導員により、正しい知識や技術を身に付けられることや、専門的な指導員に教えてもらえることで生徒が積極的に学ぼうとするなど、技術的な向上だけではない成果が得られている。

指導、運営上の工夫

○児童・生徒への指導に関する工夫

技術指導以外に楽器のメンテナンス方法や、選曲アドバイスも行っている。また、生徒が楽器購入を希望した際には、生徒・保護者へ指導員と教員とで連携してアドバイスやサポートも行っている。

○運営上の工夫

・専門的な技術を有した指導員を確保するため、犬山音楽文化協会に指導員の面接を依頼するなど地域団体から援助を受けながら指導員を委嘱している。

・顧問から生徒・保護者へ、指導員による専門的な技術指導を受けられていることを周知するなど、充実した体制となっていると認知してもらっている。それにより、生徒の学ぶ姿勢へと繋がるよう教員による指導も行っている。

今後に向けた方針・方向性

現在、専門的な知識を有した指導員による部活動指導を実施しており、学校部活動を地域移行している。しかし、実施場所が学校内であるため教員が出勤している状況である。そこで教員の負担軽減という観点から実施場所や、実施方法の検討を行う。

また第三者機関の意見を参考にしつつ検討を行う。

学校以外の場所に活動の場を一部移し、地域移行を実施した場合、生徒の安全管理を指導員が実施できるような制度作りを検討する。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721701_16.pdf

No.16　三重県名張市

Ⅰ．基本情報

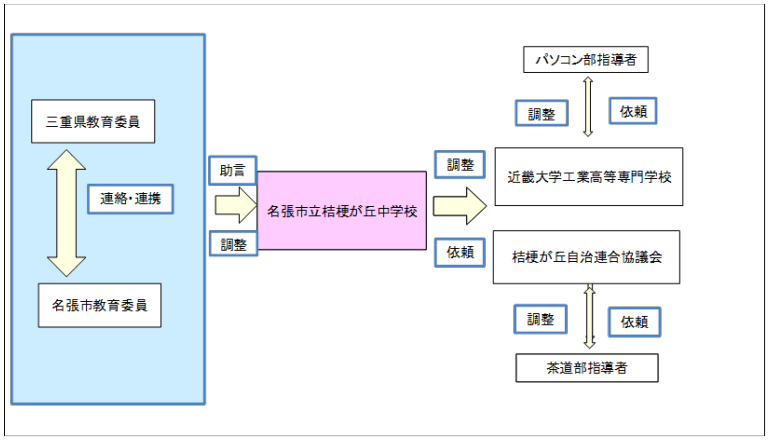
主な活動種別

コンピューター、茶道

（運営主体）（パソコン部）近畿大学工業高等専門学校
（茶道部）桔梗が丘自治連合協議会

（事業目標）
・学校における働き方改革を進めていくうえで部活動をどのように位置付け、持続可能なものとしていくかについて、関係者と検討する場を設け、部活動改革の実現を図る。
・部活動改革の一つの手段として、生徒が継続的で質の高い多様な文化芸術活動の機会を確保できるよう、学校単位の部活動を地域単位の活動に移行するため、地域における団体等との連携について検討をすすめる。

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

（パソコン部）
近畿大学工業高等専門学校教授・学生を指導者として位置付け、参加希望者を募って、月１回程度、土曜日に活動を行う。
（茶道部）
師範免状を有する地域住民を指導者として位置付け、月１回程度、土曜日に活動を行う。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

【教員の働き方改革等】
・パソコン部顧問は、令和２年度は野球部顧問であり、令和２年度と令和３年度の同時期の勤務時間等についての比較は以下の通りである。ただし、茶道部は、令和３年度創部のため、令和２年度との比較はできない。

	時間外勤務の総時間数		休日の部活動総時間数	
令和2年9月1日～12月31日　（野球部）	30	時間	10	時間
令和2年9月1日～12月31日　（パソコン部）	12	時間	0	時間
	▲18	時間	▲10	時間

・教員の働き方改革として、休日の部活動を外部指導者に委託するという方法を実際に示すことができた。
・両部の顧問ともに、令和３年８月20日（契約日）以降における休日の部活動は０時間であった。
・学校のパソコンは古く動作も遅かったため、もっと良い環境で活動させたいという思いが軽減された。

指導、運営上の工夫

【指導上の工夫】
・パソコン部においては、近畿大学工業高等専門学校の学生が、中学生が興味を持ちそうな内容を教授と相談しながら決定し、十分な活動ができるよう、進行予定表を作成し実施した。また、令和３年度は1回単位の内容で、その都度、参加者を募っていたが、継続的な課題を実施していくには、参加者の固定も検討していきたい。

【運営上の工夫】
・顧問と指導者における活動内容の打合せや参加者への連絡はメールや電話で取りあい、情報共有を行った。また、顧問と生徒の連絡は、生徒用タブレットを用いることで、学校が休みの日でも連絡をすることができた。
・地域や近隣の学校との連携が普段からあったからこそ、人材を確保することができた。
・部員に対して部活動の時間に休日の部活動について説明し、休日に参加を希望する生徒を募った。

今後に向けた方針・方向性

・県教育委員会保健体育課と連携しながら、令和５年度からの地域移行の準備・検証を進める。部活動のあり方検討委員会（年２回）や市町等教育委員会との情報交換会（２か月に１回程度）を保健体育課とともに実施する。

・早い時期から計画的に行うことで活動時間を確保する。

・令和３年度は謝金や保険代を本事業経費から支出しているが、それらを受益者が負担することになっても、保護者の多くは活動に参加させたいとの意見である。一方、内容や本人次第であるという意見や、本来義務教育で謝金や保険代が発生するのか疑問に思っている保護者もいる。事業終了後やモデル校以外の中学校においても、受益者負担で活動を継続できるのかどうか、他の財源があるのかどうか等、市町等教育委員会や関係者等と協議するとともに、文化庁の情報提供をお願いしたい。

・休日の部活動も自身が指導したいという教員のために、兼職兼業の整理をする。また、休日における部活動も、部活動ガイドラインに則った活動としての位置づけをする。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721701_17.pdf

No.17 兵庫県淡路市

Ⅰ．基本情報

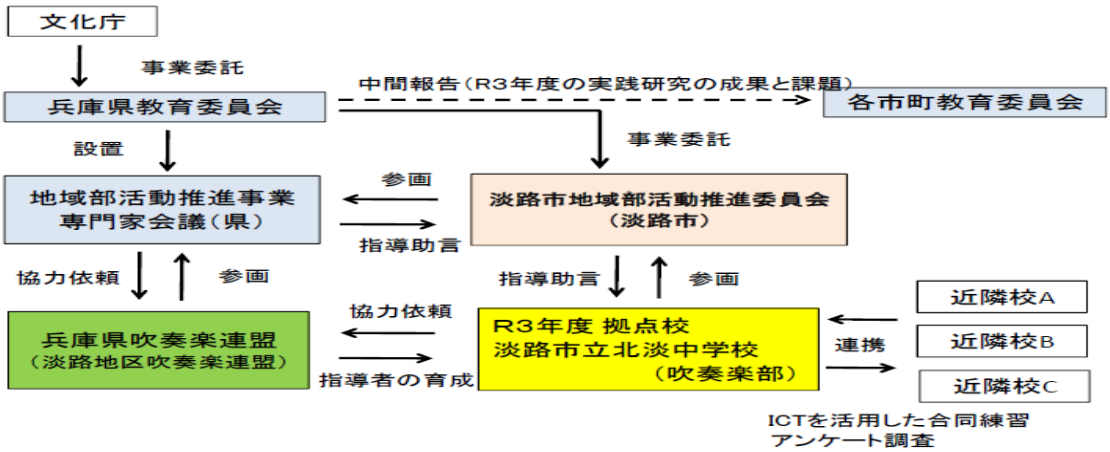
主な活動種別

吹奏楽

（運営主体）兵庫県教育委員会　　（再委託先）淡路市教育委員会

（事業目標）子どもたちの継続的で質の高い多様な文化芸術活動の機会を確保するとともに、学校における働き方改革を推進できるよう、令和５年度以降の休日の部活動の段階的な地域移行に向けて、体制の構築や持続可能な文化芸術活動の環境整備を行うため、指導や大会の引率を行う地域人材の確保、移動手段の確保、平日の学校部活動との連携・協力体制の構築、コーディネート、それらにかかる費用負担のあり方等の課題解決を目指す事業実施体制について研究する。

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

休日の部活動の地域移行を推進するため、拠点校である淡路市立北淡中学校の実践研究を基に、７つの視点(①教員の働き方改革、②地域指導者の確保、③活動場所の確保、④教員（顧問）以外による大会等への引率、⑤教員（顧問）と地域指導者等の連携、⑥地域指導者等への研修の実施、⑦費用負担のあり方等について検証を行った。また、本年度の成果と課題を中間報告としてまとめ、各市町教育委員会に対して周知する。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

○教員の働き方改革という視点において
・拠点校では、平日、休日とも、顧問と地域指導者が一緒に指導を行っているが、一定時間は業務軽減となっている。
・事前の準備を地域指導者にお願いすることは、業務量の軽減とともに、心理的な負担の軽減につながっている。

○地域指導者の確保という視点において
・「個別に関わってもらえる時間が増える」の回答数が増加。顧問だけの活動では、十分な指導ができない場面において、地域指導者の指導の効果を実感している（生徒アンケートより）。

指導、運営上の工夫

○運営上の工夫
これまで学校で実施していた部活動をいきなり地域に移行するには、検討すべき課題が山積しているため、本県では専門家会議の中で、前述のとおり、７つの視点に分けて課題を整理し、検証を行ってきた。視点を分けて調査・研究を進めることにより、
①これまでの取組を生かすこと
・人材バンクの活用や部活動指導員を有効活用する。等
②吹奏楽部の練習形態を全体指導と部分指導に分けること
・全体指導は教員（顧問）が実施し、部分（パート）指導は、地域指導者に依頼する。
など、解決の糸口が見えてきたこともある。視点ごとに具体的な取組事例を示すことで、学校や地域の実情に応じて、できることから取り組みを進めて行くことができる。

今後に向けた方針・方向性

継続的な運営に関する課題に対応するため、
①令和４年度の拠点校（加古川市立別府中学校）が比較的、都市部にあるため、淡路市立北淡中学校（地方部）の取組と比較しながら、地域の実情に応じた取組等を研究
②③本年度の中間報告（成果と課題）を併せて、２年間の実践研究の成果を発信。また、保護者や地域の理解を得るためには、今後、受益者負担も生じることから、専門家会議等でその周知方法について検証
④市町教育委員会及び学校等に対しては、これまでの人材バンクを活用すること。また、吹奏楽連盟や関係団体と連携を図りながら、育成の視点も含めた地域指導者の確保に向けて取り組むよう指導
⑤吹奏楽連盟等と連携及び情報共有を図りながら、大会の参加の在り方について検証
⑥地域移行に向けて必要な予算等を拠点校の実践研究を基に洗い出し、周知等に取り組んで行く。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721701_18.pdf

No.18 奈良県生駒市

Ⅰ．基本情報

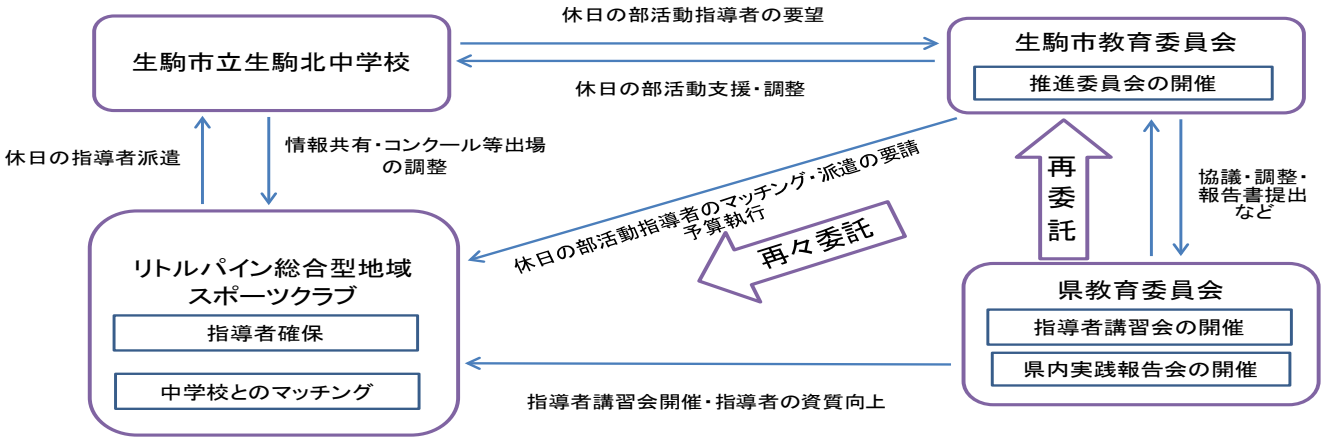
主な活動種別

吹奏楽

（運営主体）リトルパイン総合型地域スポーツクラブ、生駒市教育委員会

（事業目標）
・拠点校の１文化部活動を地域移行し、休日３時間　月４回　８か月の実施を目標として地域部活動を行う。
・関係部活動の顧問教員の休日部活動の勤務について負担軽減を目指す。
・文化部活動の地域移行に向けて、生駒市にある総合型地域スポーツクラブを受け皿とし、市や学校と連携していく体制を構築することを目指す。

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

生駒市教育委員会と市の総合型地域スポーツクラブで連携体制を構築。休日に拠点校の１文化部活動（吹奏楽部）に指導者が派遣され、休日３時間（土曜日を基本）、月４回程度を地域部活動として実施する。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

①教員
・ほぼすべての楽器を専門的に教えていただけたり、楽譜の読み方を教えていただけたりしたので、顧問の作業を軽減できた。また、生徒指導が入った時など、部活動指導のすべてを任せることができている。休日に顧問が休みを取るなどの時間的な負担軽減や、働き方改革に関しては成果として挙げられるものは少ないが、複数体制で指導に当たることができることによる安心感や、イレギュラーなことが起こった時に全体の指導を止めることなく活動できることなど、顧問の精神的な負担軽減はかなり図れている。

②生徒
・何をどうやって練習すればよいかなど技術的な指導や課題を与えていただいたので、指導員の方をとても信頼して接している。また、パートごとの練習等に対しても、習熟度に応じた細かい技術指導が充実しているため、演奏技術が向上した。

指導、運営上の工夫

○生徒への指導に関する工夫
・少人数に対して各指導者が技術指導を行うため、きめ細やかな指導が行えた。
・平日よりも質の高い練習が可能となった。
・技術指導だけでなく、部活動の在り方や休憩の取り方など基礎的なことも指導していただけた。

○運営上の工夫
・指導者の確保に向けて、生駒市教育委員会事務局が中心となって人材を探し、総合型地域スポーツクラブとの連携を深めた。新たに３名が生駒市の総合型地域スポーツクラブに登録され、地域部活動指導者として生駒北中学校に派遣される形で吹奏楽部の指導を行った。
・３名の指導者の都合に合わせて勤務いただいた。常に顧問との複数体制での指導が実施できた。
・活動時間等については国・県・市のガイドラインを遵守した。
・コロナ禍での活動については市の方針を遵守（９月、２月は原則活動停止）した。

今後に向けた方針・方向性

・国からの方針を受けて、生駒市としてどのような形の地域移行が可能か検討していく。国のアナウンスを受け、地域・保護者・生徒・教員の意識改革を進めていく。
・教員の兼職・兼業について、何割ほどの教員が希望するのか調査を実施していく。（令和４年度実施予定）
・市内の総合型スポーツクラブの整備を進め、指導員の確保に努める。
・関係者全員にとって無理のない仕組みの構築に向けて、市内をいくつかのブロックに分け、拠点校方式の地域部活動が可能か、そのためにはどれぐらいの部活動数が必要か、どれぐらいの指導者が必要か、１ヵ月あたりの一人当たりの受益者負担がどの程度必要か、などを試算していく。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721701_19.pdf

No.19 岡山県赤磐市

Ⅰ．基本情報

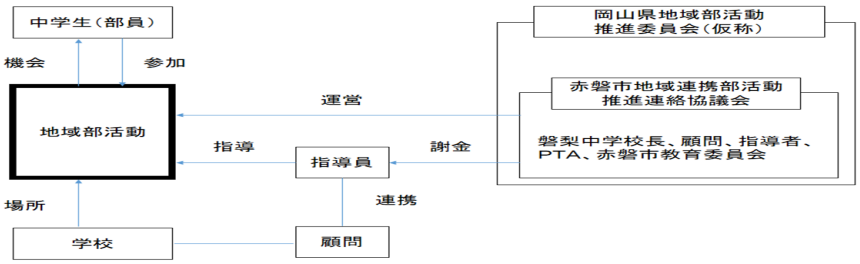
主な活動種別

吹奏楽

（運営主体）　赤磐市地域連携部活動推進連絡協議会

（事業目標）
・地域の指導力を活用し持続可能な指導体制を構築するとともに、部活動における指導の分担化を図り、教職員の負担軽減につなげる。
・中学校の部活動を地域と連携して運営することを通じて、生徒や保護者の部活動に対する期待や要望に十分応える体制を整える。

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

〈定量的観点〉
・地域側の受け皿として、赤磐市地域連携部活動推進連絡協議会（以下「協議会」という。）を新たに立ち上げ、地域部活動の進め方について協議し、赤磐市立磐梨中学校吹奏楽部において、３年生の引退後、７月から地域指導員による指導を開始した。
・地域指導員は協議会が地域のスポーツ少年団や退職教員等に声を掛け確保した。
・吹奏楽部の地域指導員は退職教員1名、小学校非常勤講師1名の計2名である。
・地域部活動の7月から１月までの実績は、指導回数25回、指導時間は109時間である。
・吹奏楽部の顧問2名について、7月から1月までの累計超過勤務時間は、第一顧問138.45時間（対同月前年度比49％（第一顧問は10月3日より産休））、第二顧問369.06時間（対同月前年度比120％）である。
・学校部活動の指導について地域指導員の理解を得つつ、段階的に移行を進める方針のため、顧問・地域指導員の双方で指導を行っており、移行期である現在は、顧問の超過勤務時間は十分に縮減されていない。
＜定性的観点＞
・実践校が保護者・生徒に地域部活動について説明した際に異論はなかったが、地域部活動へのイメージがわかなかったためと推察している。今後の活動の中で少しずつ意見が出てくるものと考えられる。すでに地域住民が指導を行う柔道部の成績が好調であることから、保護者の中には地域部活動に好印象を持つ者もいる。
・実践校校長が教員に地域部活動について説明を行ったが、教員の受け止め方は様々で、イメージがわかない者も存在する。完全移行後は、条件に合う者だけが、兼職兼業を申し出るものと考える。
・実践校では、学校単独で維持できない部活について、他校と合同部活動をするニーズはない。
・実践校の地域には文化協会等大人向けの団体があるが、学校部活動の理解の度合いは不明である。
・赤磐市教育委員会において、本実践研究事業は学校指導部門が担当しており、社会教育部門における地域部活動の意識醸成には至っていない。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

・岡山県地域部活動推進委員会を２回、文化部会を1回行い、地域移行に係る課題等を検討した。
・常任委員会を３回、委員会を２回行った。委員から建設的で前向きな意見をいただき、取組を前に進めた。
・各競技の指導者や地域の方が参加される「磐梨ドリームタウンプロジェクト委員会」では、部活動を地域移行する取組の目的や意図を説明し、共通理解ができた。様々な課題がでてきているが、その課題に対しても様々なアイデアを提案していただいた。保護者へは春に加え、２月にも希望する保護者へ説明会を実施し、地域部活動への疑問や意見について説明した。
・令和３年７月から地域部活動へ移行した。地域指導者２名（元中学校音楽教諭、小学校音楽専科非常勤講師）を迎えた。現在は地域指導者が部員と良好な関係をつくることや部活動の進め方に慣れていただくために２人の吹奏楽部顧問と一緒に活動を行っている。
・「部活動は充実した活動になっている」はR3前期よりも後期の方が２％増加している。「部活動によって自分の能力を伸ばすことができる」は前期よりも３％伸び、更に過去３回平均よりも２０％以上増加が見られた。「部活動では仲間の部員と協力して活動できる」も前期よりも５％以上伸びている。どの質問項目も伸びが見られるなど、生徒たちにとって充実したものとなっている。

指導、運営上の工夫

・「磐梨ドリームタウンプロジェクト委員会」という地域部活動連絡協議会を立ち上げ、学校・指導者・ＰＴＡ・学校支援ボランティア・地域の方が一同に集まり地域移行する目的や意図を全員でしっかりと共有できた。そのことが現在の地域部活動への移行が割と円滑に進んでいるのではないかと考える。
・各競技の指導者と面談をし、うまく進んでいる点や課題について情報交換する機会を設け、指導者の思いや考えを聞く機会を設けている。
・近隣の中学校ではまだ始まっていない新しい取組のため、依然と不安に思う保護者も多いことから、地域部活動について疑問や不安に思われている保護者に呼び掛けて地域部活動について丁寧に説明を行う「保護者説明会」を開催した。一定の理解は得られたと思われるが、今後も状況に応じて開催する。
・地域部活動が市公共体育施設を使用する際に、減免措置されるようスポーツ担当部局と調整し、研究指定を受ける2年間減免措置とすることになった。今後さらに担当部局と協議をし、令和５年度以降も減免措置となるよう調整を図る予定。
・教員の時間的な負担の軽減は多く見られないが、技量差の大きい集団を小グループで段階的に指導することや、効率的な指導が可能となっている。

今後に向けた方針・方向性

・ＳＮＳが得意な指導者の協力を得ながら、周知方法について活用方法を探る。
・各家庭から協力金、地域の企業から協賛金、クラウドファンディング等資金を集める手立てを協議会で検討する。そのほか、地域部活動に参加する生徒の家庭からの参加費の徴収、指導者謝金の単価の減額、参加生徒の保険料の自己負担を検討する。
・担当部局やスポーツ担当部局にも、地域部活動担当者を位置づけ、中学生のスポーツのできる環境についてや地域部活動と行政との関わり方について、学校教育課と文化やスポーツ担当課で定期的に協議を行っていく。
・各競技の指導者からもコンプライアンスや体罰防止のためにも複数の指導者により指導することが必要と意見をいただいており、指導者が１人又は少ない競技は指導者を増やすよう働きかけていく。吹奏楽連盟や市文化協会、地域の文化団体、指導者の知り合い、卒業生等協力者を増やし、指導者確保に努める。指導を希望する教員が参加できるようにするために、引き続き教員の兼職兼業の研究を進める。
・感染状況を踏まえながら、地域部活動に参加する中学生が地域の活動へ参加できるよう働きかけを行っていく。また、部活動の活動の様子や大会の結果等をＳＮＳやチラシ等を使って地域の方々へ周知していく。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721701_20.pdf

No.20　山口県周南市

Ⅰ．基本情報

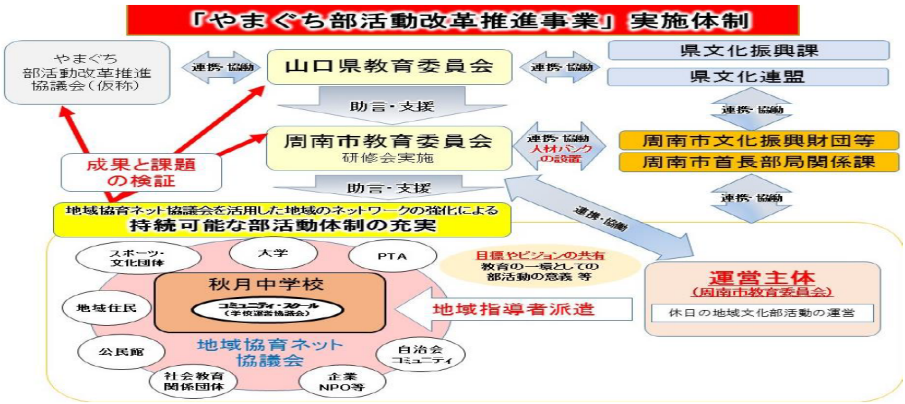
（運営主体）周南市教育委員会

主な活動種別

吹奏楽

（事業目標）
周南市では、国や県の方針に沿って「周南市文化部活動の在り方に関する方針」を策定し、令和元年10月から運用している。適切な活動時間や休養日等を設定することにより、望ましい文化部活動の運営が行われるよう体制整備に努めているところであるが、部活動に携わる教師の負担が軽減できていない状況が少なからずどの学校においても見受けられる。
こうした中、国から、生徒にとって望ましい部活動の環境の構築と学校の働き方改革も考慮した更なる部活動改革の推進を目指し、その第一歩として、「学校と地域が協働・融合」した部活動の具体的な実現方策とスケジュールが示されたことを踏まえ、本市においても、令和５年度以降の段階的な地域移行に向けて、様々な関係者がそれぞれの立場で協力しながら、本事業を活用し、部活動における教師の負担軽減に加え、部活動の指導等に意欲を有する地域人材の協力を得て、学校と地域が協働・融合した形での持続可能な文化活動のための環境整備を進め、生徒にとって望ましい地域文化活動の実現を図っていくことを目標とした。

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

令和３年４月１日～令和４年２月16日までの期間において、学校に設置している文化部活動（１部活）の休日の活動を地域文化活動へ移行するための実践研究を行った。地域文化活動としての活動日数（回数）は、生徒の活動をこれまでどおり担保する観点から、令和元年度の各部の活動実績を基に、年間で43日（回）として実施研究を行う予定だったが、保険加入手続き等により、実際には約３６日（回）の実施となった。また、地域文化活動に係る費用（保険料及び指導者謝金、旅費等）については、保護者負担は生じないものとした。その他、生徒、教師、地域指導者への事後アンケート調査等を実施し、地域の実情に応じた文化部活動の在り方等について検証するよう努めた。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

吹奏楽の専門性に長けた地域指導者を配置し、実践研究を行った。地域指導者については、以前から外部指導者として携わっており、そのため関わりのある生徒も多く、生徒一人ひとりのよさや課題を把握した、指導を細やかに行うことができている。令和３年１０月上旬に、生徒、教師、地域指導者を対象に活動状況に対するアンケートを実施した。生徒は１，２年生を対象とした２０名、部活動顧問１名、地域指導者１名である。「とても満足している」「概ね満足している」と回答している生徒は、約６割であった。さまざまな楽器を演奏する上での、専門的な技能や知識を丁寧に教えてもらうことができるため、練習にやりがいを見出している生徒が多い。また、部活動顧問は、「大変満足している」と回答している。地域指導者と順調に連携を図りながら、部活動運営を行うことができており、部活動顧問の負担軽減につながっている。

指導、運営上の工夫

○児童・生徒への指導に関する工夫
生徒の、音に対するこだわりや意識を高めるために、楽譜に示された演奏符号の重要性や表現したい音楽について、イメージを膨らませることができるよう、生徒一人ひとりに個別指導を行った。また、集団としての探求心や向上心も高められるように、指導を行っている。

○運営上の工夫
学校で定めた部活動ガイドラインに沿って、活動を行った。部活動顧問が、こまめに地域指導者と連絡を取り合い、平日の部活動の状況や生徒たちの様子、演奏の状況などを伝えることで、休日の活動がスムーズに行われるよう配慮をされている。

今後に向けた方針・方向性

周南市では、令和５年度以降、学校部活動を地域が引き受けて、部活動を継続させるというのではなく、地域で新たな文化活動の中学生の受け皿を作り、将来、部活動という概念を廃して、中学生が自由に、地域文化活動に参加できる仕組みを作ることを目指している。
そのために、令和４年度の国の提言（スポーツ庁５月、文化庁７月予定）を受け、周南市地域スポーツ・文化活動推進協議会を設立し、関係者と協議を行う予定としている。特に、吹奏楽部に関しては、楽器等の関係から、各中学校の校舎でしか活動できないとなる場合に、どのような解決策が見いだせるかは、協議会での話し合いを通して何らかの解決策を見出していきたいと考えている。
周南市が考える「地域スポーツ・文化活動」とは、「誰でも参加できる活動」であり、「地域の居場所となる活動」である。生涯文化活動の視点から、いろいろな世代の方々とともに関わりながら、多様な文化活動を体験できる環境を、本市文化スポーツ課と連携を図りながら、周南公立大学や周南市文化財団、各種連盟等が主体となって担っていくことを検討している。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721701_21.pdf

No.21　徳島県徳島市

Ⅰ．基本情報

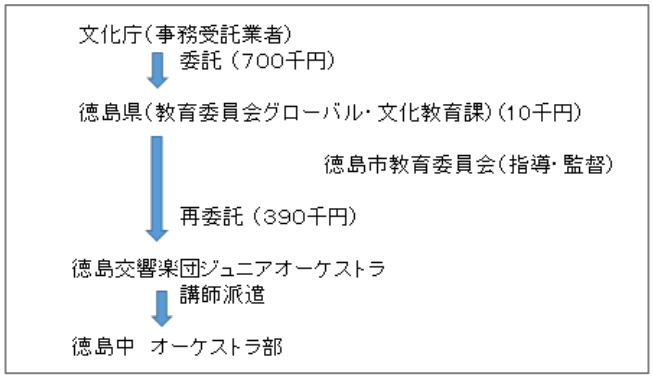
（運営主体）　徳島交響楽団ジュニアオーケストラ
特定非営利活動法人阿波農村舞台の会

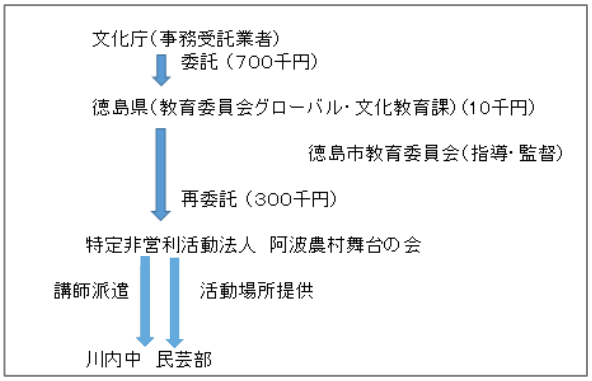
主な活動種別

オーケストラ、
民芸（人形浄瑠璃）

（事業目標）○専門的指導者を持続可能な形で確保する体制を構築するとともに、生徒指導面にも配慮し、安心・安全に継続的な質の高い活動ができるよう支援する。
○オーケストラ部において、月数回程度（土、日、平日放課後）本事業を行い、教員の土日の勤務時間の減少、計画的な休日の確保、負担の軽減を図る。
○民芸部において、月数回程度（土、日、平日放課後）本事業を校区内の公共施設で行い、教員の土日の勤務時間の減少、計画的な休日の確保、負担の軽減を図る。

団体・組織等の連携





Ⅱ．活動概要

（オーケストラ部）楽器の移動が大変なことから、学校施設の教室等を活動場所とし、月２回程度、２～３時間のパート練習や合奏の指導、また他校との合同練習への引率などについて、市内で活動する「徳島交響楽団ジュニアオーケストラ」から講師の派遣を受ける。活動日程や指導内容についても団体が学校と連携を密にとりながらコーディネートを行う。
（民芸部）校区内にある阿波人形浄瑠璃の専門施設「県立阿波十郎兵衛屋敷」を土日の活動場所として、施設を管理運営するNPO法人が、これまでに蓄積した人的ネットワークや、資料、映像などを活用し、人形の基本的操作方法をはじめ、太夫・三味線体験、人形浄瑠璃の歴史学習など幅広い活動を行う。月１～２回、２時間程度実施し、特定非営利活動法人 阿波農村舞台の会が活動のコーディネート及び講師の派遣を行う。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

○オーケストラ部
（部員の声）基礎的な練習方法や曲の演奏の仕方まで、いろいろな技術指導をしていただけるのでとても勉強になった。
（顧問の声）専門的な指導をしていただけることは心強い。継続的指導により、生徒も上達している。保護者から本事業について理解いただいた。
・顧問一人あたりの勤務時間は10.3％減であったが、精神的負担が大きく軽減した。
○民芸部
　校区内の専門施設を活動場所にしたことから、生徒は自転車で移動できた。また、舞台装置や人形も利用することが容易であり、練習場所としては最適であった。
・顧問は、休日地域部活動の指導者として携わった（兼職兼業）。３人で１体の人形を遣うので、３人の講師が生徒一人ずつを同時に指導することができ、顧問の負担軽減になった。

指導、運営上の工夫

○運営上の工夫
・学校の部活動スケジュールに合わせて実施
・感染防止対策徹底とともに、講師招聘自粛等、学校の方針に従い実施
・市、学校策定の「文化部活動に係る活動方針」に則り実施
○オーケストラ部
　指導者は、指導経験が豊富で、中学生の段階で、身に付けてほしい技術・知識や楽器の特性等を考慮し、音楽に親しみが持てるよう指導を行っている。また、先生方の質問や相談にも応じ、指導者の育成につなげている。
○民芸部
　県民文化祭等、発表の場を目標として指導期間を集中することで、秋には新入部員も演目を上演することができた。また、専門施設の展示や映像を活用し、人形浄瑠璃の歴史や徳島の風土・産業と芸能の関わりなどについて学んだ。

今後に向けた方針・方向性

　令和４年度も引き続き、市町村教育委員会や文化団体と連携をしながら、地域部活動推進事業に取り組み、「休日の部活動の段階的な地域移行」の課題について検証を進めていく。
　また、教員の多忙化や少子化による部活動規模の縮小による影響など、文化部活動の継続的な活動のためには、運動部同様改善していかなければならない課題がある。運動部活動担当課と情報共有をしながら、地域の実情に応じた休日の部活動の在り方について、検討を進めていく。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721701_22.pdf

No.22 香川県仲多度郡琴平町

Ⅰ．基本情報

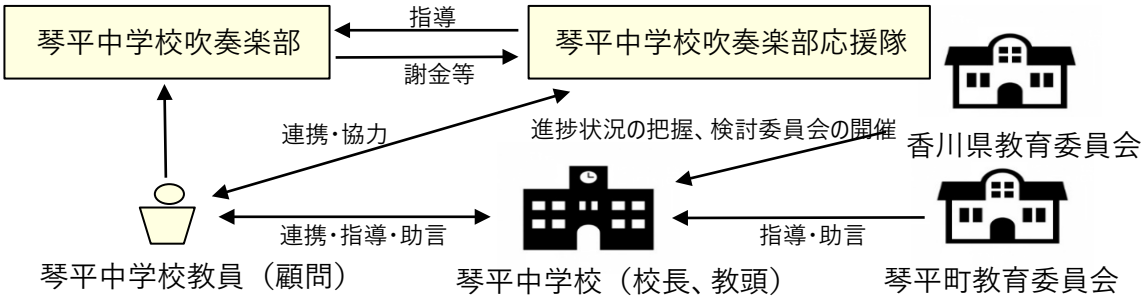
（運営主体）琴平中学校吹奏楽部

主な活動種別

吹奏楽

（事業目標）吹奏楽部において、専門的スキルを持つ講師を招聘し、休日の部活動において指導いただくことにより、生徒の技能向上を図るとともに、教員の働き方改革を推進する。また、地域部活動への完全移行に必要な条件について実践を通して洗い出すことを目的とする。

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

・土日を中心として、部活指導をサポートしてもらう。月に２～３回を目安（定量的）
・専門的な指導で、生徒たちが自ら音楽的な課題を見つけ、解決できる力をつけられるようにする（定性的）
　顧問の負担を軽減し、働き方改革につながるように実施する。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

・部活動指導には、目の前の技術指導だけでなく、多くの事務処理等が存在する。これまでは部活動の時間中は指導のみで、部活動指導後にそれらの業務を行っていたが、外部指導者が入ることで部活動中にその時間がとれるようになったため、部活動前後の時間が大幅に短縮できた。
（数字上にはあがっていないが、この時間短縮は本当にありがたい。）
・これまで専門外の楽器を指導するにあたり、自分の時間をずいぶん割いて勉強をしていたが、なかなか習得することはできなかった。しかし、専門の講師に来ていただいたおかげで、生徒たちの効率的な練習を生み出すことができるとともに、自分の時間にもゆとりが生まれた。また、効率的な練習ができるおかげで、全体の練習時間もへらすことに成功した。
・コーディネーターに入っていただくことで、今の演奏を聴き、現状を分析したうえで、適切な指導者を紹介いただき、効果的に配置することができた。
・外部からの指導者が入ることで、生徒たちが自らの学びとしてとらえ、自主性が増した。それは部活動だけでなく、生徒会活動や委員会活動、学級活動などへも波及していった。
・生徒たちは、正しい知識や技能を知ったことで、自分たちで練習のメニューを組み立てることができるようになった
・顧問の休日における指導時間…144時間、115時間（昨年度より86時間削減）、コーディネーター…2時間(1人)　講師…94時間（7人）

指導、運営上の工夫

○児童・生徒への指導に関する工夫
・技術面では、充分に生徒たちが満足する指導ができている。慣れている講師は、生徒たちの個性を見抜き、それに見合った指導ができている。顧問とそういった情報交換も密に行っている。
・生徒たちの声より
　専門的な指導で分かりやすく教えてくれた。
　基礎練習のバリエーションを増やしていただいた。
　悪い癖を見つけて直してくださったのでとても吹きやすくなったし、運指がとてもスムーズになった。
　楽譜まで配ってくれて、基礎をしっかりしてくれるので、準備が整い、スキルがつく。
　細かいところまで分析して教えてくれ、初めて学ぶことも多く、そこから知識が広がる
　打楽器の間違った使い方やバチ等の持ち方を指摘されて正しく使えるようになった。難しいリズム譜の読み方を教わり読めるようになった。
　和音について詳しく教えてくれ、ハーモニーの仕方がわかった。
　自分の音の特徴を教えてくれて、高い音を安定させてくれた。
○運営上の工夫
・指導者の依頼については、コーディネーターのアドバイスをもとに、顧問教員が個別に依頼および交渉をしたため、コミュニケーションは充分に図ることができ、生徒たちの個々の技術指導だけでなく、心のケアも充分にできたと言える。
・吹奏楽の大きな大会の２つが吹奏楽コンクールおよびアンサンブルコンテストであるが、どちらも学期末の忙しい時期に重なるため、学校業務との両立を生むために時間的なゆとりが欲しい。そのため、この時期に集中的に呼ぶことで教員たちの働き方改革をふまえた時間確保が実現しやすくなった。
・講師の先生方も同時期に忙しくなるため、土日ではなく平日に来ていただくケースもあった。結果としては、平日業務の軽減化にもつながった。

今後に向けた方針・方向性

学校部活動が学校教育活動の一環である以上、地域移行するにあたり、指導員や応援隊を編成する人材については教育的な観点での共通認識、施設を利用するための理解や研修等を定期的に行う。
　琴中吹奏楽応援隊には、①音楽的な専門指導者、②指導者派遣の計画ができる人物、③会計事務等ができる人物を入れ、組織を編成する。長期的に係わってくれる人材を確保する。
　ただし、一度にすべてを指導員にゆだねるのは困難であると考えられるため、学校の教員と外部指導員との並行で進めていき、段階的に地域移行していく。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721701_23.pdf

No.23 福岡県中間市

Ⅰ．基本情報

主な活動種別

吹奏楽

（運営主体）中間市地域部活動推進協議会

（事業目標）生徒のとって望ましい部活動（吹奏楽部）と学校の働き方改革の実現に向けて、合同部活動の実践研究を実施し、持続可能な部活動とその指導体制を構築する。

団体・組織等の連携

上記サイトでご覧ください。

Ⅱ．活動概要

令和３年度も新型コロナウイルス感染症の猛威により、計画通りの活動ができず、以下の活動となった。
①オンラインによる合同練習の実施
・第５波が終息した１２月から合同練習を開始することとしていたが、市内の感染状況の影響により、活動開始が延期となる。その後第６波が猛威を振るったため、やむを得ずオンラインのみでの実施となる。さらには、県内一斉の部活動自粛（中止）によって限られた回数しか実施できなかった。
②地域部活動推進協議会の実施
・推進委員による本事業に係る協議等
③教員アンケートの実施
・働き方改革の観点を中心とした聞き取り等
＜活動実績＞
①オンライン合同練習（1/22．2/１．2/15．2/16．2/18　：　５回実施）
・主な内容は、楽器別パート練習等
②推進協議会の実施（1/11）
・事業・活動方針説明、事業に係る協議等
③教員アンケートの実施（2/21）
・本事業に対する意識調査等

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

〇部活動を通した生徒指導を市内全体で行うという意識改革のよい契機となった（部活動単独校実施からの転機の意識化が進んだ）。
〇地域を単位とした複数校が連携した活動を実施したことで、各校顧問それぞれの専門的知識・技能を生かした指導ができるようになった。
〇専門的な知識をもった地域指導者を活用することで、教員の負担感が軽減されとともに、生徒は専門的な指導を受けられるため、充実した活動となった。
〇コロナによる活動制限化においても、オンラインによる活動（練習及び連絡調整）ができた。

指導、運営上の工夫

〇児童・生徒への指導に関する工夫
・生徒及び顧問からの要望を聞き取り、ニーズに応じた活動になるようにした。
・技術指導に加え、楽器の取り扱い方等指導も行った。
・ＩＣＴ（Google classroom）を活用して、いつでも地域指導者（総監督）に質問できるようにした。
〇運営上の工夫
・信頼できる指導者として、市内在住で長年吹奏楽指導に携わっている人材を選定した。→教育指導上、学校の実情や生徒の発達段階等を考慮した人材に指導をお願いすることができた。
・ＩＣＴ（Google classroom）を活用して、各校の顧問間の連携をとりやすくした。→各自が都合のよい時間に連絡内容を確認することができ、スムーズに合同練習の連絡調整ができた。
・市内校長会議にて、進捗状況等を説明した。→事前に各中学校長の理解を得ておくことで、スムーズに合同練習を実施することができた。

今後に向けた方針・方向性

４月　中間市地域部活動推進協議会（第１回）
　　合同練習①
５月　合同練習②③
６月　合同練習④
７月　合同練習⑤
８月　合同練習⑥
９月　中間市地域部活動推進協議会（第２回）
　　合同練習⑦⑧
10月　合同練習⑨
11月　合同練習⑩
12月　合同練習⑪⑫
１月　合同練習⑬⑭
　　ブラスフェスタ
　　（合同発表会）
２月　中間市地域部活動推進協議会（第３回）

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721701_24.pdf

No.24　熊本県南関町

Ⅰ．基本情報

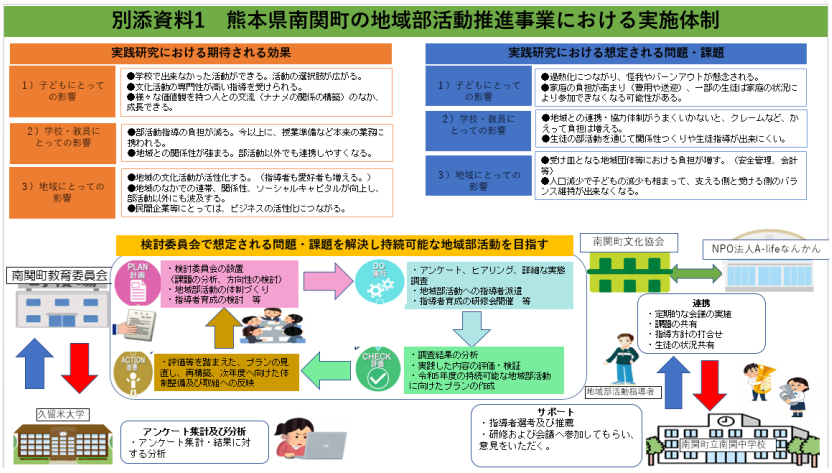
主な活動種別

吹奏楽

（運営主体）南関町教育委員会

（事業目標）指導の高度化や専門化への対応、生徒の多様なニーズに応じた指導及び教員の負担軽減等がなされたかの把握を行い実現し、効果的な指導体制システムを新たに構築すること

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

外部指導者による休日部活動指導
コロナ禍による発表会等の中止及び指導者の体調不良などの影響あり

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

教員の負担感は、軽減できたことの達成には至っていない。学校全体では、部活動次第であり、よくなった部と変わらない部がある。少なくとも悪くなった点はない。

アンケートでは、そもそも自分の意志で選択した部活動が約62％を占めた。その目的も「上達したい」や「楽しみたい」が多数で、部活動に満足している生徒は約93％であった。

本年度は、コロナ禍のため大会が中止されたことが多く、十分な活動ができなかった。専門的な技術を有する外部指導者からの指導を期待していたが、活動自体もままならず、鈍い結果となってしまった。

このようなことからも、教員の働き方改革へつながったとは、言い難い。また、休日の外部指導者の指導についても教員・生徒共に実感がないかと感じられる。

生徒、保護者、教員、外部指導者向けにアンケートを実施した。結果については、別添のとおり。

指導、運営上の工夫

○児童・生徒への指導に関する工夫

顧問（先生）と指導者（コーチ）の必要性について、生徒アンケートによると、指導者のみがよい12.7％、顧問と指導者がよい66.1％、顧問がいてかつ指導者を増やす15.3％であった。この数字は運動部を含めた総数であるので一概には言えないが、学校内のみならず、外部からの指導を受けることが、部活動の楽しみや技術力向上に結びついていると思われる。

また、指導者のためには、町で研修会を実施した。研修会では、教職員を含め本町に関わるすべての指導者に受講するよう周知し、約90％の指導者が地域部活動移行について学んだ。

○運営上の工夫

指導者については、令和２年度中に学校と協議し、学校推薦によって選定を行った。休日の部活動指導ができることが第一条件であった。教職員と生徒の間に指導者が加入した形であったが、部活動の運営自体には、特に問題はなかったようだ。

教育委員会では、学校と保護者とのつなぎ役として、保護者総会に同席し、部活動の地域移行及び指導者についての説明等を実施した。保護者からは、指導者に対しては、どちらかと言えば歓迎する雰囲気であった。

今後に向けた方針・方向性

①「費用」国などからの補助金がなくなれば、対応が困難。家庭の経済格差がある中で、どのような基準で経済支援策を講じるかなど決定事項が多い。
②「責任の所在」地域移行後は、文部科学省が示しているよう地域団体・運営団体の責任でよろしいかと思うが、本事業中に、特に指導者に責任を負わせるのは筋違いではないか。自治体の責任になるのであろうか？
③「活動場所」学校の管理は、学校であるが、教職員に鍵の開閉を依頼するのは、地域移行の趣旨に反すると思う。鍵自体を箱に保管する「鍵BOX」なるものを活用してみたい。
④「兼職兼業」平日指導している教職員には、その成果を見届けたい気持ちがある。兼職兼業届を提出してでも子どもたちの成果を…という積極的な気持ちを持つ教職員は、その気持ちを受け入れるべきであろう。
⑤「指導者登録」せめて県を単位としての登録制度を構築してもらいたい。本町では、将来を見据え、情報を共有する総合型地域スポーツクラブへの登録を進めていきたい。
⑥「移行時期の統一」令和５年度からの地域移行が目標であるが、本町が先んじて移行してしまい、近隣の自治体へ悪影響を及ぼすことがないようにしたい。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721701_25.pdf

No.25 宮崎県延岡市

Ⅰ．基本情報

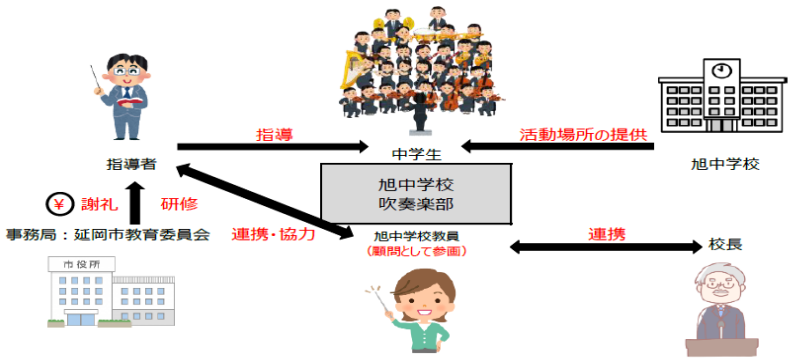
主な活動種別

吹奏楽

（運営主体） 延岡市教育委員会

（事業目標） 宮崎県教育委員会は、生徒にとって望ましい文化部活動と学校の働き方改革の実現を図ることを目標に、休日の文化部活動の段階的な地域移行に関する実践研究を延岡市に委託し、延岡市は、延岡市教育委員会に事務局を置き、休日の部活動の地域移行に取り組む中学校（以下「拠点校」という。）を定め、生徒の指導や大会等の引率を行う地域人材の確保、移動手段の確保、平日の部活動との連携・協力体制の構築、コーディネート、それらにかかる費用負担の在り方等の課題解決を目指す事業実施体制の構築に取り組む。

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

延岡市教育委員会は、地域に在住する吹奏楽指導経験者を１名確保し、放課後及び休日の部活動指導を実施した。地域人材が外部指導者として、専門的知識の必要な各楽器ごとのレッスンや合奏指導を担い、各種コンクールへの出場や地域行事への参加により、吹奏楽を通じた生徒の情操教育並びに地域貢献に寄与している。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

○　拠点校の職員の時間外勤務の状況は、令和２年度８０時間以上の教職員が１９名中、１０名であったが、本事業の取組により２名減（８名）となった。

○　地域に居住する経験豊富な外部指導者が生徒の指導を行うことで、生徒の部活動に対する意欲が向上し、かつ、部活動顧問の負担を軽減することができた。

○　今年度、創立以来初めて、県アンサンブルコンテストに出場したことで、生徒自身から「人前で演奏することの喜びを実感することができた」、「毎日の部活動がとても楽しみである」といった好意的な声が聞かれるようになった。

指導、運営上の工夫

○児童・生徒への指導に関する工夫
○外部指導者による個人レッスン、全体合奏指導など、生徒一人ひとりの状況に応じたきめ細かい指導を実施している。
○顧問と外部指導者ができる限りコミュニケーションを図りながら、生徒への指導や助言を行うよう心掛けている。

○運営上の工夫
連携体制について
○生徒の様子を把握し、顧問と外部指導者で生徒の心理面のケアや人間関係のトラブルが発生しないよう、定期的に延岡市教育委員会を含めた協議の時間を設定し、実態把握に努めている。
○生徒の状況や人間関係について、各学級担任とも連携し、情報共有を図っている。

部活動に必要な用具・道具の調達について
○学校備品として楽器を購入したり、部費から経費を捻出したりして定期的に楽器を購入している。
○個人持ちの楽器以外は、学校内で楽器を管理し、生徒へ貸し出している。

地域からの理解
○生徒の発表の場として、地域の祭りへの参加依頼をいただいている。
○練習の成果を発表する場として、「ふれあいコンサート」を開催し、多くの地域住民に来場いただいている。

今後に向けた方針・方向性

○　令和５年度からの段階的な地域移行については、環境づくりが何より大切だと考える。また、文化部活動と運動部活動を切り離して考えるのではなく、連携した取組が必須であると考える。

○　そのため、現在、宮崎県で設置・検討を進めている運動部活動の今後の在り方の検討委員会に文化部活動も加わり、段階的な地域移行に向けて検討を進めていきたい。その際は、文化庁から示されている地域移行（展開）を進める際のチェックポイントを参考に、スモールステップで協議を進めることとしている。

○　学校の部活動の全てを地域に移行するのではなく、学校として担う部分と地域が担っていただく部分を見出し、生徒一人ひとりにとってやりがいのある、かつ、教員にとって働き方改革に繋がる方向性を模索していきたい。

○　また、部活動指導員の配置については、教員の負担軽減等を目的に、令和３年度、運動部活動において、公立中学校に６０名を配置している。令和４年度には、文化部活動においても積極的配置を目指し、本事業と連携して取組を推進していきたい。

○　今後の具体は、地域の受け皿となる団体の選定とともに、学校と連携した運営に関する基本的な考え方の整理を行い、本県の実情に合った休日の部活動の在り方について検討を進めていきたい。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721701_26.pdf

No.26　鹿児島県大島郡与論町

Ⅰ．基本情報

主な活動種別

吹奏楽

（運営主体）与論町地域部活動推進協議会

（事業目標）　与論中学校の教員，生徒，保護者，地域の理解を得ながら，教員の勤務を要する日（平日）において学校の活動として行われる部活動（学校部活動）と，教員の勤務を要しない日（休日）において地域の活動として行われる部活動（地域部活動）とを合理的に分けることで，部活動に係る教員の負担軽減を図るとともに，地域の文化芸術団体による専門的な指導等を通して，生徒にとって質の高い文化芸術環境を構築する。

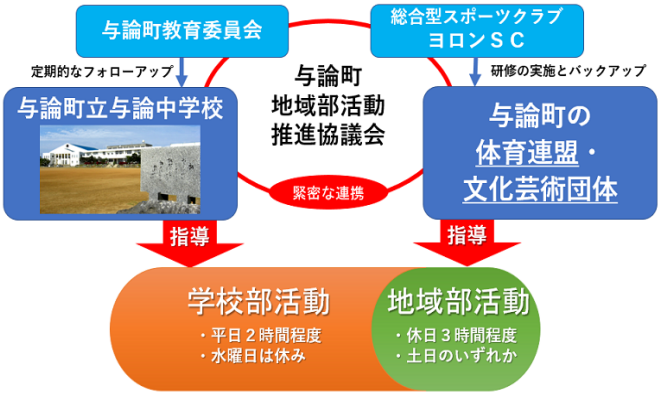
団体・組織等の連携

○　**与論町地域部活動推進協議会**
　地域部活動の推進のために必要な諸事項の検討と，関係各所への説明

○　**与論町教育委員会**
　必要なガイドライン等の改正・策定や，与論中学校へのフォローアップ調査の実施

○　**ヨロンSC音楽教室**
　与論中学校吹奏楽部への指導者の派遣

○　**総合型スポーツクラブヨロンSC**
　ヨロンSC音楽教室との連絡調整，地域部活動の指導者への研修の実施



Ⅱ．活動概要

与論中学校吹奏楽部には17名の生徒が所属しており，教諭１人が顧問を務めている。その顧問の負担軽減を図り，顧問の転出後も吹奏楽部を地域で支えていくため，予てより外部指導者として部活動に参加していた地域住民１人を部活動指導員として任用し，平日は部活動指導員として，休日は地域部活動の指導者として活用した。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

・　令和３年10月２日（土）から９日（金）までの１週間を例にすると，地域の指導者は平日の部活動に４日間（計６時間）参加し，休日の部活動に１日間（計３時間）参加した。このことにより，顧問の教諭の指導時間は，令和２年度の同時期と比較して，１週間で９時間削減することができている。※

※　【平日】　Ｒ２　４日参加・計８時間指導
　　→　Ｒ３　０日参加・計０時間指導
　　【休日】　Ｒ２　１日参加・計３時間指導
　　→　Ｒ３　１日参加・計２時間指導

　また，この地域の指導者は，２月末時点で，部活動指導員（平日）としては吹奏楽部を総計47.5時間指導し，地域部活動の指導者（休日）としては総計22時間指導をしたところである。

・　地域部活動推進協議会から吹奏楽部の保護者に向けて，「休日の部活動の地域移行」についての説明文書を配布したが，地域の指導者が外部指導者として既に馴染んでいたこともあり，保護者からの問い合わせや相談はない。また，令和３年12月に実施した生徒への聞き取り調査においても，回答した全ての生徒が「地域移行前と移行後で段差を感じない」「困ったこともない」と答えている。

指導、運営上の工夫

○　児童・生徒への指導に関する工夫
　本事業を始めるに当たり，地域部活動推進協議会は，「顧問の教諭と地域の指導者との指導方針に差異があることは厳に避けねばならない」と考えていた。そのため，地域の指導者を選定する際には，指導技術があることはもちろん，顧問の教諭の指導方針を大切にできる人材であることを条件にした。
　そして，顧問の教諭及び学校長の推薦に基づき，外部指導者として生徒にも馴染みがあり，顧問の教諭が懇意にしていた地域の演奏家１人に指導を依頼した。

○　運営上の工夫
　平日の学校部活動と休日の地域部活動とが段差なく接続されるように，地域指導者を自治体の部活動指導員として任用し，平日の部活動も指導できるようにしている。
　また，地域部活動推進協議会を年間５回開催し，地域移行の進捗状況やその時点で生じている課題について協議会全体で情報共有し，必要に応じて解決策を協議している。
　併せて，保護者に対する説明や生徒に対する意識調査を行いながら，部活動の地域移行が円滑に進むように配慮している。

今後に向けた方針・方向性

・「与論町立学校の部活動等の方針」を地域にも広く周知するとともに，地域部活動通信を町内で定期的に発行し，部活動の地域移行について町民の一層の理解を得る。

・　部活動に係る教員の負担軽減を図るとともに，生徒にとって質が高く持続性のある文化芸術環境を構築するため，適切な人材を指導者として任用する。

・　与論町地域部活動推進協議会を毎年度設置し，年間を通して協議していく中で，中学校と文化芸術団体双方の意向を踏まえた運営がなされるようにする。

・　町独自のフォローアップ調査によって顧問の教諭の意識の変容を調べたり，顧問の教諭の勤務時間を調査したりして，真に業務負担の軽減につながっているかどうかを確認する。

・　生徒・保護者向けアンケートを実施し，地域部活動において専門的な指導が実現されているかどうか等を検証する。

・　町の財政負担を減らすために，スポーツ保険の掛け金等については受益者負担としていくことを検討する。

・　離島における課題を解決するために，ＩＣＴ機器の効果的な活用の在り方について検討する。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721701_27.pdf

No.27 沖縄県南城市

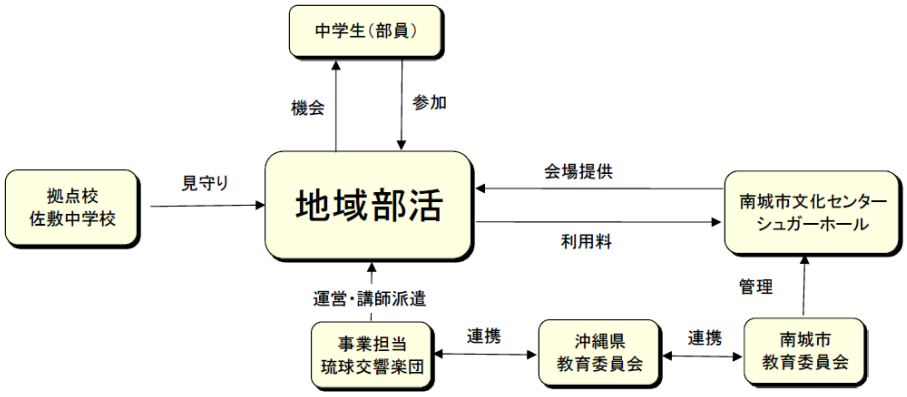
Ⅰ．基本情報

主な活動種別
吹奏楽

（運営主体）特定非営利活動法人琉球交響楽団

（事業目標）・生徒の技術向上
・演奏する充実感、自己肯定感の向上
・指導教諭（顧問）の負担軽減

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

・各パートごとに指導を行い技術の向上を図った。（８パート28回）
・緊急事態宣言やまん延防止措置期間の長期化にともない、当初予定してた講習回数を実施する事が出来なかった。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

・生徒の技術向上のみならず、コンクールへの積極的な参加など演奏する事への意識の変化も得られた。

・プロ演奏者に指導をしてもらえる機会が増えたことから楽器に対する魅力や興味関心を高める事が出来た。

・生徒の奏法チェックを細かく丁寧に指導がなされていることから生徒の演奏する技術が高まり、顧問の合奏指導が楽しく有意義な時間となっている。このことから顧問の部活指導のストレスが解消されつつあるように思われる。

指導、運営上の工夫

○児童・生徒への指導に関する工夫
・初心者が多かったため、楽器の扱い方、メンテナンスから指導を行った。
・部員数が少人数のため、生徒一人一人に時間をかけ指導する事が出来た。
・新型コロナウィルス感染症の影響で講習会回数が減少したが、講師より基礎練習やパート練習について普段の部活動にも活かせるようアドヴァイスを行った。

○運営上の工夫
・沖縄県は新型コロナウィルス感染症拡大のため長期間休校や部活動停止であったが、講習会場（シュガーホール）の協力を得て、可能な限り開催した。
・事業開始前に学校長、保護者会へ事業内容の趣旨説明を行い快諾を得た。

今後に向けた方針・方向性

・今現在、佐敷中学校を母体とした、校区内小学校や近隣高校との連携を図り地域部活への発展を進めている。
・受講者募集については佐敷中学校を母体に連携校にも幅広く呼びかける。また、部活動のない学校においては、興味のある生徒も広く募集を行う。
・連携を図るためには母体となる学校教諭、又は文化施設担当の協力が必要である。
・組織体施が構築され継続的に地域部活動が見込まれた際には、受講生からの会費徴収を検討する。
・県、市町村教育委員会へも予算確保について検討していただくよう連携を密にする。

地域文化倶楽部（仮）創設支援事業

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_01.pdf

No.1 一般社団法人北海道茶道文化振興協会

Ⅰ．基本情報

（運営主体）一般社団法人北海道茶道文化振興協会

主な活動種別

茶道

（事業目標）	茶の湯が利休により大成されてから我が国に400年以上伝わる茶道の精神性を学ぶ。茶道の中の作法・礼法を学び、日本的な所作の美しさを習得する。茶道に包蔵されている総合芸術性を身に着け、芸術的感性を向上させる。茶道の和を学び、伝統的コミュニケーションツールの習得及びコミュニケーション能力の向上も合わせて行う。茶室がなくても茶道ができる認識を略盆点前・茶箱等で学ぶ。嗅いだことのない香を嗅ぎ、香の聞くという感性を得る。歌の世界がお茶や香によって創造可能なことを知る。

団体・組織等の連携

教育機関、地域、その他組織等の連携について（事業計画書に記載したイメージ図等）教育機関（小中高、支援学校等）松栄堂札幌店（稽古場所提供）

Ⅱ．活動概要

活動の概要説明を記載する。（定量的観点、定性的観点）長年伝統文化を伝え、研究している第一線の文化的指導者を倶楽部の教員として招き、放課後の時間を通して、茶室がなくてもお盆を用いて手軽にできる、略点前を始まりとして、茶道文化に触れていただき、精神の修養を図ると共に、最終的には略点前の習得を目指し活動していました。また、茶道文化に密接に関わる、香道や歌道も関連させ、茶道文化の奥深さ、日本文化の美しさを感じ取り、学びとっていただく活動となっていました。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

従来の活動の成果のみではなく、本事業を実施したことにより得られた成果について記載すること。（数値やグラフで示すものがあれば望ましい）

本事業により、得られた成果としてはまず最初に、我が国に400年以上にわたり、伝わる茶道文化の奥深さ、楽しさや美しさを知ってもらうことができた。従来の茶道教室では、茶室ありき茶道の普及活動、高価な茶道具を用いた普及活動が主たるものであり、稽古後等に自宅で復習などを行うことが環境的、経済的に困難な部分があったが、今回当法人が行った略点前では、日本に古来より伝わる見立ての技法を子供達に伝え、自宅にあるものを茶道具として見立てたり、茶道具として使用可能という判断ができるようになり、それらを使用してもいいという大きな発見が第一の成果として挙げられると思われる。そして中には実際に家でお茶を点てる練習をしている子供達も見受けられた。今回参加していただけた子供達からヒアリングを行った結果、ほぼ全員が「この倶楽部をやり続けたい！」「また来年もやってほしい！」「これからもお茶を続けたい！」「先生が好きだからお茶を続けたい！」などと積極的で好意的な感想をいただけた。今回の活動を通して、日本の誇るべき茶道文化の素晴らしさを子供が自ずから気が付いたことで、これからの日本文化を継承していく伝承的人材確保の足掛かりになることができたと考えています。

指導、運営上の工夫

○児童・生徒への指導に関する工夫
生徒一人一人の点前ができるできないの進捗の具合に差があるため、できる限り発生しないように少人数に分けて、一人一人に寄り添う形で親身に稽古を行っていた。困ってそうな生徒にはすぐに声をかけて、やり方やコツなどをわかりやすい言葉で伝えるとともに、一緒に所作をするなどのサポートし、茶道における難しい用語等も、一つ一つ丁寧に説明することで、生徒の理解の増進にもつながった。また、長年茶道を教授されている指導者に稽古をしていただけるため、通常の部活動等では得られないであろう深い知識や感性を受けることができた。これらの指導法の結果、生徒の全員がある程度、一人でも点前を進めれるように成長していった。

○運営上の工夫
歴史のある家の出自を持ち、長年にわたり伝統文化である茶道を教え、研究しながらも、第一線で活躍されている指導者の方を招き、非常に質の高い内容を提供し、茶道のみならず、有職故実、他も道のつく伝統文化の教授もしていただけた。また茶道具についても稽古用ばかりではなく、指導者が所蔵する、歴史的、美術的にも価値の高い茶道具等を実際に触る、使用するなどの貴重な体験も惜しげもなく行っていただけた。また、保護者との連絡を密に、行っていくために、LINEのグループ等も作成し、活用した。その他に当法人オリジナルの茶道教科書を発行し、配布した。

今後に向けた方針・方向性

今回の広報において、地域文化倶楽部の認知レベルを向上するための学校、教職員、地域の代表者に理解を求める活動を積極的にし、地域文化倶楽部事業の成果等が可視化できるような研究及び調査の取り組みをし、それらを教職員に開示し、説明会、講演会等を開催していくことが必要。また、北海道教育委員会、札幌市教育委員会にも協力を要請するために積極的活動をしていく。当法人の活動の趣旨理解に向けたパンフレット等を作成し、理解を深めてもらう。活動場所についてはもっと多くの地点に構えることで、さらに多くの生徒の参加する機会が増えることが見込める。また学校での活動が許可されるに伴い、部活動における教員の負担軽減にも繋がっていくと考えている。事業期間中にまん延防止等重点措置が適用され、社会的観点から広報を行うことが非常に困難を極めた上、活動自体も行うことが支障が生じた為、そうした非常時の活動方針を具体的に決めていく必要がある。子供たちの自宅での自主練習をさらに積極的に進めていくためには、稽古で使用する道具を貸し出すことも、考慮する必要がある。また、稽古道具を人数分稽古場に保管して置くのは困難であり、公共交通機関でも荷物が多すぎて困難であるため、法人所有の車で運送する必要がある場合、助成の対象にする必要を検討が必要。また、活動に際して、予算が不足し、持ち出しが大量に発生した為、予算の不足が懸念される。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_02.pdf

No.2　大館マーチングバンド TEODALE(テダオーレ)

Ⅰ．基本情報

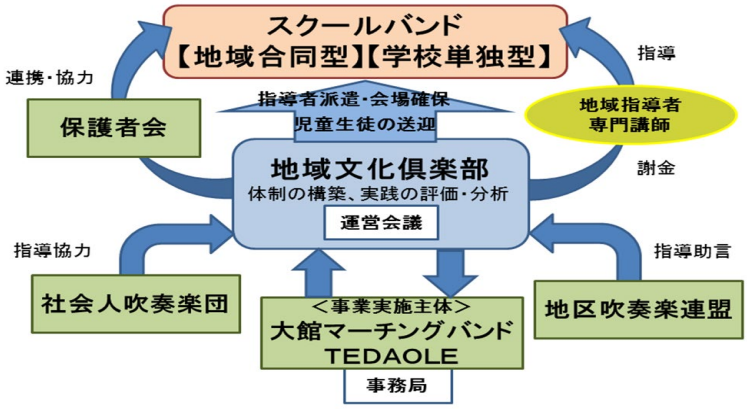
（運営主体）大館マーチングバンド　ＴＥＤＡＯＬＥ（テダオーレ）

主な活動種別

マーチングバンド

（事業目標）　吹奏楽の活動を学校教育の場から、年齢や世代にとらわれずに共に吹奏楽の楽しさに触れることのできる場、専門的な指導を受けて成長できる場へと移行する。
学校や関係団体、地域や保護者会と連携しながら、社会音楽の体制へ移行するための組織・運営方法を研究実践し、構築する。

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

４月：事業説明（市校長会・教頭会、市吹奏楽連盟）
　　団員募集（各校にチラシ配付）
　　関係団体（社会人吹奏楽団等）への個別説明
５月：大館ジュニアバンド活動開始（平日１日、休日１日）、
　　通信の発行（毎月末）
　　学校単独型への外部指導者の派遣開始（～１月）
６月：地区吹奏楽祭への出演
　　大館ジュニアバンドと学校単独型（２校）との合同練習、
　　外部講師の指導
７月：秋田県小学生バンドフェスティバルへの出演
８月：夏季休業中の在籍校への指導者派遣
　　地域文化倶楽部運営会議①（紙面開催）
９月：地区演奏会の中止により、在籍校学習発表会出演に
　　向けた練習
10月：大館ジュニアバンド＆ＴＥＤＡＯＬＥによる学習発表会
　　での演奏（２校）
　　団員・保護者アンケート実施
11月：地区アンサンブルコンテストに向けた練習開始
12月：地区アンサンブルコンテストへの参加
　　地域文化倶楽部運営会議②（個別説明・聞き取り）
１～３月：新型コロナウイルス感染拡大防止のため活動の中止
　　（地区公民館音楽祭・単独発表会の中止）
　　秋田県小学校管楽器研究会における事例発表
　　市校長会・教頭会での活動実績報告
　　地域文化倶楽部運営会議③

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

・少子化により部員数が１桁になっている学校が増え、単独での演奏が難しくなっている。学校単位で、または、個人的な参加ができる受け皿（大館ジュニアバンド）を立ち上げたことで、たくさんの仲間と演奏する機会が保障された。本市における社会教育化の第一歩 となった。参加の団員、保護者から喜びと感謝の声が寄せられた。（アンケート調査より）
・週に２回の練習日ではあるが、運営主体のテダオーレの団員（中学生から社会人まで）が、それぞれパート毎に指導しており、譜読みや音取りなどが効率よくできている。そのため、曲の仕上がりが早く、大人と一緒に合奏できる楽しさも味わえている。色々な世代、または、教師だけではない大人との交流が地域合同型の良さだとの感想が多かった。（アンケート調査より）

指導、運営上の工夫

○児童・生徒への指導に関する工夫
・色々な大人が随所で関わるよう、状況に応じて必要な場面で必要な指導者を事務局が選定、依頼、派遣した。
・学校の枠を越えて一緒に活動することができる環境作りとして、仲間作りには大人側の十分な配慮を要した。特に、学校での様子も聞き取り、大人側の接し方について共通理解した。
○運営上の工夫
・大館ジュニアバンドにとって、メインとなる発表の機会である秋田マーチングフェスティバル大館大会＆音楽の広場（９月５日）が、新型コロナウイルス感染症の拡大により、やむなく中止となった。そのため、急きょ、発表の場を、ジュニアバンド参加校の学習発表会（９／２６、１０／１７）に設定し、テダオーレとの合同演奏とした。

今後に向けた方針・方向性

・令和５年度の「大館市地域文化倶楽部」の本格実施に向けて、令和４年度内に市教育委員会生涯学習課へ説明・要望をしながら組織・予算を確保したい。
・地域・保護者・学校への説明を、様々な機会を捉えて周知と協力要請をしていく。
・学校部活動としての廃部にともない、各校に保管されている備品楽器をどのように管理・活用していくか市教育委員会学校教育課と協議をもつ。
・事務局スタッフ、指導者については、テダオーレが主体となりながらも、市内社会人吹奏楽団にも協力を要請する。登録した指導者を、必要な場面で派遣していく。
・保護者会を設立し、運営面での補助ができる体制をつくる。
・市内の文化関係団体と連絡のとれる体制をつくる。パイプ役に留まらず、苦情対応、学校との連絡調整等できる立場を確立していく。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_03.pdf

No.3　寒河江市立寒河江中部小学校 地域学校協働本部

Ⅰ．基本情報

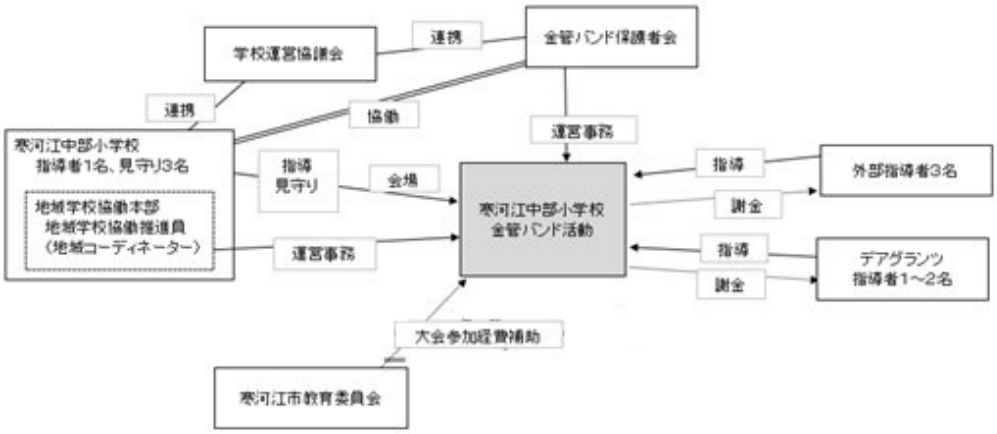
（運営主体）	寒河江中部小学校地域学校協働本部 寒河江市立寒河江中部小学校 寒河江市立寒河江中部小学校金管バンド保護者会

主な活動種別

金管バンド

（事業目標）	○地域・学校・保護者による運営の協働 ・　金管バンド(マーチングバンド)外部講師の確保 ・　金管バンド外部講師への謝金確保 ・　金管バンド外部講師の活動状況把握

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

- 中部小学校金管バンドは、４～６年児童の希望者で構成し活動している。
- 週に３～４回、中部小学校の体育館を拠点に活動している。
- マーチング演奏のため、市内や周辺市町の体育館を借りて、大会に向けた練習を数回実施している。
- 学校の行事や地域のイベントでの演奏の他、マーチングバンド全国大会を目指し活動している。
- 顧問１名、外部指導者６名、その他OBが指導にあたっている。
- 地域において文化的な活動を行っている唯一の団体である。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

・これまで、４名の教員が指導にあたってきたが、外部指導者を６名確保できたことにより、教員の指導者を1名にすることができたため、教員の負担軽減につながった。また、保護者会予算を保護者会で管理することになったことも、教員の負担軽減につながった。
・外部指導者の出席日数が飛躍的に向上し、練習も充実した。ちなみに４～１０月までの各外部指導者による 指導時間は次の通りである
指導員A　１０１．５　時間
指導員B　　５９．５　時間
指導員C　　４０．５　時間
指導員D　　３９．５　時間
指導員E　　２２．０　時間
指導員F　　１５．５　時間
・児童や保護者からは、毎日、丁寧に指導してもらえるので、練習が充実しているという声がたくさん出ている。
・保護者からは、これまで教員がやってきた仕事の大変さがよく分かったという話をよく聞くようになった。

指導、運営上の工夫

○児童・生徒への指導に関する工夫
・指導者を複数確保できたことにより、全体指導、ガード(踊り手)、金管楽器、打楽器 の指導の分担が可能となった。
・休日に行う強化練習や演奏会場への児童の移動、機材の運搬など保護者が当番を決め、行うようになった。
○運営上の工夫
・ 普段の練習は、放課後、学校の体育館や視聴覚室、音楽室、中庭などを開放し、コロナ感染対策をしながら　練習した。
・大会場での練習が必要な場合や強化練習などの際は、保護者、外部指導者が中心となって、日程や会場の確保を行ったことで、学校の負担も減り、学校の都合に合わせることなく実施することができた。
・大会参加については、学校、保護者、外部指導者、教育委員会の協力により、役割分担を行い参加している。

今後に向けた方針・方向性

記載なし

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_04.pdf

No.4 アーティスト・イン・スクール西会津実行委員会

Ⅰ．基本情報

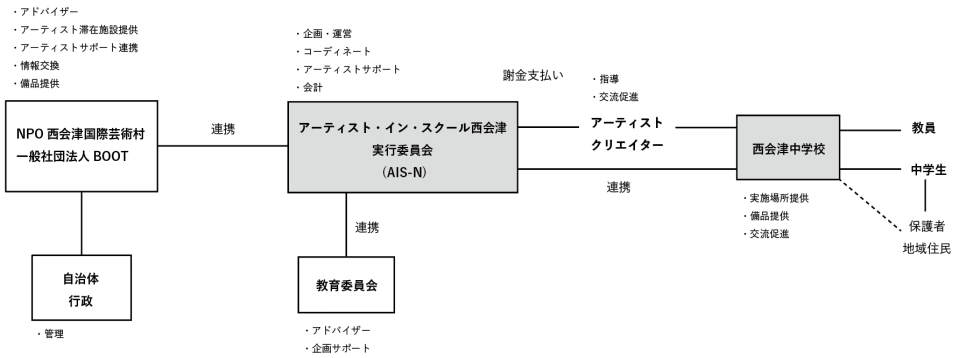
（運営主体）アーティスト・イン・スクール西会津実行委員会

主な活動種別

現代美術

（事業目標）福島県西会津町内の学校(西会津町立西会津中学校)の空き教室や多目的広場、図書館などを利用して、アーティストやクリエイターが教育現場を一時的な拠点として、滞在制作や生徒との交流の中でアート活動を行う。国内外で活動している様々な芸術分野のアーティストやクリエイターとの交流を通して、多様な価値観、生き方を学ぶ機会を創出し、ものの見方にゆらぎを感じてもらい、これからの未来を担う生徒たちの創造性や可能性を引き出すことを目的とする。また現状の教育現場に新しい風を送り込み、教員や特に地方社会が抱える閉鎖的な地域構造や課題にアプローチする。

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

西会津町にアーティストを招聘し、滞在しながら制作を行ってもらう。制作場所は西会津町内に絞り、　展示場所を西会津中学校内に行う。これまで現代アーティストの作品が１つのみだったが、本年度は３アーティスト、計５作品を展示した。（うち、３作品は海外アーティストの作品のため、常設にて展示）アーティストの作品は生徒含めて先生方にも注目されている。より多くのアーティストの訪問を期待されている。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

・コロナの影響もあり、こちらの望む通りの展開を見せることはできなかった。
・しかし、現代作家の作品を展示しておくことで、興味を示した生徒は多く見受けられた。
・アーティストが学校訪問をした際には、直接生徒が見学に来て、アーティストと話をする機会を設けられた。
・部活動への関与が本年は難しく、次年度からプログラムに盛り込んでいただけるように調整中である。
・アート作品を閲覧するのは、実際に展覧会などをしている会場に足を運ばなくてはいけない。そのために先生方の引率が必要である。しかし、学校内に作品が展示されているというだけで、生徒たちが自由に閲覧する機会を得られる。この点は、実践されてきてはいないが、小さな町における重要な要素ではないだろうか。
・また、本企画が学校内に展開したことで、西会津国際芸術村が毎年開催している「公募展」の学校内展示も行えた。このことで、なかなか足を運ぶことのできない町内の文化施設の実態を確認できたのではないだろうか。

指導、運営上の工夫

○児童・生徒への指導に関する工夫
・上記にも記した通り、指導まではコロナの影響もあり踏み込むことはできなかったため、特筆できる事項がない。

○運営上の工夫
・定期的な学校訪問やメールでのやりとりを続けて、学校への印象付けは行っている。
・アーティストが訪問する際、また作品を搬入した際には、放送にて全校生徒へ周知を行なっている。
・定期的な通信を作成し、アーティストの活動を伝えている。

今後に向けた方針・方向性

令和5年度には、4年度から引き続き制作を続けている外部アーティストの参入を計画している。作品完成に向けた段階でワークショップを開催する予定である。また、町内に移住しているクリエイターやアーティストにワークショップを行なっていただき、町内にさまざまな人材がいること、その人材が部活動という形を通して、学校と関わりを持つことを計画している。部活動の顧問や生徒とも意見交換を行い、この外部人材に当てられる予算などの確保を行なっていきたいと考えている。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_05.pdf

No.5　取手文化倶楽部 AFTER SCHOOL MUSICAL

Ⅰ．基本情報

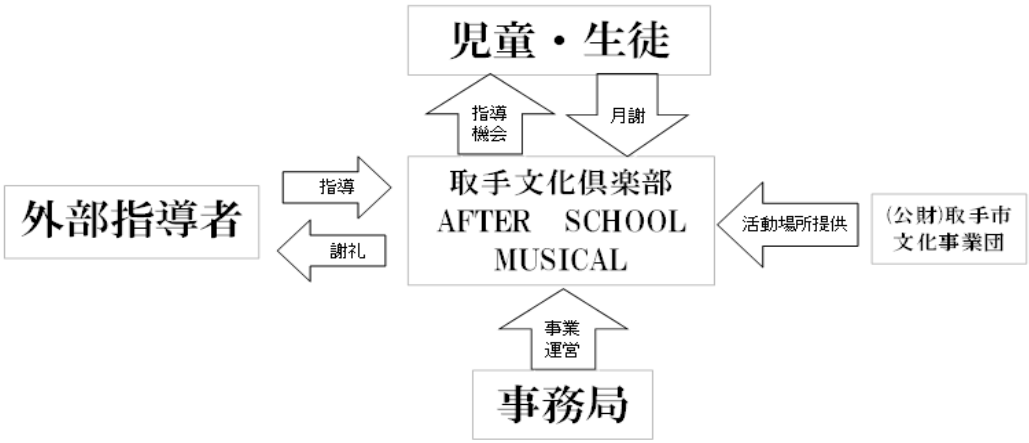
（運営主体）取手文化倶楽部　AFTER　SCHOOL　MUSICAL

主な活動種別

ミュージカル

（事業目標）生徒たちに音楽や踊り、演技などミュージカルを通して幅広く総合芸術に向き合う機会を与え、心身共に成長する姿を地域住民に披露することで、地元や地域住民との繋がりを保ち続ける長期的な取り組み

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

定期的な取り組みを実施しようとしたが、コロナ禍の状況で使用場所の閉館等、計画通りに進まず、その状態を見て何とかしなければという思いを強く持った有志が今後について月2回程度の話し合いを持った。これによりNPO法人化計画が動き出した。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

コロナウィルス感染拡大により、単発のワークショップになってしまったが定期的な開催を望む声が、参加者より多数頂いた。また、現在当市内中学校には、合唱部・ダンス部・演劇部がなく、需要があることが分かった。この事業を行うことにより、NPO法人を立ち上げようという有志が集まり継続的事業にしていこうと現在設立準備中。22年3月上旬申請予定。

指導、運営上の工夫

○児童・生徒への指導に関する工夫
今年度は新型コロナウィルス感染拡大により、政府や県から緊急事態宣言や蔓延防止措置の発令が出てしまい活動が制限された中でしたが、のびのびと活動できるように広い部屋（定員の1／5）で活動できるようにした。また、生徒一人一人とキチンと向き合うことの出来る技量を持った指導者が指導に当たった。

○運営上の工夫
教育委員会を通じて小中学校全生徒、高等学校には、各校50部ずつ募集チラシを配布した。市の広報紙にも募集記事を掲載した。構成メンバー全員で専門性の高い、実績のある指導者の確保に努めた。指導者選定には、構成メンバーによるコーディネートで、多岐にわたる人材を配置した。公益財団法人取手市文化事業団の職員にもメンバーに加入頂き、会場利用を円滑にできるよう調整頂いた。

今後に向けた方針・方向性

参加者に行ったアンケート結果により、どのようなニーズがあるか得られたが、学校の教員、保護者のニーズも幅広く集めて、把握してゆきたい。例えば、活動の場を学校に求め、指導者を派遣する形をとりたい。そのために教育委員会や学校と連携を取っていきたい。単独校での活動は難しい状況なので、複数校での取り組みとしたい。内容は、合唱、ダンス（バレエ含む）、演劇の各分野を育て３部門を融合するミュージカルを上演することを目標としたい。その為にはNPO法人化し継続的に活動する事が期待される。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_06.pdf

No.6 渋川子ども若者未来プロジェクト

Ⅰ．基本情報

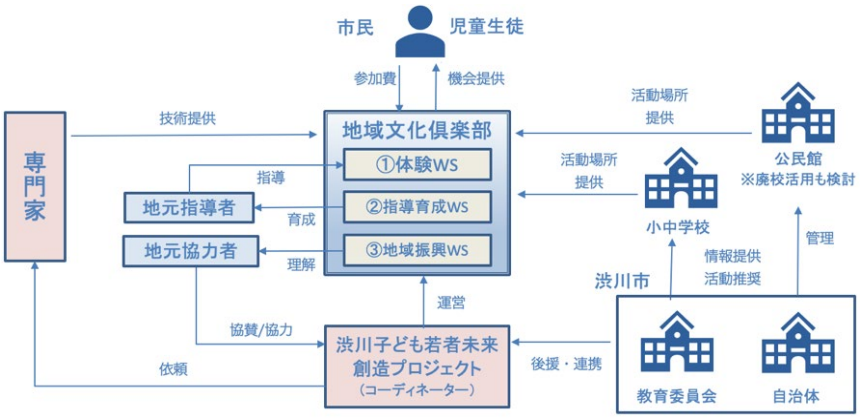
（運営主体）渋川子ども若者未来プロジェクト

主な活動種別

舞台美術

（事業目標）市民ミュージカル活動を地域における舞台芸術文化の活動として定着させるとともに、子どもたちが生涯を通して学び・体験ができる環境づくりに向けて、世代間や他地域との交流による地域活性化の受け皿ともなる「地域文化倶楽部」の創設を目指す。

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

コロナ感染の緊急事態宣言による影響で計画変更を余儀なくされ、事業開始も大幅に遅れたが以下の活動を実施することができた。
①子どもたちのニーズ発掘に向けて11月から出前WSを実施した。
　小学校で授業（3回）、学童保育、フリースクールで体験教室（各１回）。
②ミュージカルの一般向けＷＳは対象者を分けて土日に実施した。
　初心者向けWSは、脚本、歌唱、ダンス、演技、大道具など舞台活動の基礎・基本を組み合わせた実技とミニ芝居の体験、指導者ＷＳも同時に行った（11～1月、計３回）。
　文化活動の定着に向けた実践的WSでは、コロナ禍で活動休止となったオリジナルミュージカル作品づくりを再開するために参加者を募り、外部専門家から脚本・演出、歌唱、ダンス、芝居・演技等の指導を受けながら舞台作品を創り上げていくWSを10月から実施した（計17回）。
③渋川教育の日の実行委員会に参加が認められ、市民会館で開催された「まなびの日」イベントで「地域文化倶楽部」等を紹介したパネル展示の他、舞台発表で市民ミュージカルを紹介するパフォーマンスを披露し、来場者に活動をPRした。
④WS成果の検証と今後の活動を考える地域振興フォーラムを実施した（1月）。
　出前WSを実施した小学校担任から、実施内容の教育的効果について、子どもたちの感想と併せて報告があった。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

最大の成果は、今年度の取り組みを通して渋川地域の特色ある「地域文化倶楽部」の骨格が見えてきたことと次年度に向けた課題点が抽出できたことである。特に検討・運営会議で外部専門家から、全ての体験ＷＳにおいて子どもたちが生き生きと自分たちで考えてやろうとしていた、多世代参加型の活動で大人たちが真剣に取り組む姿を間近に見て刺激を受けていた、皆でやって達成感を感じていたなど、質の高い活動内容だったと評価されたことである。

指導、運営上の工夫

①指導者については、連携先の劇団「もんもちプロジェクト」主宰、演出家の中原さんの全面的な協力を得て、専門家を派遣していただいた。地元の経験者が指導者の補助をする形で協力してくれた。
②体験WS参加者は公募とし、市内全小中学生・教職員にチラシを頒布、市民向けには自治会回覧板を通じて周知、市内公共施設にもチラシを配布して広報を依頼した。参加し易い土日・休日の昼間に開催した。
③参加者（保護者）には、事務局メールでWSに関する情報提供を行った。

今後に向けた方針・方向性

①市教委と連携を取りながら、ニーズの掘り起こしとして、演劇的手法を用いた学校向けWSを市内の小中学校にて、年度プログラムに組み込む形で実施を行うことで、教育的側面にも着目した活動を行う。
②子どもたちのみならず、大人たちも交えた多世代型の部活動として、オリジナル作品づくりや舞台発表を目標にした継続的なWSを行うことで、より地域に身近に感じてもらいながら、多様な価値観を学ぶことのできる受け皿として、地域文化倶楽部の創設目指す。（次年度の活動の中心として、検討を行う）

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_07.pdf

No.7 一般社団法人さいたまスーパーシニアバンド

Ⅰ．基本情報

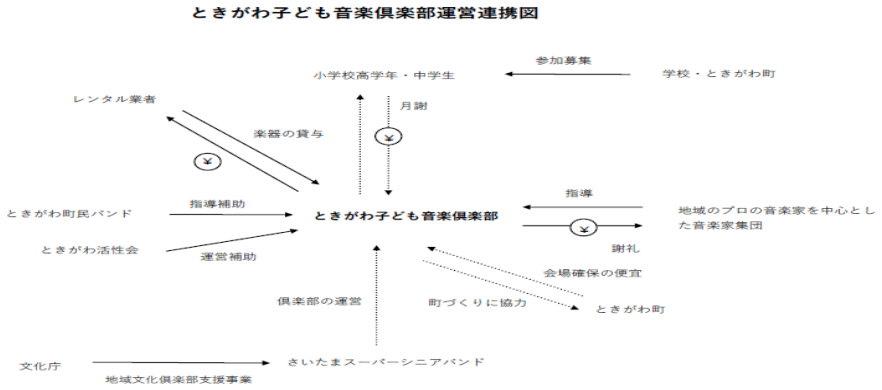
（運営主体）一般社団法人さいたまスーパーシニアバンド

主な活動種別

吹奏楽

（事業目標）ときがわ子ども音楽倶楽部の活動を通じ、子どもたちが本格的な音楽活動を享受できる環境づくり、運営と楽器演奏をサポートするシニアと子どもたちの世代間交流、文化活動の発展による過疎化が進む地域の活性化を目指します。
【令和3年度】
・ときがわ子ども音楽倶楽部の設立と初年度事業計画の着実な実施
・地域に根付く活動としての環境づくり、活動継続を目指すための課題を検討する。

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

・コロナ感染防止対策のため対面での会議が厳しかったことにより、ZOOMにて実施委員会を行った。
・ときがわ町教育委員会の協力のもと中学校・小学校を対象に、子ども音楽倶楽部の部員募集チラシを配布するなど告知を行った。
・初回7月24日（土）はオリエンテーション、楽器選択などを行ない、8月～1月まで毎月2回全体練習を行った。さらにプロ演奏家によるパート練習を各3回開催し演奏技術の向上に努めた。
・コロナ禍で公共施設閉鎖時は、部員のモチベーション維持のため、講師宅で特別講座を開催したり、各自自宅で担当楽器のe-ラーニングができる様教材を作成し、動画をYOUTUBE配信した。
・成果発表会は2月6日（日）に予定し、事前に会場でのリハーサルをおこない本番に備えたが、オミクロン株感染拡大により直前で中止とし、さいたまスーパーシニアバンド・ときがわ町民バンドの演奏と、プロ講師陣の演奏を録画し子供たちに配信した。
・2月27日に最後の練習を兼ね、部員のご家族に成果発表の演奏を披露した。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

・過疎化が進み民間や公共のクラブ活動が少なく、中学の部活の選択肢も少ないときがわ町にて、子どもたちのための音楽倶楽部を設立することにより、子どもたちが地元にて音楽活動ができる道筋ができた。
・コロナ禍で事業推進に腐心したが、計画した練習日はほぼ確保し海兵隊、茶色の小瓶の2曲を合奏できた。
・成果発表会は新型コロナ「まん延防止等重点措置」で中止となったが、子どもたちには関連動画を鑑賞でき、倶楽部の学びにつながるように考慮した他、ご家族には最後の練習日に成果を披露した。
・アンケート、ヒアリング等のまとめは「別添」するが、楽器の練習を通したシニアと子どもの交流は自然に進み、子どもたちの家庭では約8割が家庭での音楽倶楽部の会話があったというアンケート結果となった。またヒアリングの結果、約8割の子供たちが活動の継続を望んでおり、コロナ禍であるが活動成果が出ている。また、コロナ禍で対面での検討会の実施が難しかったため、キャリア専門の大学教員からのアドバイスが受けられなかったため、次年度以降の課題としたい。
・本事業の成果を、ときがわ町・同教育委員会に報告し意見交換することにより、今後、学校の部活動との関係性につき話し合う契機となった。

指導、運営上の工夫

○児童・生徒への指導に関する工夫
・楽器未経験の児童・生徒も多く、楽器の取り扱いから丁寧にサポートすることを心掛けた。
・練習時は、毎回さいたまスーパーシニアバンド、ときがわ町民バンドのメンバーがサポートした。地域のコーディネート人材として発揮できたと考える。
・コロナ禍で施設が利用出来ない期間もあり、生徒が自宅で練習できる様、楽器パート別に演奏教材を動画作成しYouTubeで配信した。
・プロ演奏家の楽器パート別指導は年間3回実施し生徒のモチベーションアップを図った。

○運営上の工夫
・学校行事を配慮した練習日程の調整と練習施設の確保
・新型コロナウイルス感染状況に応じ、公共施設の使用等につき、ときがわ町と情報共有し対処した。
・保護者との諸連絡は基本E-メールを使用し、タイムリーな情報共有に努めた。
・練習にあたっては感染防止策を徹底し、クラスターを起こさないよう対策した。

今後に向けた方針・方向性

学校部活動の地域移行に関しては以下の方針で取り組む。
・ときがわ町教育委員会との連携により中学校部活動が抱える課題を共有する。
・地域移行の受け皿として、プロの音楽家、アマチュア吹奏楽団のサポート体制を維持する。
・活動成果の発表、周辺地域団体との交流の場を設定し、活動のモチベーション維持を図る。
・プロの高質な演奏を聞く機会を設定する。
・「ときがわ子ども音楽倶楽部」を学校部活動の地域移行モデルとして確立をめざす。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_08.pdf

No.8　有限会社　東京演劇アンサンブル

Ⅰ．基本情報

（運営主体）有限会社　東京演劇アンサンブル（埼玉県新座市）

主な活動種別

演劇

（事業目標）子どもたちが地域において文化・芸術に触れる機会を持てるように、新座市内の事務所のある劇団が中心となって、地域に根差した定期的な活動を行います。

団体・組織等の連携

新座市民会館との提携企画ができる様なパートナーシップを作る
学校には、チラシの配布などの協力を求める
保護者を中心とした地域サポーターを増やす

Ⅱ．活動概要

年間30日、80時間を超える活動の補償
5～24名の地域参加者

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

初年度のため、まずは地域に根差し、地域の方に知ってもらう活動の見え方を考えました。野火止RAUMでの公演は、コロナ禍のため客席数を限定し手になりましたが、64席×2回公演、すべて満席となりました。
参加した小・中学生は、次年度の参加も希望しており、年々参加者が増えることを期待しています。
新座市内では、演劇部のある学校がほとんどなく、そのよりどころとして期待が膨らんでいます。

指導、運営上の工夫

○児童・生徒への指導に関する工夫
初期のころは、作品創作ではなく、コミュニケーションワークショップを中心に実施しました。作品創造は、プロセスが重要であり、そのプロセスにおいては、豊かで、他者を意識できる人間関係が不可欠です。その時期を経ての作品創作は、意見交換ができ、他者の話を聞き、違いを認めることで、その思いが、自分自身を変化していくことにつながります。そのため、コミュニケーションワークショップを中心とした活動を実施ししました。専門的な知識のある音楽家、舞踏家などの指導を活動内に加えることで、質的向上を図ることができた。

○運営上の工夫
指導者は、長年劇団で経験を積んだメンバーを中心に活動しています。
地域に根差した活動とするため、小・中学生ではあるが、30代くらいまでを参加者対象とし、異年齢での作品創りを意識しました。普段学校生活では会えない地域の大人との活動は、参加する小・中学生にとっては貴重な経験となります。
公演に際しては、チラシ配布、集客、衣裳製作など、保護者の協力を経て、できるだけ幅広く地域に周知できるように工夫しました。
若い指導者の人材育成としては、協力機関としての日本児童・青少年演劇劇団協同組合の人材育成事業などを活用しています。

今後に向けた方針・方向性

新座市内の小中学校には演劇部がほとんどない（主催者リサーチでは1校のみ）ため、新たな演劇クラブとして活動を開始しました。関心のある層が自分の学校の部活動にはない活動が、地域クラブに入ることで、解消できるような道筋を作りたいと思います。
教育機関との連携は不可欠で、令和4年度の活動の中で、連携・協力を深めていきたいと思います。
参加費負担の高額化の解決方法が難しい。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_09.pdf

No.9 一般社団法人 全国邦楽器組合連合会

Ⅰ．基本情報

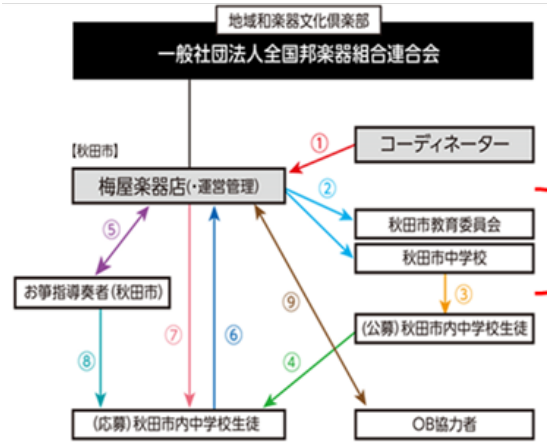
（運営主体）有限会社 梅 屋

主な活動種別

和楽器（箏）

（事業目標）秋田市に日本伝統音楽「箏曲（そうきょく）クラブチーム」の組織体制を創設し、生涯を通じて文化芸術に親しむ態度の涵養を目指す。

団体・組織等の連携



①運営及び管理上のコーディネート支援及び指導
②募集における案内とポスター掲載募集チラシ配布協力要請
③中学校生徒に公募の案内
④参加募集により中学校生徒が応募
⑤お箏指導講師と契約(謝礼・指導方法・期間等)

⑥入会申し込み
⑦お箏の指導の機会(場所等)提供・お箏の貸与　ICT活用等案内
⑧お箏の指導(ハイブリット型)
⑨OBのボランティア協力

新たに秋田市校長会・秋田県音楽教育研究会との連携も出来ました

Ⅱ．活動概要

児童・生徒が、生涯を通じて日本伝統音楽文化芸術「和楽器」に親しむことができるよう、支援する環境や受け皿として一般社団法人 全国邦楽器組合連合会が、持続可能な和楽器の文化芸術活動の課題を解決するために「地域和楽器文化倶楽部」を創設しました。その一つが秋田市日本伝統音楽「箏曲（そうきょく）クラブチーム」です。秋田市日本伝統音楽「箏曲クラブチーム」は和楽器の「箏」を主に児童・生徒を対象として創設した倶楽部です。和楽器の魅力に触れながら『自己表現・協調性・達成感』を学び、生徒さんの健全な育成の一助となることを目的とし、この事業を通して日本伝統音楽及び「和楽器」への興味・理解を深めてもらう機会になることを目指しております。
レッスン方式は対面とオンラインレッスンを併用したハイブリッド型レッスンを実施。
秋田県初の和楽器を活用した校外型クラブチームです。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

コロナ対策及びICT活用の実証事業として、外部箏指導講師の指導のハイブリッド型レッスンを取り入れたことで生徒が学校に滞在する時間の短縮により教員の負担軽減に貢献。
生徒自身は自宅にいるので、送り迎えなどなく安心と安全であると同時に有効に時間も活用できる。
指導方法、時間の活用、和楽器演奏などについて、スマホやPCなど普段から使用しているので、オンラインでの指導に対して楽しみながら、集中できるとの生徒の意見があった。

指導、運営上の工夫

各学校生徒１名ずつチラシを配布、ポスター掲示等行ったが、学校への問い合わせ等がないように責任の線引きをした。
地域音楽コーディネーターに広報的なアクションの起こし方などレクチャーいただいた。
講師に対してZOOM研修を行い、演奏以外の機械操作等の説明を生徒にできるようにした。
ICT活用により、リモートレッスンをはじめ、募集の為のSNS発信・SNS広告、また他の団体との交流を可能にした。

今後に向けた方針・方向性

リモートの強みを生かして全県に募集を拡大する。
スポンサー企業・クラウドファンディングを意識したPR活動の実施。「和楽器」の素晴らしさを地域にアピールし、協賛いただける仕組みづくりやイベントなど地域活動にも参加する。
教育委員会、校長会、小中学校と定期的に情報共有の機会を設け、「和楽器」を楽しむ地域活動環境づくりを推進し、学校・学年を超えた風土づくりと他の学生団体との交流を実施する。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_10.pdf

No.10 Kashiwa Special Sounds

Ⅰ．基本情報

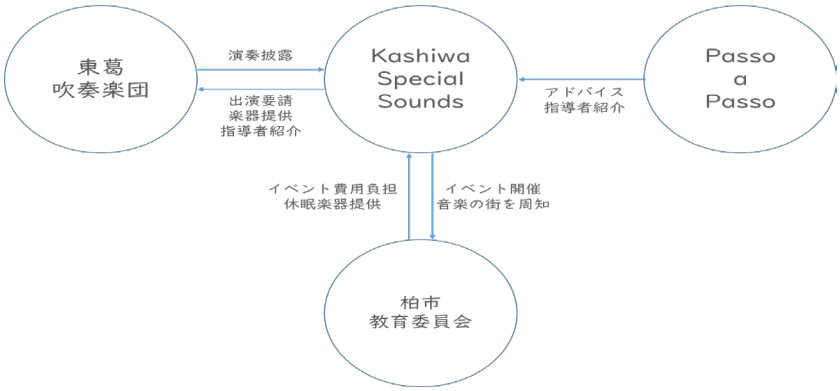
主な活動種別

吹奏楽

（運営主体）Kashiwa Special Sounds

（事業目標）
吹奏楽団を立ち上げるにあたっての課題としては①楽器の確保②練習場所の確保
予算面で持続可能な運営を行うには③団員15名以上が必要
これらをクリアすることが現時点での事業目標となる。
また、立ち上げからの課題解決方法など様々な取り組みをモデルケースとして全国に発信する。

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

毎週日曜　13：00-17:00に練習を行っている。
順位づけされるコンクールには出場せず、地域のイベントや夏祭りなどでの演奏披露と年に1回行う定期演奏会が活動の主体となる。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

○地域との連携
・メセナ(企業による文化支援)1件成立
○メディア掲載実績
・新聞5紙：柏市民新聞8/13号、東葛まいにち8/25号、柏市民新聞9/24号、柏市民新聞2/12号、ちいき新聞2/18号
・ケーブルテレビJ:COM：「ジモト応援！千葉つながるNews」8/16放送
○3/19開催「第一回定期演奏会」
・チケット販売180枚　(2022.3.5現在)
○クラウドファンディング実績
・2021/7/16～8/31まで　17万円　・2022/02/16～現在進行中　8.7万円
○SNSの活用
・毎週2～3回の投稿ペース　Twitterフォロワー730人越え
→全国の吹奏楽団と相互フォローを行い、楽団運営の工夫などの情報発信を行う

指導、運営上の工夫

当団では、講師からの一方的な指導（ティーチング）はせず、問いかけや双方向のやり取り（コーチング）に重きをおいている。
①Tシャツのデザイン②定期演奏会の選曲③プロ講師が作曲した曲名など、団員の意見を反映し決めていることで団員が楽団運営を自分事として捉えてるようになっている。
合奏レッスンばかりではなく、楽器パートごとの個別レッスンも行っている。
コロナ禍でコンサートなどのイベントが中止となり、演奏参加アルバイトなどが激減している音大生への就業機会を提供しつつ、パートごとの専門レッスンを行い、演奏技術の底上げを行っている。
教育委員会からのアドバイスで、定期的に柏市の記者クラブに楽団の情報提供を行い、目にとまれば取材してもらっている。

今後に向けた方針・方向性

・楽団があることを知ってもらう
→プロが演出する第一回定期演奏会を録画し、編集した動画をSNSや駅前のデジタルサイネージなどで公開することで認知度をあげていく
→イベント出演の依頼が増えており、演奏披露とともに団員募集のチラシを配布していく
・日曜のみの活動のため、平日の自宅練習を充実させたい
→You tubeを活用した自宅でできる個人練習動画の作成
地域と共に育ち地域に愛される楽団を目指しており資金面などで地元の協力を仰ぎたい。
学校部活動では難しかった外部(地元企業など)の協力が地域部活動では可能になると考えており、費用などの支援をしてもらった見返りに地元で演奏するなどの流れが生まれることが望ましいと考えている。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_11.pdf

No.11 一般社団法人 日本伝統文化の会

Ⅰ．基本情報

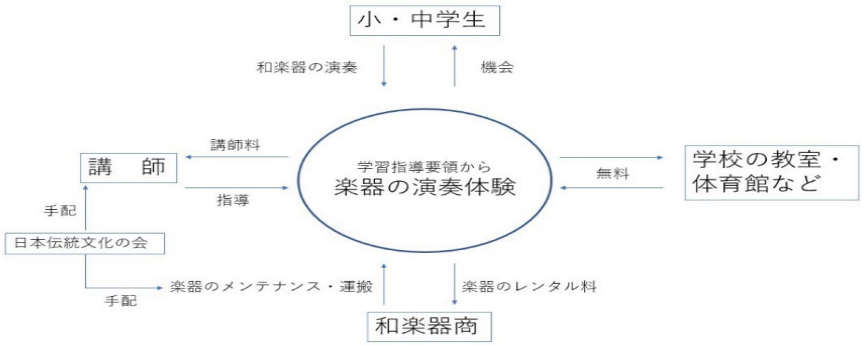
主な活動種別

和楽器

（運営主体）日本伝統文化の会、港区邦楽邦舞連盟、地唄箏曲美緒の会

（事業目標）事業目標は子供たちの豊かな感性や情操を養うことを目的に、日本固有の文化である邦楽のワークショップを授業や部活動の中で行っていくこと。

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

各学校の教室（ランチルーム等広い教室）や体育館で講師2人から6人プラス音楽の教師を中心に活動。講師の人数やお箏の面数などを変え、どのような体制が好ましいかを検証。また、講師の年齢も幅広く派遣し、生徒たちの反応を観察しながら活動を行った。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

・小学生は4年生・5年生の体験学習で普段はふざけがちな子供も真剣なまなざしで初めての体験に取り組んでおり、先生方も驚く場面が数多く見受けられた。
・教室はランチルーム等広い教室を使用して体験学習を行う場合が多く、その場合お箏を10面使用し、1面を3人から4人の生徒で使用。1時限授業内で生徒がお箏に触れる回数はひとり6回から10回となる。しかし体育館などの広い場所で行う場合はお箏を20面使用し、1面を1人から2人の生徒が使用。生徒がお箏に触れる回数は格段に増え「さくらさくら」を全員が合奏するまでに習得するケースがほとんどだった。また、お箏を弾けない教師も一緒に参加することで、お箏の楽しさや、音色などの魅力を感じ、今後の授業にお箏を積極的に取り入れていく可能性が増えると思われる。
・小学校での和楽器体験をすることで、中学校や高等学校に進学し、部活動としてさらに経験を積む生徒が出てくる可能性がある。

・中学生は学校が成果発表の場を設けてくれていることもあり、本番に向けて真剣に練習。お箏だけでなく、三味線の体験授業も行ったが、選択制のためかお箏は女子生徒のみだった。お箏は正座をしない立奏スタイルにすることで男子生徒も演奏しやすくなり、お箏の魅力を体験してもらえる可能性がある。男子生徒が加わることで力強い演奏が期待でき、部活動でも女子生徒の文化部というイメージからパワフルな和楽器クラブとして発展する可能性がある。

・高等学校では定時制の生徒を対象に体験授業を行った。外国籍の生徒も多く、外国籍の生徒は日本伝統文化に関心を持ち、和楽器の学習を通して日本文化に対し理解を深めていた。高校生は少し好き嫌いが顕著に出るかと思ったが、講師指導のもと素直に習得を深め、全員の合奏は一体感あるものとなった。定時制は特に外国籍の生徒が多いこともあり、部活動として和楽器を取り入れることで、日本の伝統文化の理解を深めるきっかけとなる可能性がある。

指導、運営上の工夫

○児童・生徒への指導に関する工夫
楽器商と連携し、不足がちな和楽器の数を増やし、多くの生徒たちが飽きることなく練習に取り組める。また、「さくらさくら」などの邦楽の演奏だけでなく、芸大卒の若手指導者によるアニメソングの演奏などを聞かせた。これらの工夫により、学習指導要綱に規定している和楽器の演奏体験がより積極的に行われるようになるように工夫した。

○運営上の工夫
生徒数と場所や楽器数を事前に調整し、学校と演奏家、楽器商の連携に重点を置き生徒にとってのメリットを追及し、学校が保有する楽器だけに依存することなく、レンタル楽器の導入を図った。それらのことで、生徒が和楽器に触れる回数が増え、短い時間でも十分楽しんで演奏することができる環境を整えた。

今後に向けた方針・方向性

和楽器の授業をサポートしながら、地域ごとに楽器商や演奏家をデータベース化し、学校の特性に合わせた部活動を実施できる体制を作る。子供達には洋楽やアニメソングなども演奏させて和楽器の楽しさを体験させ部活動への参加意欲を高める。地域との連携を強化することで教員の負担を減らし、さらに学校の施設を活用した地域住民との合同演奏会などを開催するなど、地域文化活動へと発展することが可能と考える。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_12.pdf

No.12 東京大学 アート・クロスロード実行委員会

Ⅰ．基本情報

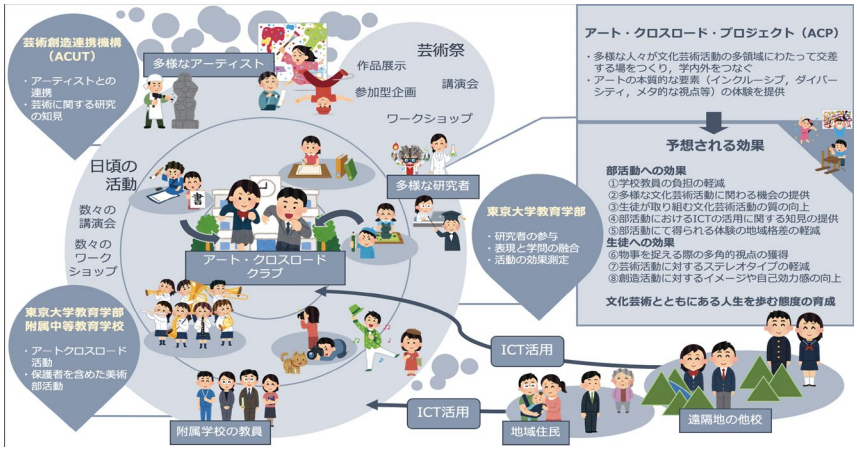
主な活動種別

（運営主体）東京大学 アート・クロスロード実行委員会

文化芸術活動

（事業目標）a) 文化倶楽部の指導に従事する学校教員の負担の軽減、b) 多様な文化芸術活動に関わる機会の提供、c) 生徒が取り組む文化芸術活動のさらなる質の向上、d) 地域格差の軽減のためのICT技術の試用、e) 他校の生徒たちや地域の人々との文化芸術活動を通した交流を試みる。

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

クロスロードクラブのコアメンバーが主体となり、文化芸術に携わる研究者やアーティストによる講演会・ワークショップ等を定期的に開催しながら、多様な人々（学年が異なる生徒、遠隔地の他校の生徒、アーティスト、研究者、大学生ボランティア、地域の人々など）が文化芸術活動の多領域にわたって交差する場（校内外をつなぎ、芸術の本質的な要素の体験を共有できる場）をつくり、オンラインを活用しながら全国に広げようと模索している。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

a）コーディネーターや大学生ボランティアがコアメンバーの活動の指導・監督を担ったことにより、教員の負担軽減を図った。
d, e）附属学校内での取り組みであるため、生徒がいつでも気軽に参加でき、学年を越えての交流の場となった。また、学校ホームページやSNS等での情報発信を行うことで、ICT技術の活用によるオンラインでの参加枠を用いた遠隔地の他校や近隣地域からの参加者も募った。

指導、運営上の工夫

・クロスロードクラブでは、定例ミーティング（週一から隔週の頻度で実施）を通して、それぞれの生徒の意見を積極的に取り入れる、生徒の裁量で新たな企画を提案するなど、一人ひとりの挑戦を支援し、相互に助け合える環境を実現した。
・ACPの活動をより多くの方々に知っていただくために、SNSでの活動内容の発信、企画ポスターの他校への送付などを積極的に行った。
・各運営主体の代表者が定例ミーティング（月一で実施）で情報共有をした上で、活動のサポート（講師の紹介、広報を含む活動の監督、コーディネーターへの指示出し等）をした。
・附属学校の生徒以外の関係者も企画に参加できるよう、各講師との相談の上で、対面とオンラインの両方に対応できるように企画内容を工夫した。

今後に向けた方針・方向性

今年度の活動を軸に、引き続き、コアメンバーの主体的な活動をコーディネーターや大学生ボランティアが監督する形で活動を継続していく。
①企画②広報③企画内容の記録④ICTの活用⑤外部対応などの各部門でのメンバーの入れ替わりに対応するために、それぞれの部門において必要な知識を有する地域住民や保護者に積極的に協力を求めることを検討している。
より高性能な機材を使用することで、附属学校の関係者や遠隔地の他校の生徒にも、音楽やダンスなどを含む多種多様な表現領域の活動をリアルタイムで体験できる機会を提供していく。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_13.pdf

No.13 プレイキッズシアター

Ⅰ．基本情報

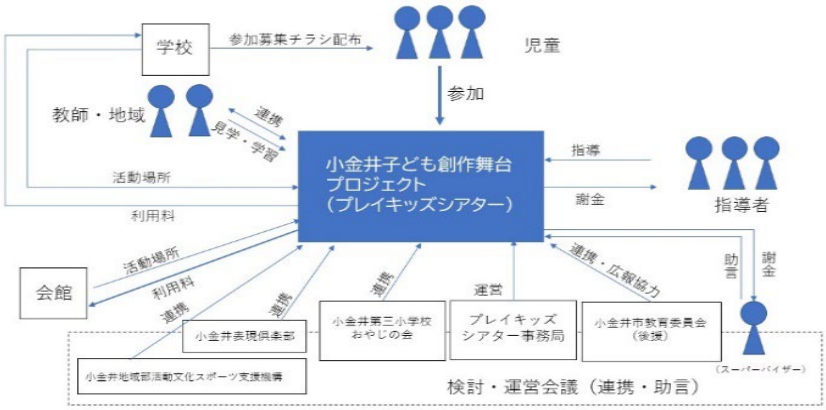
主な活動種別

舞台芸術

（運営主体）プレイキッズシアター

（事業目標）	子どもたちが舞台芸術活動として演劇を希望しても、学校のクラブ活動の中で、指導する側の教師のスキルの問題や働き方改革などにより実施が難しい現状がある。複数の小学校と地域、行政そして専門家がチームとしてタッグを組み、公募で集まった子どもたちが自分達で舞台作品を創り上げ、地域で質の高い公演を行い、地域の人たちに鑑賞してもらう機会を創り上げる。

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

小金井市内公立小学校9校に応募チラシを配布
体験会に集まった子ども　　47名　（キャンセル待ち6名）
本申し込み　　36名
　＊定員20名に対して、36名の申し込みがあったため、演劇の舞台を体験する「創作班」と、応援CMをつくることを体験する「ＣＭ班」とに分ける。
活動人数：創作班22名　・ＣＭ班5名
　＊定員がある理由：
　　①予算不足（講師の人数が確保できない。また会場を借りる場合の予算）
　　②部屋とホールの定員（新型コロナウィルスにより、活動人数に制限があるため）
活動回数：体験会2回　　ワークショップ10回　　舞台公演2回　　（合計14回活動）

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

専門家を招聘することによって、学校だけでは体験できない舞台創作体験活動となった。また行政・地域サポーター・学校とタッグを組み、運営するプロジェクトとして事業を実施。
さらに地域サイドから、このプロジェクトを支えるために、新しい団体「小金井地域部活動文化スポーツ支援機構」「小金井表現倶楽部」の２つが設立された。また、台本のある演劇活動ではなく、子ども達がゼロからお話をつくる創作舞台プログラムを実施。文化芸術活動に子どもたちが取り組む意義を地域・学校・行政と共有できた場ともなった。

指導、運営上の工夫

大人が主導の活動ではなく、子ども達から出てくる発想・アイディア・そしてモチベーションを大切にすることを、講師一同が徹底して取り組んだ。また心理的な安心安全な場所の確保、否定・批判されない環境。答えを子どもたち自らが出していくマインドなど指導を工夫した。
地域スタッフたちに、現場に足を運んでもらうことを促したことで、子どもたちが文化芸術活動に取り組むことで変容していく様を間近に感じ、結果、地域に地域文化倶楽部（仮称）を根付かせていきたいという強い思いが芽生えていった。

今後に向けた方針・方向性

制作的な面の連携をさらに充実させ、令和5年の3年目の活動は、その制作的な比重がさらに地域団体が大きくなることを目指し地域団体とも調整する。
行政にも、地域団体をサポートしていく連携と活動への理解を引き続き働きかけていく。
小金井地域部活動文化スポーツ支援機構と小金井表現倶楽部の役割が、地域文化倶楽部（仮称）が機能していくために、人員の確保や資金の面、専門的な制作業務など、プレイキッズシアターとしてもサポートしていく。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_14.pdf

No.14 東京邦楽器商工業協同組合

Ⅰ．基本情報

主な活動種別

和楽器

（運営主体）東京邦楽器商工業協同組合

（事業目標）組合員の相互扶助の精神に基づき、組合員のために必要な共同事業を行い、組合員の自主的な経済活動を促進し、かつ、その経済的地位の向上を図ることを目的とする。

団体・組織等の連携

当組合が中心となり、長唄協会並びに端唄協会との連携を持ち、地域学校との橋渡しとして楽器の準備、指導者の手配など講座のコーディネートを行う

Ⅱ．活動概要

邦楽器の普及活動、人材育成及び確保、技術の伝承

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

当組では、地域文化倶楽部事業においての成果は非常に大きなものが得られた。　①東京都内の中７講座を開催してよりより多くの実施できた。（１０講座を予定していたがコロナ禍の為、減少）各地域において楽器商が学校と指導者の接点をとり、非常にスムーズな講座の開講が出来た。学校側としては、邦楽器の準備から片付けまで、楽器商が全て行うことで、見守るだけで安心して開講ができた。
また、指導者としては教員が指導する必要が無く、教員も一緒になり邦楽器の講座に参加が出来た為、教員自体も邦楽の体験を通じて授業姿勢を学ぶ事が出来た。
この様な楽器商が主体となり、教育現場との太いパイプが築けたことにより学校の保管されている楽器のメンテナンスも可能となり、邦楽器の受け入れ体制が構築できた。次年度に向けて大きな課題が収穫できた。

指導、運営上の工夫

○児童・生徒への指導に関する工夫
一流の指導者を手配することにより、本物の音、本物の演奏技術を見せる事が出来た。

○運営上の工夫
学校教育の現場における、指導者の煩わしさをなくした本格指導の導入が出来た。

今後に向けた方針・方向性

邦楽器商が中心となり、学校教育の現場に踏むこむ体制づくりが出来きた。　これを足が掛かりに、開催する学校を増やしていく。
学区域に隣接する楽器商が連携をとり、学校に眠っている楽器を復活させ、授業にも活用できるように、細やかなサポートをしていく体制を整えて行く。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_15.pdf

No.15 有限会社 劇団風の子

Ⅰ．基本情報

主な活動種別

演劇

（運営主体） 有限会社劇団風の子

（事業目標） 八王子市の子どもたちと創る演劇プロジェクト、高尾山演劇倶楽部は、演劇の集団創作を通して、子どもたちの表現力や、コミュニケーション能力の向上を目指し、自己肯定感につなげる。

団体・組織等の連携

劇団風の子、八王子子ども劇場、八王子市立中学校教諭、八王子市立中学校演劇部指導員、八王子市立小学校教諭と連携をとり、6 回の運営会議を持ち話し合った。参加者の募集については、八王子市教育委員会後援をもらい、市内の全中学生、小学校 4 年生以上の全生徒にちらしを配布した。

Ⅱ．活動概要

▪頻度、回数
9月から2月　第2・第4土曜日(もしくは日曜日）、 1回 3時間程度の表現ワークショップや劇の稽古（15回）
2月の発表会が終わったら、別日でふりかえり（1回）

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

毎回の遊びのワークショップや各参加者の得意技披露の場などを続けていくうちに、子どもたちの緊張した心も、とき解れていき、学校や学年の垣根なく友人ができるという効果が得られた。
また今回は、参加の子どもたち各自か書いた物語や詩からの 3 本の作品を作り、作詞や作曲、ダンスの振り付け、絵なども子どもたちが担当した。自己紹介、特技の披露（縄跳び、ダンス、お手玉）、作文の朗読、3 本の創作劇、歌の合唱を組み合わせて公演した。このことが子どもたちの大きな自信、意欲、いきいきした表情に繋がったと思う。保護者や観客のアンケートにも、子どもの活き活きした表現に驚き、感動したというものが多かった。

指導、運営上の工夫

長年子どもたちとの表現ワークショップや創作劇づくりの実践を重ねている劇団風の子の講師達が先ず、参加した子どもたちにこの場が安心できる場所であると伝えるために、楽しい表現遊びを積み重ねていった。

▪活動に必要な用具道具については、劇団風の子の楽器、大道具小道具、照明、音響機材など、運搬も劇団風の子車両、道具などの保管も稽古場を使った。

▪地域運営委員として八王子市立小学校、中学校教諭と連携したことで、コロナ禍での学校での様子、学校の年間スケジュールなどを知り、会場、生徒募集の方法、子どもへの対応など、いろいろ相談できた。

今後に向けた方針・方向性

今回の取り組みで、子どもたちの現状はある程度は把握できたが、まだまだ全体的な掌握までには至っていない。学校部活動を段階的に地域以降することは時間がかかる事業である。教員にとって、働き方改革を進めていく中で何が重要なのか、そして、それが子どもたちにどんな影響を与えるのか、慎重に考えながら進めていかなくてはならないと考えている。
令和3年度、運営会議に参加していただいた小中学校教諭、中学演劇部指導員、八王子子ども劇場代表とさらに話し合いを重ねることで筋道を考えていきたい。その上で学校長との連携を探り、八王子の校長会でこの事業をアピールしたい。まずは理解者を増やすことから始める。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_16.pdf

No.16 江戸長唄ごひいき衆

Ⅰ．基本情報

（運営主体）江戸長唄ごひいき衆

主な活動種別

長唄

（事業目標）子どもたちが、三味線の面白さに触れ、身近な場所で継続的に伝統芸能に触れられるよう、その受け皿となる連続講座を提供していく

団体・組織等の連携

公益財団法人横浜市芸術文化財団（神奈川県横浜市）：共催
公益財団法人鹿嶋市文化スポーツ振興事業団（茨城県鹿嶋市）：企画協力
横浜邦楽邦舞家協会

Ⅱ．活動概要

3カ月で三味線を弾けるようになり披露会をする、というゴールを明確に設定。
茨城県鹿嶋市、神奈川県横浜市の2拠点で展開。
①鹿島神宮での奉納演奏
②横浜能楽堂での演奏と舞台裏見学（社会科見学）
という地域の文化資産のもとで稽古や披露を行うことで、参加者のモラールを高める仕掛けをつくる

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

鹿嶋（11月）では鹿島神宮での奉納演奏、横浜（3月）では横浜能楽堂（第二舞台）での披露といった、普段の学校生活・部活では経験できないプログラムを設定した。両取り組みとも、LINEグループで情報共有を行い、コロナ禍での対面稽古の課題をオンライン上の動画や音源の共有等で補完することができた。

【鹿嶋】3カ月間でマスターする、とゴール設定が明確だったため、従来よりも稽古に集中し達成感があった、沢山の鹿島神宮の参拝者の前で演奏を行ったため、緊張感とともに特別な体験となった、とのコメントが寄せられた。コロナ禍もあり、参加者が少なめだった反面、きめ細やかに指導できる体制となり、より満足度、効果が上がった。

【横浜】横浜能楽堂の舞台裏を見学する、といった社会科見学要素を付加した。これにより地域の文化資源への関心を高める、というこれまでにはない効果がみられた。
　また、能楽堂の協力により、公民館等のチラシ配架を通じての申込だったため、結果として参加生徒の学年や校区が多様になった。この点、地域倶楽部という展開の萌芽ともいえるかと思う。

指導、運営上の工夫

○児童・生徒への指導に関する工夫
・プロの演奏家による指導と映像共有などで、指導の質を担保した。
・情報共有にラインのオープンチャットを用い、楽器の取り扱い、調弦アプリ、糸等の補充、メンテナンス留意点などは、スムーズかつ細やかに共有できた。
・2地域で時期をわけて実施したため、運営工夫や反省、指導者の悩み共有で三味線指導の精度が上がった。
・鹿島神宮や横浜能楽堂という地域文化資源への関心・理解が何よりも参加者のモラールアップにつながった。

・指導者：横浜では横浜邦楽邦舞協会との連携により、体制的なバックアップを得た。
・生徒募集：各財団の協力を得て、公共施設にチラシを配架いただいた。業者によるポスティングもした。学校の先生方にも個別にチラシをお持ちしご協力いただいた。
・活動時間：参加がしやすい土日午後に実施した
・人材育成：指導者自身がファシリテーションや交渉を行えるかたちで「多能工」化している。
・民間企業とのタイアップ：鹿嶋ではまちづくり会社や呉服店と連携し、広報や撮影で協力してもらった。
・楽器：三味線のレンタル先を案内し、各自手配・保管・持参するかたちとした。
・ICT活用：
①講師間の打合せや外部有識者会合は、ZOOMによるオンライン会合
②申込前のオンライン相談会の開催
③参加者の画像・音源・楽譜・メンテナンスなど、様々な情報共有はLINEのグループチャット

今後に向けた方針・方向性

・体制としての願望だけをいえば、上記の学校や教育委員会へのアクセスが難しい、という課題については、地域文化拠点と教育機関とがつながる中継・ハブ機能があるとありがたい。形骸化しがちな連絡協議会などではなく、両者が継続的に情報交換できるオンライン上のコミュニティなどがあると、大変助かる。

・ただし、上記のような機能がなくとも、個人的な先生方のつながりや紹介を通じて、当面は地道に学校側に働きかけ、展開していくことが重要であると思う。例えば、鹿嶋では、教員の個人的なつながりによって、さまざまな地域の学校で三味線に対する興味・関心が高い先生方を掘り起こしてくれたため、結果として教員の三味線を通じたネットワークが出来上がった。

・このようなネットワークが形成できた理由としては、地方における文化的な活動自体が都市部とは異なり相対的に少ないこと、そのなかで先生方は校内にとどまらない情報交換の場を求めていること、があると推察する。また、学校の働き方改革に関わる事業である、ということにとても理解を示してくださった。また、副次的にそうした先生方同士がそれぞれの働き方について、情報共有する場となった。今後、こうした理解ある先生方が核になると、より地域全体で展開していけるのではないか、と感じる。

・楽器の確保や保管は参加者各自手配となったが、現時点ではそれで支障はないが、将来的には楽器を学校別の資産とせず、地域拠点や教育委員会などに、楽器の保管や貸出機能などがあるとよいと思う。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_17.pdf

No.17 有限会社 青年劇場

Ⅰ．基本情報

主な活動種別

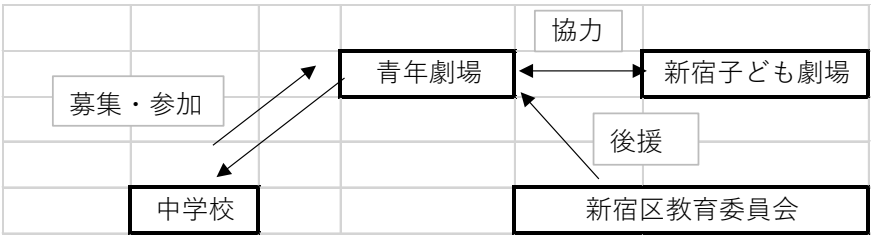
演劇

（運営主体）有限会社青年劇場

（事業目標）新宿区の中学生たちに継続的に演劇文化に触れてもらえる場を作り、新宿地域の子どもたちの文化芸術活動の機会活性化を図る。

団体・組織等の連携

新宿区、新宿区教育委員会と連携して参加者募集の呼びかけを実施。
（特定非営利法人）あそびと文化のNPO新宿子ども劇場の副理事長に、外部有識者として参加してもらい、準備段階、実施段階でアドバイス等を得る。



Ⅱ．活動概要

応募してくれた4名の中学生に対し、全8回の演劇ワークショップを実施。
前半4回は2時間実施で、シアターゲームなどのコミュニケーションゲームを主に行う。
後半4回は3時間実施で、短い演劇作品の稽古を主に行った。
最終日には成果発表として、保護者や関係者を迎えて小作品の成果発表を行った。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

・募集チラシを見て、4名の中学生が申し込んでくれた。
・日常で演劇に触れる機会の少ない中学生たちに、段階を踏んで演劇文化への理解を深めてもらい、興味関心を引き出すことが出来た。
・それぞれ別の学校に通っている参加者たちが、ワークショップを通して深いつながりを作ることができた。
・成果発表を行ったことで、参加者生徒たちに、舞台に立ち人前で演劇を行うという非日常の体験をしてもらうことができた。
・以下、全行程終了後に行ったアンケート調査で得た回答。（一部抜粋）
「演劇にそれほど興味はなかったですが、このワークショップを通して、沢山のコミュニケーションや生で感じるお客さんの声、スポットライトなど、舞台ってこんなにおもしろくて素晴らしいものなんだと発見できました！！」
「今回のワークショップを通して自分を表現する力がつきました。」

指導、運営上の工夫

○児童・生徒への指導に関する工夫
・次記のワークショップルールを作り、毎回冒頭で確認した。
《「あ・た・し・た・ち」（あ・はじめと終わりにあいさつをする。た・楽しむ！し・失敗をたくさんする。た・困っている人がいたらたすける。ち・チームワークを大切に、小さなチャレンジを積み重ねる）》
・参加者の緊張を取り除くために、ワークショップの導入で身体を動かすワークやコミュニケーションゲームを行うなど、参加者の心情に寄り添うプログラムで実施した。
・参加者の声を活かすためにプログラムも臨機応変に対応しながら行った。
・毎回ワークショップの最後には参加者と振り返りを行い、その日の感想や次回やってみたいことなどのヒアリングを行い、プログラムに反映させた。
・毎回様々な劇団員にボランティアスタッフとして参加してもらい、多角的な視点で参加者に関わるよう務めた。
・参加者の中に持病を抱える生徒がいたため、プログラムに配慮し、こまめな声掛けを行った。
・ワークショップの前後に必ず情報共有を行い、参加者一人一人に対し適切な対応ができるよう務めた。

○運営上の工夫
【準備段階】
・活動時間等の在り方等については、新宿子ども劇場からも情報収集を行い、中学生の実態を調査して決定した。
・生徒たちの募集については、新宿区と新宿区教育委員会から後援名義を得て、公立中学校全校生徒へのチラシの配布を実施。また教育委員会を通じて校長会やスクールコーディネーターにも連絡を取り、直接生徒にアピールしてもらえるように依頼した。私立中学校へは独自のルートで教師と連絡を取り、理解を得たうえで生徒への周知を依頼。また、新宿区観光文化課に依頼して、新宿区内約100か所にある掲示板にチラシを掲示してもらった。
【実施に当たって】
・持病を持っている参加者がいたため、保護者と直接連絡を取り合いその都度ケアを行った。
・コロナ対策として定期的なＰＣＲ検査の実施。当日もスタジオ内の消毒や、ファシリテーター、参加者の検温、手指の消毒を徹底した。
・劇団の稽古場で行うことで、参加者に本格的な設備の中で演劇に触れてもらうことができた。
・保護者にも活動を理解してもらうために、成果発表を通して参加者生徒の様子を見てもらう場を設けた。

今後に向けた方針・方向性

・参加者の募集については、今年度行った活動の様子や成果などを報告書にまとめ、次年度以降の参加者の募集に活用する。
・（特定非営利法人）あそびと文化のNPO新宿子ども劇場とは今後も引き続き連携を取りつつ、次年度以降の活動に向けてより発展的な関係を構築していく。
・活動場所に関しては、公立の施設など外会場の利用も視野に入れて検討する。
・今年度は無料で実施したが、継続的な運営をしていく上で検討が必要か。
・自治体の補助金制度や民間の基金などに関しては、本年の活動で得た成果をアピールし、可能性を探る。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_18.pdf

No.18　株式会社オフィス ワン・ツー

Ⅰ．基本情報

（運営主体）株式会社オフィス ワン・ツー

主な活動種別

現代演劇

（事業目標）・中学生・高校生に、現代演劇、現代演劇のメソッドに触れる機会を提供し、演劇を身近に感じてもらう。
・質の高い講師のレッスンを受けてもらうことで、レベルアップを目指す中学生・高校生の可能性を広げる。
・芸術活動を通じて、参加者一人一人が多様性と協調性を理解し、自信と向上心を持ち、自己肯定感を高めるきっかけを与える。

団体・組織等の連携

Ⅱ．活動概要

東京白熱演劇クラブという、中高生が無料で通える演劇教室を開催。プロの演出家が講師となり、発声練習や身体のコントロール術、会話の技術、セリフの練習と発表など、プロの劇団で行っている俳優のためのレッスンを実践。一年の内、学校の長期休暇中等を除く、8ヵ月、月2又は3回、土曜日の13:30～17:30の4時間、全24回。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

・演劇部が盛んでない、又は、演劇部のない学校の生徒の受け皿になることができた。
・プロの演技指導者がプロの練習法で指導することで、参加者の演技力、身体能力、発声の技術が向上し、感情表現が豊かになった。参加者の一人は部活動内の配役オーディションに合格し、また、別の参加者の一人は演劇部を新たに立ち上げ、ここで学んだ練習方法を部活動に紹介していた。

・部活動指導員や演劇部顧問の教員が見学に来て、今後の指導法・練習法の参考にするとの感想を聞いた。指導技術を向上させたいと考える教員の助けになる機会を提供できたと思われる。

・参加者アンケートより抜粋「講師の方が変わっても、相互に活かせることが多く、演劇に関して一貫して大切なことがわかった」「自分の癖や苦手なところがわかり成長できた」「様々な役に挑戦し、新しい面に気づけた」「この演劇クラブに行ってなかったら、今の自分はないと思います。ぜひ来年もよろしくお願いします」「体力がついたと思うし、声も大きくなったと思います」「感情の流れについて深く考えて教えていただけたので、感情の大小だけでなく、それがどういうものなのか考えることができた」

指導、運営上の工夫

○児童・生徒への指導に関する工夫
・指導経験が豊富で、中高生への指導経験もある講師を複数名配置し、様々な練習法や視点を紹介した。また、毎回必ず体操と発声練習を行い、継続することで身に付く技術や効果を実感してもらうことができた。
・演劇に興味はあるが、ほとんど見たことがないという参加者が大半だったので、最初は映像で紹介し、その後、生の舞台を観る機会を提供した。
・進路を考えている参加者に、プロの視点から、大学や社会での演劇活動について説明やアドバイスをした。
・コロナ禍での実施ということで、換気、消毒、マスクの着用、スケジュールやメニューの変更、アシスタントの増減、少人数制等の様々な対策を行いながら、続けて行くことができた。
・講師に毎回、実施報告書によって報告してもらうことにより、講師間の情報共有をスムーズに行うことができた。
・検討運営会議で有識者の視点からこの企画についての意見を聞くことで、講師・コーディネーターがこの企画の重要性をより深く認識することができた。

○運営上の工夫
・指導者は全員プロの演出家／俳優であることから、一人で通年の指導は不可能であると考え、複数名が持ち回りで指導することにした。そのため、様々な指導法を紹介でき、参加者はそれぞれがリンクしていることに気づき、飽きることなく続けることができたと思う。
・それぞれの講師に負担がないようにスケジュール調整を行い、また、緊急の場合は、代行がスムーズにできる体制を整えた。
・参加者の募集については、コロナ禍のために積極的に募集できなかったことが反省点である。
・当団体の事務所のすぐ近くに活動場所があるため、台本等の印刷、机や椅子等の道具の運搬が容易であった。
・会議はすべてZoomを用い、参加者・保護者とのやり取りは基本的にメールを用い、費用のかからない方法で行った。
・コーディネーター・アシスタントコーディネーターは、長年劇団運営に関わってきた人材を配置し、講師との連絡・協力がスムーズに行えるようにした。普段演劇の現場で行っているコロナ対策の経験を活かすことができた。

今後に向けた方針・方向性

令和4年度は、以下の二本柱での実施を考えている。
①部活動・学校に講師を派遣し、プロの演出家／俳優による演技レッスンを行う（主に平日を想定）。
②当劇団事務所近くに、演劇レッスンの場を設ける（主に土日を想定）。
①によって、実際に生徒の指導に当たっている教員の時間的な負担を軽減する。また、通年で行うことで、生徒のみでも自主的に取り組めるような日々の練習メニューを紹介する。特に、演劇においては練習法がここ10年で大きく変化しているので、アップデートされた指導法を紹介することで、教員が自ら研究する手間を省くことができるとも考えている。
②によって、演劇部が盛んでない、又は、演劇部のない学校の生徒の受け皿となり、部活動の代わりとなる場を作ることで、教員の負担を軽減する。できるだけ多くの学校の負担を軽減できるよう、受け入れ人数を増やす。
令和5年度は、上記の実施状況を元に、①の派遣講師の人数を増やす、②の受け入れ人数やレッスン場を複数にする等、教員・学校のニーズに合わせて広げることを視野に入れている。さらに、①の発展形として、東京の山手城南地区全体でのレッスンや学校の長期休みに合わせた合宿型のレッスン等の案も考えている。
令和3年度と4年度で繋がりを持った教員・学校からヒアリングを行い、実際に現場で求められているのは何か、ということを見極め、継続していくことが重要であると考える。また、文化庁主催事業の運営団体としての実績を積むことで、学校・保護者からの信頼を得て、区や東京都との連携や拠点地域として活動できる体制を整えることも視野に入れている。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_19.pdf

No.19 京島長屋文化連絡会

Ⅰ．基本情報

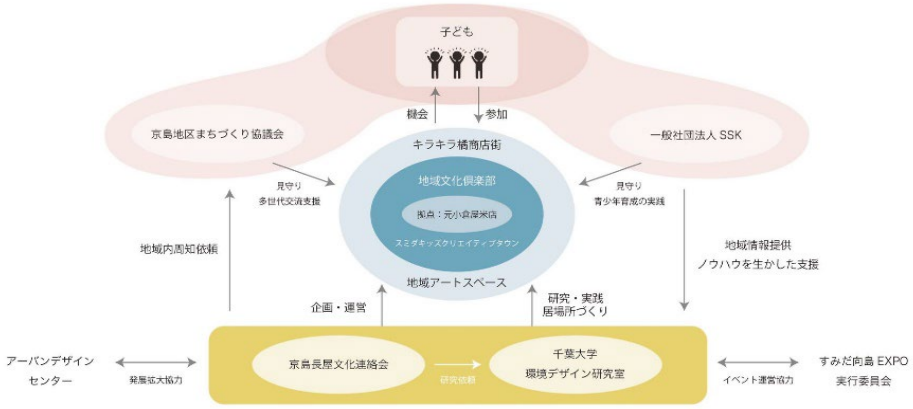
主な活動種別

長屋文化

（運営主体） 京島長屋文化連絡会

（事業目標） 子供のための子どものまち「スミダキッズクリエイティブタウン」をつくることをめざし、子どもたちが企画運営する運営倶楽部の創設を目的とする。

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

4月中は試行期間と考え、週1回の実施を行っていた。5月以降2月末まで、月曜と金曜の週2日定期実施をし、季節ごとに「なつまつり」「ハロウィーン（向島EXPO連携取組）」「歳末」といった商店街の催しに関係づけたイベントを実施した。
コロナ禍の影響で、子どもを集めること自体が困難な期間であったため、対策に多くのエネルギーを必要としたが、当初想定していた内容は形を変えて実施できた。
具体的には、イベントも含めた実施回数は、2月末日で83回。平均参加者数は、約8名であった。2ヶ月ごとの平均参加者数で見ると、5-6月が4名、7-8月が11名、9-10月が14名、11-12月が13名、1-2月が7名であり、日常的な子どもの居場所として徐々に周知が広がっていったことがわかる。内容的にも、子どもたちの主体的参加性を促す環境が徐々に整備され、子どもたちの「街」へ発展する種は作れたと考える。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

毎週水曜日にこの小学校では放課後子ども教室事業を行っており、本取組と対象となる子ども多近いことから、本取組スタッフがこの事業にも顔を出すようにして、情報共有を進めた。そのことによって、小学校内とは異なる人間関係が本取組では生まれていることがわかり、価値ある状況が生み出せていることがわかった。

指導、運営上の工夫

子ども同士が作り出したモノやことを評価し合って流通する仕組み作りである。この仕組みは、この取組内で流通する子ども通貨「ぽん」によって成り立たせ、この仕組み自体も、子どもから子どもに伝わるように、「受付」という仕事や、大人の手伝いの意味合いの「秘書」という仕事を作り、率先してその仕事をやりながら「ぽん」を稼ぐ様子が見られたことから、機能したと思われる。

今後に向けた方針・方向性

a, キラキラキッズクラブ（本取組）

b, 廃材を活用したあそびの仕組みと環境整備

c, 移動式遊び場・移動式遊具のデザイン

d, 墨田区プレーパーク「わんぱく天国」の活性化

e, 低所得層の子どもの学習環境整備

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_20.pdf

No.20 江東すみだ大道芸協会

Ⅰ．基本情報

主な活動種別
大道芸

（運営主体）　江東すみだ大道芸協会／東京

（事業目標）　地域の子供を中心に、日本伝統芸や海外で活躍する一流のパフォーマーなどのプロフェッショナルな芸を地域で入場無料で見ることができ、文化体験ができる。

団体・組織等の連携

墨田区の自治体すみだカット倶楽部と連携、桜堤中学校の隣にある水辺テラスにて地域の青少年に向けて開催。江東区では江東区河川敷公園指定管理会社と五ノ橋豊国通り商店会の協力で、地域の青少年向けの文化体験イベントとして開催。

Ⅱ．活動概要

江東区及び墨田区の文化貢献に特化し、入場料を取らずに子供達に文化に触れてもらう。学校でいう観賞会や文化体験の要素を野外で行い。強制ではなく、子供の興味をもつことを伸ばしていくこと、教養を深めていくことが目的である。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

将来、継続的に開催することで、部活動や学級鑑賞に代わる文化体験の場となっていくことを今回の事業で実証できた。このような専門の技術は、通常の学校教員には無いものであり、文化に関して特定のプロフェッショナルな専門の指導員をつけることで、学校の教員がより授業や生徒の精神面のサポートに集中していける。例えば、普段、習うことの無い日本の太神楽の傘回しに挑戦した中学生は、日本の職人が作った和傘や鞠などにも感動をしていた。良かった点としてはそのようにただの技術ではなく、道具一つでもこだわりのある文化の背景や歴史を学んだ生徒達が多かった。改善点（反省点）としては、感染症対策を優先し、野外での開催であったので、強風の影響を受けて機材が倒れて破損があった。人への被害が無かったのが幸いだが、本事業を続けるにあたり、指導員のみならず、運営スタッフも学ぶ機会を与えていくことが、今後の課題となった。

指導、運営上の工夫

○児童・生徒への指導に関する工夫
世界で活躍する第一線の芸能者による指導は、学校生活の中では受ける機会が少ないと思われる。生徒達にとって人生における貴重の場となる。また、技術を伝えるのみならず、例えば海外で日本の伝統芸をどう見られているか、世界大会で優勝する為にどのような努力をしてきたかなど、現役の一流アーティストの話を聞いたり質問できるような雰囲気になるように心がけた。現実的に文化の方面に就業しないとしても、世界で何かを発信し評価されている先駆者の心構えは、今後海外でも活躍していくであろう若者達には貴重な体験談となるであろう。また、指導者には、指導用の練習をするための場を提供し、感染症の影響でスケジュールの延期が相次いだ時間を使い、己の指導のレベルアップの為の研磨をした。

指導者は質の良さを第一に、春から運営メンバーでの話し合いのもと打診したが、緊急事態宣言などの影響で延期になってしまった為、１０月より急いで地域と連携し、指導者を運営にて確保した。開催日目処が立ったのがギリギリだったので、生徒達の募集をするポスターやチラシをその時期に運営で用意し、JCOMすみだなどの地域テレビでも募集の案内を協力してもらった。地域のメデイアの協力があり、近隣の中学生のみならず、小学生の子供や大人の来場も多く、年代をわけないことが、逆に中学生くらいの生徒にとっては新しいコミュニティ作りの一環となることができた。

今後に向けた方針・方向性

往来の部活動と比べ、「強制ではない」自発的な興味、そして先輩後輩などの人間関係の悩みがなく、率直に文化を通じて成長ができるという点を大切に、長期的な視野を持って課題に取り組んでいきたい。上記課題のうち、スタッフの運営に関しては、次回から当日運営を外注で呼び運営側が野外での開催における安全策をさらに学んでいく。そして、長期的な開催場所を墨田区と江東区で確保することができたので、この場所を拠点とした長期的な地域の基金に申し込み、金銭的な課題をクリアにすることで、今後さらに段階的に学校の部活動を地域に移行することができる。活動場所となる学校近くの広場は事前に区の許可が必要であり事務としては容易ではないので、今後は新型コロナウイルスの影響による延期を事前に見据えながら来年度の開催予定を地域と話し合い多めの日程を確保するなど、今年度の事業の経験を生かしてよりスマートに開催できるように計画をしていく。活動場所や指導者・管理監督の確保は問題がないので、上記方法で財源及び新型コロナウイルスによる度重なる延期などに対応できるように組織を構築していけば、より長期的かつ生徒・指導者数を増やし、より大きな規模にて部活動・放課後学級としての機能を行うことは可能である。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_21.pdf

No.21　足立区役所　地域のちから推進部地域文化課

Ⅰ．基本情報

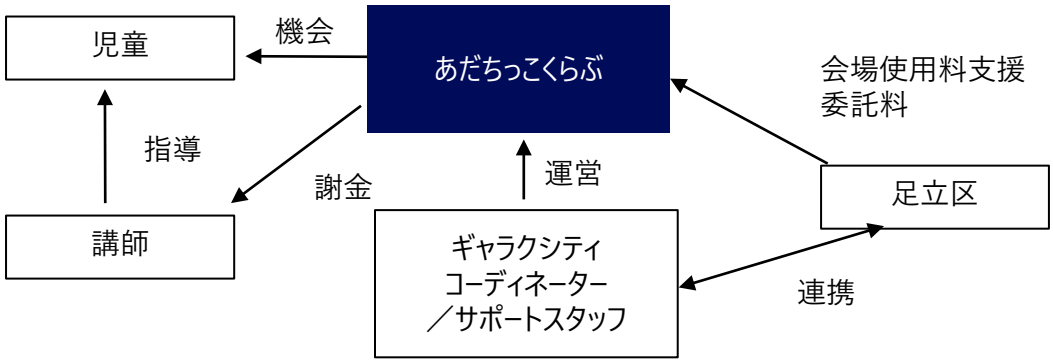
（運営主体）　みらい創造堂　代表企業 ヤオキン商事株式会社

主な活動種別

音楽

（事業目標）　ギャラクシティを拠点に子どもたちが文化芸術活動に触れる機会を提供することで、自己肯定感を育む新たな受け皿を創設する。

団体・組織等の連携

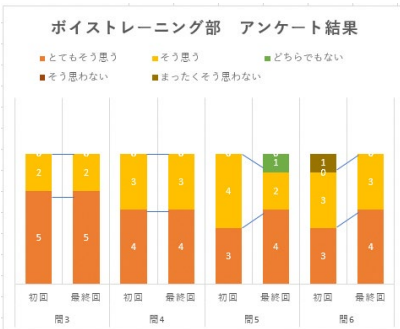


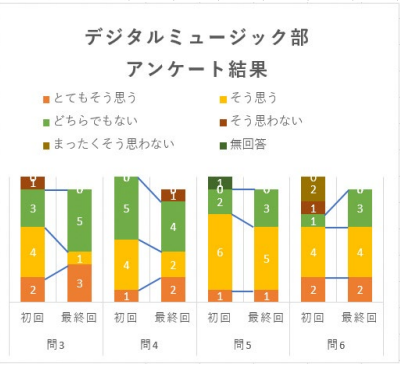
Ⅱ．活動概要

足立区の子どもたちの文化芸術活動の機会提供を目的として、学校のクラブ活動とは異なる小学生対象のクラブ活動をギャラクシティが企画・運営している。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果





指導、運営上の工夫

○児童・生徒への指導に関する工夫
・高い専門性を有する東京藝術大学卒業生を講師として招いた。
・足立区地域に関連して、プロのシンガーソングライターであり作詞家としても活躍している足立区出身の講師を招いた。
・デジタルミュージック部では自分の声を素材に使った作品作りや、作品の発表を行った。自分の作品、自身の声の魅力を発見し受け入れ、また、他の人にも受け入れてもらう機会とし、自己肯定感を育む機会とすることを狙った。
・ボイストレーニング部でも都度教室内での発表を行い、人前で発声することや、歌う経験を経て、達成感や自信をもってもらう機会とすることを狙った。
・授業内では、受講者それぞれの様子を見ながら、講師やサポートスタッフが個別に声掛け・指導・補助を行うなどの柔軟な対応に留意した。

○運営上の工夫
・「足立区新型コロナウイルス感染症拡大防止ガイドライン」及び「合唱活動における新型コロナウイルス感染症拡大防止のガイドライン」（全日本合唱連盟）に則って、ビニールパーテーションやアルコール消毒液の対策用品設置など、適切な対策を検討し取り組んだ。
・サポートスタッフが参加者募集、申込み受付、オリエンテーションの計画進行、保護者説明や問合せ対応を行い、区・講師・参加者と連絡を取りながら円滑な事業運営に努めた。
・使用した用具の、iPad・作曲に用いるフリーソフトの管理、動作確認やアップデート対応、データ管理等のメンテナンスを行い、継続的な活動を支援した。

今後に向けた方針・方向性

・コロナ禍でも実施可能な実施内容とするべく、本年の得た知見をもとにコーディネーターと講師とサポートスタッフで協議をしながらプログラムを組み立てる。また予め非対面での事業実施を想定するか否か、具体策や方針を立て、参加者や保護者への周知も含めて実施する。
・ボイストレーニング部の事業実施に関しては、十分な広さのある会場の確保が必須。コロナ禍の実施は会場確保の観点からも他事業への移行を検討したい。
・用具管理についてはヒヤリハットや発生事例を共有し次回以降の対策とする。ポケットWi-Fiの追加準備などを行った例もあったため、改善や予防できる点は早急に着手する。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_22.pdf

No.22 一般財団法人民族衣裳文化普及協会

Ⅰ．基本情報

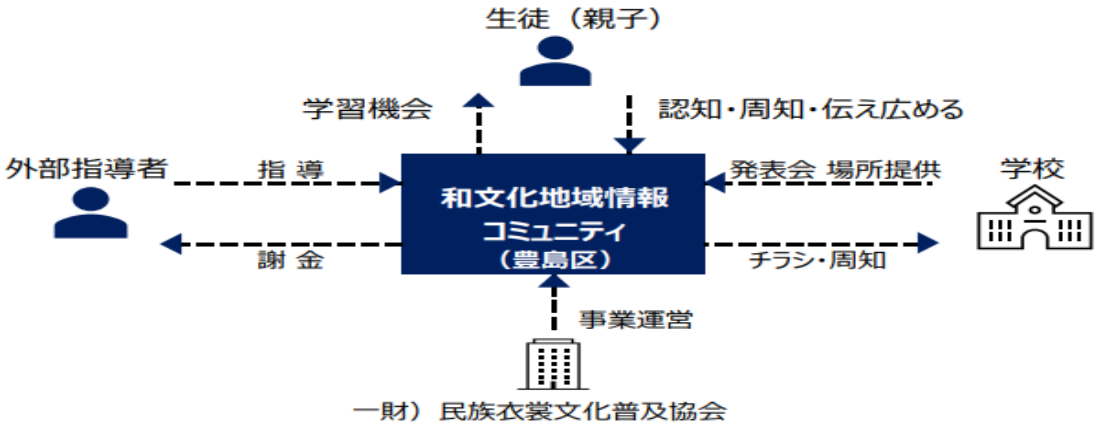
主な活動種別

民族衣装（きもの）

（運営主体）　一般財団法人民族衣裳文化普及協会　東京都豊島区

（事業目標）　豊島区在住の親子様が和文化「きもの」の学びを通じ、地域交流や地域の良さを学ぶことで地域への帰属意識の高まりや横の連携を深め地域コミュニティ形成の一助とする。

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

当協会は、昭和５２年に文部大臣の認可をいただき財団法人として設立。平成２６年には、長年に渡るきもの文化活動が認められ一般財団法人として内閣府より認可をいただきました。以来、公益法人としての責任のもと日本の民族衣裳であります「きもの」を一人でも多くの方に親しんでいただく活動を行っております。活動の一部を紹介しますと、ニューヨーク・パリユネスコ・ロシア・ラトビア・上海万博での国際文化交流、「文化功労者」への表彰式の開催、ＮＨＫ教育放送「趣味悠々」への協力、４球団実施のゆかたで野球観戦、きもので芸術鑑賞など活動は国内外問わず多岐に渡っています。
当協会は公益法人として運営している安心の団体としてきもの等の販売はなく、きもの文化を後世に正しく伝え広める事が目的の法人です。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

・学習指導要領の改訂により和服に関する内容がより充実する一方、指導する学校の教員が不足で十分指導することができない現状で本講座を開講し学校側の負担軽減となった。
・14組28名の親子の参加のうち、
●きものが一人で着られる子ども14名中、12名
●きものが一人で着られる親　14名中、10名と当初の目標70％を上回る78％以上の結果を得られた。
・また地域（豊島区）の魅力を知った方28名のうち90％に当たる25名が該当。
・違う学校の子どもおよび親同士が横の繋がりを持てたことも付記しておく。
・学校の部活動との関係では「着付け」というジャンルがあれば、日本文化を学ぶ機会作り繋がるものと考える。

指導、運営上の工夫

○児童・生徒への指導に関する工夫
・きものを着る、着られた、お出かけする、という目標設定が目に見えるため子ども、親共に分かりやすいこと。
・着付けの技術以外にきものに関する知識、マナー、所作歩き方なども含んでの指導を行った
・地域との連携を図り上述の通り、区の新たな魅力を発見する機会作りとなった。

○運営上の工夫
・地域協力者を探し、お手伝いをいただくことで、地域との連携がより密になった。
・活動時間等の在り方等について　密を避け、午前・午後で分けることでのコロナ対策、使用する備品等の圧縮を行った。
・生徒たちの募集について　区教育委員会の後援を取り、後援事業として取り組んだ。
・地域、保護者、教育機関等との連絡調整について地域協力者の力で地域交流会には多くの参加者を招くことができた。

今後に向けた方針・方向性

当協会では以下にて取り組むことが可能である。

２０２３年
子どもおよび親子で学べる文化系（着付け、マナー）学びの場を開設。

２０２４年～
５年計画にて開設拠点を増やす。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_23.pdf

No.23 公益社団法人日本芸能実演家団体協議会

Ⅰ．基本情報

主な活動種別

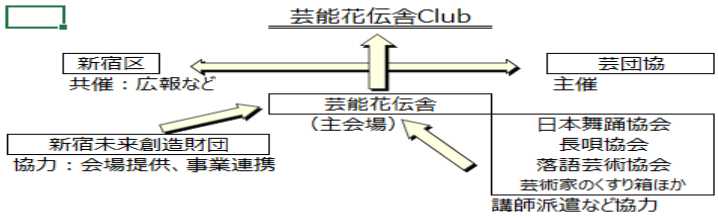
日本舞踊、三味線、落語

（運営主体） 公益社団法人日本芸能実演家団体協議会（芸団協）

（事業目標） 長期的には、子どもから大人まで、伝統から現代まで多様な文化芸術を楽しむことができる総合的な文化芸術クラブを目指す。
設立3年間で、子どもが伝統芸能を総合的に体験し学べる内容およびクラブ運営体制の確立を目指す。

団体・組織等の連携

【イメージ図】



【関係団体一覧】

団体名	本事業における関わり方
日本芸能実演家団体協議会	事業の運営・主催責任
新宿区	共催／広報協力など
新宿未来創造財団	会場提供／事業連携など
日本舞踊協会	講師・委員の派遣
長唄協会	講師・委員の派遣／楽器の提供
落語芸術協会	講師・委員の派遣
芸術家のくすり箱	講師・委員の派遣

Ⅱ．活動概要

芸能花伝舎クラブは、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会(芸団協)が、2021年より運営する文化クラブで、本事業の開始に合わせ設立された。前述の通り、複数回、複数ジャンルの体験によって、子どもたちの多様な興味関心を喚起しつつ、自らの「好き」に出会える可能性を広げる事も考慮し、「日本舞踊」「三味線」「落語」「身体理解」の4ジャンル、全17回のプログラムを組んだ。また、クラブでの稽古のみならず、本物の舞台の鑑賞機会を設け、親子で参加できる機会を設け、芸団協が実施する他の事業に参加できるよう各種案内を出すなど、17回の稽古という基本的な枠組みに留まらず、家族で伝統芸能との関わりを更に拡げていけるよう工夫を施した。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

参加した児童の保護者アンケートによると、伝統芸能への関心が増した事、自分が好きなジャンルを見つけられた事、新しい場所に通い、新しい友達ができた事で、子どもたちの世界が広がった事などが記載されており、「伝統芸能」ジャンルの「クラブ活動」としての基本的な目標は達せられたと考える。
加えて、自ら浴衣を着られるようになり、自分で畳めるようになったことで、自信がつき、稽古で習得した挨拶や礼、正座などを含む礼儀作法が、子どもたちの日常生活面に良い変化を及ぼしていたり、生活面での積極性が出てきたことなど、「子どもたちの成長する姿」が見られたとの声も数多く寄せられた。
講師にとっても、他ジャンルと一緒に子どもたちの指導を行う機会は普段はない取り組みであり、今回の融合回プログラムは今後の事業展開にとっての可能性の端緒を開いたものとして評価することができる。

指導、運営上の工夫

〇児童・生徒への指導に関する工夫
伝統芸能への親和性や参加感をより高めることを狙い、浴衣の着用(自ら着る)を必須とした。また、複数ジャンルの芸能を体験できる特徴を生かし、三味線と日本舞踊については、単科のみならず、仲間の演奏で踊る「融合回」を設け、皆で協力しあって1つのものをつくる機会を作った。取り組みの初年度であったこともあり、講義時間外でも子どもたち同士や講師との関係をうまく保てるようサポートスタッフが目を配った。

〇運営上の工夫
・コロナ対策として検温、消毒、マスク着用、着替え前後に会場床の消毒
・安全に参加できる仕組みとして、帰宅ルート調査、毎回終了直後に生徒退出時間を保護者に連絡
・活動の様子は毎回終了直後にSNSで報告、保護者にはメールと写真を送付、家庭内での会話の機会を促すとともに、保護者の伝統芸能への関心を高めることにも配慮した。

今後に向けた方針・方向性

・弊団体は2005年に新宿区と文化協定を締結して以来、区が実施する様々な文化事業に協力するのみならず、教育委員会との関係では、全小学校での伝統芸能体験事業を複数年にわたり実施し、また教員向けの伝統芸能研修機会に協力するなど、長期にわたる関係構築を行ってきた。また、複数の伝統芸能関係協会組織を会員とする弊団体の強みを生かし、初年度の実績をもとに、学校現場のみならず、区教育委員会（プロジェクトチームや検討部会を含む）、地域文化施設や文化芸術諸団体と協働しながら、複数箇所、平日・週末開催等を含む多面的展開（具体的な学校の部活動等の状況の把握および教員の負担軽減の観点をふまえた上での地域移管）を進めていく。
・新宿区及び区教育委員会とは子供のための文化体験事業を開催している。その実績を踏まえ、新宿区から芸能花伝舎クラブの区民、学校への周知などに協力を得る。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_24.pdf

No.24 Marimelo株式会社

Ⅰ．基本情報

（運営主体） Marimelo株式会社	主な活動種別 ミュージカル

（事業目標）

【子供ミュージカルの上演を通して】
1：他の芸術に比べてハードルが高いと思われているミュージカルを普及させたい
2：音楽・運動・言葉が一体化した芸術活動が生徒の心身の健やかな育成に非常に効果的であることを実証したい
3：ミュージカルを体験することによって「みんなちがってみんないい（Diversity and Inclusion）」の考えを生徒に身につけて欲しい
4：生徒が普段の生活で触れる機会が少ない「超一流による本物」に触れ、一生宝物になる経験をして欲しい
5：生徒が自分と向き合い、何かを上達させるために努力することを身につけて欲しい

団体・組織等の連携

大学講師達・プロ達と連携することができた。「ちがいを力に変える街」渋谷区とも連携を相談し、最終発表会を後援してもらう算段をとっていたが、コロナ禍でリアルでの発表会を断念したため、最終的な連携には至らず。最終発表会において大手芸能事務所が運営するミュージカルの専門学校との連携も進んでいたが、コロナ禍で実施に至らず。有名ミュージカル劇団に作品の使用許可を得ていたが、こちらもコロナ禍で上演には至らず。

Ⅱ．活動概要

オンラインでの活動に特化。約60クラスに及ぶオンラインでのダンスレッスン・歌のレッスン・演技のレッスン・プロになりたい学生のための進学相談などを行う。またNY・フィリピン・日本を繋いだバイリンガルでのシアターゲームのワークショップも開催。「みんなちがってみんないい」を標榜しており、不登校の生徒、障がいを持つ生徒、日本語が不自由な生徒などもクラスに参加。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

特別講師としてプロの俳優を雇用することにより、教員の勤務時間は短縮できる。今まで一流のプロに教えてもらった経験のない生徒がほとんどだったため、非常に感銘を受けている。一度も実際に会うことなく、全てオンラインでの開催だったにもかかわらず、9割以上の満足度というのは非常に高い満足度と思われる。また、学校に通えていない不登校の生徒や、知的障害を持つ生徒が参加できたのは、オンラインであったことと弊社が「みんなちがってみんないい」を第一に標榜しているからだと、改めて成果を感じた。

指導、運営上の工夫

「ちがいをちからに変える街渋谷区」をベースにしているプログラムなので「みんなちがってみんないい（Diversity and Inclusion）」という理念を掲げており、その理念に共感した講師のみを採用している。学校の正規プログラムでないからこそ、障がいを持つ生徒、不登校の生徒、日本語が上手ではない生徒を積極的に受け入れており、実際に数名の該当者が参加している。ネイティブと同じ英語力を持つ人プロの俳優は日本に数人しかいないが、Marimeloではブロードウェイの舞台に立っている俳優やスタッフたちを雇用しており、ネイティブと同じ英語力がある人のみが英語レッスンを担当している。また、大学のミュージカル科の教授やプロの俳優達に演技を教えているコーチや現役のプロデューサーもチームに参加しており、ミュージカルに関する進路相談に対して、非常に貴重な最先端の生きた情報を伝えることができる。

今後に向けた方針・方向性

部活動の教育的意義は地域に移っても大きく変わることはないが、地域に移ることによって学校や学区を超えた取り組みができる。例えば、不登校の生徒も地域の活動であれば参加できる場合もあるし、受け皿さえあれば、日本語が話せなくても、障害があっても参加できることは非常に大きな利点である。また、教員による指導ではなく、プロの講師が指導することにより、芸術鑑賞会の効果を同時に得ることができる。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_25.pdf

No.25 小田原こども舞台芸術クラブ

Ⅰ．基本情報

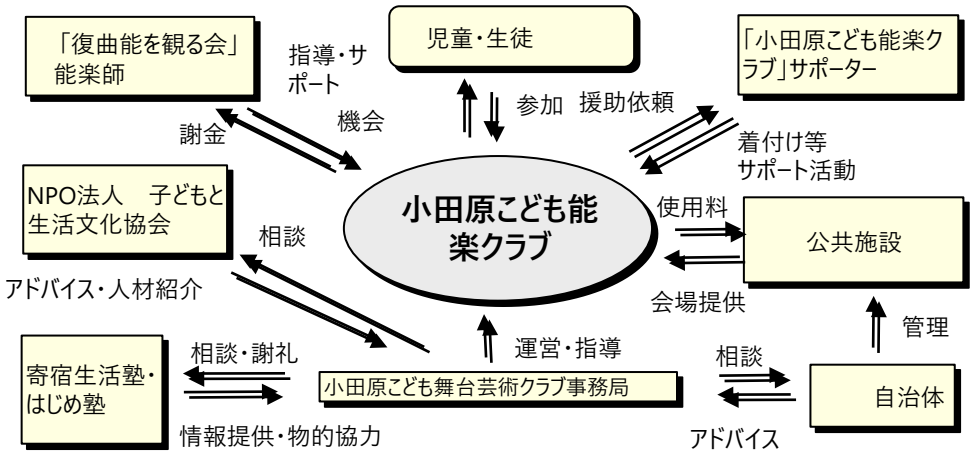
（運営主体）小田原こども舞台芸術クラブ

主な活動種別

能楽

（事業目標） 東海道の要所であり、小田原城をはじめ歴史文化財を多く持つ神奈川県湘南地方に題材とした伝統芸能の舞台作品は多い。子供たちにそれらの作品を実際に演じてもらうことで、長きに渡って日本人の心を捉えてきた文化の価値を体感してもらう。また、伝統芸能は世代や地域を超えた発信力があることを体感する事で、文化の可能性を知ってもらう。

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

子ども達は平日の夕方～夜の稽古（小学生は2時間。中学・高校生は3時間）に参加し、謡、仕舞、囃子、所作等を指導を受け、その成果を能舞台での発表会で披露する。プロの能楽師の指導を受けることは、技術や知識を得るのみならず、文化・芸能に真剣に向き合う姿に直面できる機会であり、物事に打ち込むことの大切さや姿勢を学ぶ貴重な体験となる。また、学校の授業などで時間を割くことの難しい、伝統的なことに取り組むことへの意義や価値観といったことを知る機会となっている。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

・前年度に小田原市内で行った能楽教室の参加者は14名であったが、本年度の事業では21名の参加者を集める事となった。これは、今回の事業が子どもの参加費無料に設定出来たことにより、参加者の間口が広がったことに起因していると考えている。
・22回の稽古を行い、地元での公開稽古、横浜市内にある久良岐能舞台での発表会を実施。仕舞四番の他、プロの演奏とともに袴能「和田酒盛」を２番披露することが出来た。
・子ども達のアンケートでは、舞台を披露できたことへの充足感を述べると共に、能を学ぶことの難しさが語られていた。ただそれは、よく分からないことをやる前に感じる「難しさ」が、稽古を通してある程度出来たと思ったらまた次の課題が出てくるという「難しさ」に変わることで、果てしのない「難しさ」とともにその奥深さを知った、というものであった。この感覚は伝統芸能に向き合う上で大変重要な本質を突いている。このような感想を書いてもらえたことが、何よりの成果ではないかと思っている。
・公開稽古や発表会を通して、子ども達の活動を支援してくれるサポーターを募集したところ、２７人が登録。寄付金も44,538円が集まった。発表会を実施する上で、サポーターの協力は必至である。今年登録してくれた方の協力を仰ぎ、今後の活動の充実に繋げて行きたい。

指導、運営上の工夫

○児童・生徒への指導に関する工夫
・指導対象が下は小学校2年生、上は高校3年生と幅が広いため、指導方針は多岐にわたっているが、伝統的な決まり事を伝え、それにどのように対応できるかという個々の反応を見て、それぞれの創造性を潰すことのないよう指導している。これも能楽の持っている幅の広さ故に出来ることであると考えている。
・小学生の参加時間を早い時間に設定し、安心して参加出来るように考慮した。中、高校生は試験などで参加出来ない日もあるため、稽古日を多めに設定して全体として稽古が行き渡るようにした。
・稽古が後半になるに従って、指導内容が細かくなるため、外部講師に指導してもらう回数を増やし、指導の目が届くように工夫した。

○運営上の工夫
・稽古日の変更もあったため、混乱を起さぬよう稽古日の告知等、プリントを月ごとに配布することによって、正しい情報が伝わるように徹した。
・公開稽古や発表会での着付けに参加してくれるサポーターを対象に予め勉強会を行うことで、進行に支障を来す事無く作業を行うことが出来た。
・発表会をサポーターの協力によりネット配信することで、コロナ禍により来場できない父兄などにも、子ども達の頑張っている姿を即時性を以て届けることが出来た。

今後に向けた方針・方向性

・コロナ禍によって部活動の制限が実施されることによって、明らかに教員の勤務拘束時間の減少という結果が出ているようである。その一方、子ども達にとって、中学校などでやりたかった活動が出来なくて残念だという声が聞こえる。教員の働き方改革という方針がある以上、コロナ終息後部活動が元通りになるということは難しい。その中で、子ども達に様々な体験を提供できる場として、地域での部活動は受け皿として重要な役割を担うことと考えている。
・当クラブとしては引き続き「はじめ塾」との連携により、小・中・高という広い年代の子ども達のフォローが出来る環境を築いてゆく。また「ＮＰＯ法人子どもと生活文化協会」との連携で自治体の補助についての情報を得るように努める。
・小田原市、小田原市教育委員会からの後援を継続させ、公共施設でのチラシ掲示、教育委員会経由での市内学校へチラシ配布による広報に努める。また、市の文化政策課のアウトリーチ事業と連動させることにより、直接教員や生徒へアピールする機会を得るようにしたい。
・体育会系が地域部活動化において進んでいるように、文化部も今までのお稽古事と異なった側面をアピールし、活動を少しでも多くの人に知って貰うというのが当面の目標である。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_26.pdf

No.26 一般社団法人横浜若葉町計画

Ⅰ．基本情報

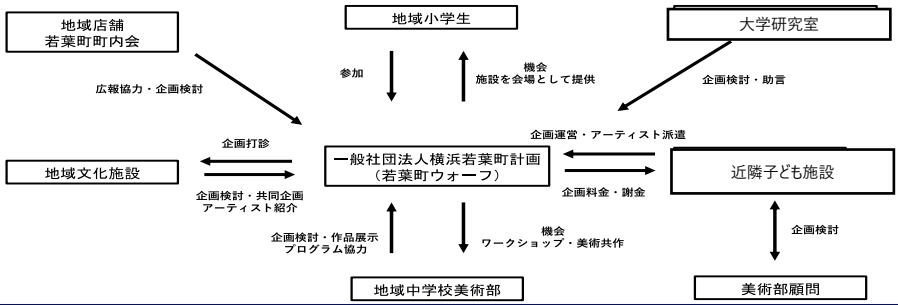
（運営主体） 一般社団法人横浜若葉町計画（若葉町WHARF）

主な活動種別

即興ダンス

（事業目標）
●子どもたちに舞台芸術を中心とした文化芸術を体験してもらう。
●コロナ感染症拡大の中、子どもやその家族も参加出来る企画を提供する。
●各プログラムの講師を地域の文化施設スタッフ、文化団体のアーティストが担うことにより、子どもたちや、その家族に地域の文化資源に目を向けてもらうきっかけ作りを行う。
●プログラムを部活動や課外活動と連携させ地域に根付かせると共に、本事業を地域的に子どもたちを支える事業として発展させることで学校の教員の負担の軽減を目標の一つとする。

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

地域の子どもたちを対象とした10プログラム全24コマの主に舞台芸術に親しんでもらう「大岡川はとば倶楽部」という有料と無料のワークショッププログラムを行った。初年度の参加は有料プログラムに関しては応募を取り、無料プログラムに関しては子どもを中心に年齢を問わず地域居住者を含めて自由参加とし子どもたちと地域の交流の場所として活用した。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

●総参加人数350名（無料自由参加プログラム含む）
●地域参加率（横浜市内）85%
●横浜市内文化施設・横浜市内活動団体との5施設5団体
●近隣小中学校との連携中学校1校、小学校3校
●近隣中学校との共同事業1事業
●総参加人数 450名（無料プログラム含む）
●プログラムで子どもたちが撮影した映画1作品が近隣の映画館の予告編時に上映された。
●本事業は地域文化倶楽部（仮称）創設支援事業の一環であるが、地域部活動推進事業も担うことが出来るハイブリットなものとして考えている、2021年度は近隣の中学校の美術部の活動の一部として本事業の活動を行い、作品を中学校の文化祭に展示した。コロナ感染症の中、部活動もなかなか実施することが出来ない中で具体的な創作プログラムを持ち込んだ本事業について教員の方からは「来年も続けてほしい」という声を頂いている。
●報告冊子の代わりにWebページによる活動報告を行うことで、事業の成果について広く宣伝をすることが出来、また今後の事業の宣伝や地域連携活動に利用することが可能なプラットフォームの構築が出来た。
●本事業をきっかけとした近隣中学校との交流の中で、文化祭における演劇プログラムへの本法人の協力を中学校と協議している。

指導、運営上の工夫

○児童・生徒への指導に関する工夫
●有料プログラムについては参加人数を最大10名とし、子どもたちの「やりたいこと」「興味があること」を先にメール等で聴いてプログラム内容を講師と相談の上、実施している。
●劇場の技術（音響や照明など）をプログラムに活用し、いつもの学校での活動とは違う体験をしてもらうようにしている。
●演劇におけるコミュニケーションワークショップの技法をプログラムに盛り込み、通常の体験プログラムに留まらない子どもたち同士、子どもたちと講師、子どもたちと地域との交流を生み出すようにしている。

○運営上の工夫
●講師の選定に関しては地域の連絡会議による推薦や講師の地域活動などを見て行い、プログラムの質を担保している。
●基本的に講師は地域で活動する方、地域で顔を合わせる方にお願いをしているので、打ち合わせ等は十分な時間を取り、また講師の目から見た地域の子どもたちの様子などを参考にしながらプログラムを実施している。
●活動に関しては町内会の協力のもと、近隣の小中学校の集まりで本事業を紹介させて貰い、近隣の小中学校の全校生徒にプログラムパンフレットを配布している。また連携事業を行っている施設での紹介も行って頂いている。
●運営に関しては劇場ガイドラインに則った運営を行い、劇場技術を使用する場合は必ず専属の技術スタッフの立ち会いのもとで行っている。
●企画監修・コーディネートを30年以上演劇ワークショップを実践してきた佐藤信に依頼し、事前相談、事後のアドバイスを貰うとともに、講師や地域でもプログラムについての検討・報告・意見交換を行い内容の質的向上に努めている。
●コロナ感染症拡大、また神奈川県の緊急事態宣言など事業を延期・中止にしなくてはならない事態も起こったが、プログラムを入退場自由で参加出来るものに変更したり、落語ワークショッププログラムを映像配信プログラムに変更するなど、状況に合わせた柔軟な対応を行っている。

今後に向けた方針・方向性

●現在、地域の文化施設と協議しているのは近隣の文化施設で行われる子供向けのワークショッププログラムや企画について総合のパンフレット、もしくは地域の子供向けの企画をまとめたwebサイトを作成することを検討している。
●有料プログラムで行った成果展示や発表に合わせて一部のプログラムを無料で体験出来るイベントを企画している。
●中学との連携事業、演劇部への協力事業を行うことを検討している。その講師やスタッフを近隣の文化団体や劇団に依頼し、地域における人材の育成に努めるとともに、地域的な文化芸術の醸成に寄与する。
●本事業の主な対象は小学生ではあるが、2021年度の事業を通じて大人を参加者としても含み込めることが分かった。また多くのプログラムで大人からの参加の問い合わせも多数あった。検討中ではあるが大人にも参加の門戸を開き、参加費に関しては子どもを低価格で抑え、大人を実際に運営に必要な金額を徴収する企画があっても良いと感じている。
●地域の文化活動としては施設連携や文化的なブランディングとして意義あることを行っていると思うので、地域の企業などに本事業を紹介し運営資金の調達に努める。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_27.pdf

No.27 C.C.C.THEATER

Ⅰ．基本情報

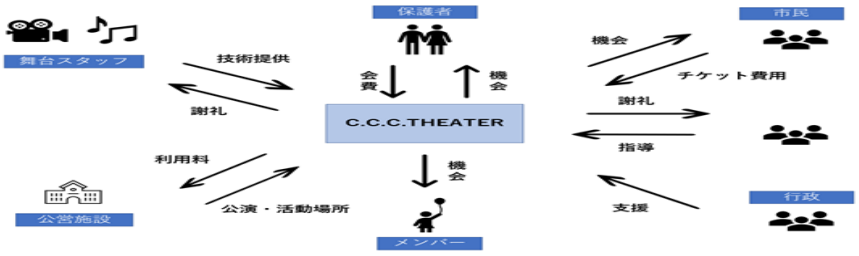
（運営主体）C.C.C.THEATER

主な活動種別

演劇

（事業目標）
【メンバー】　稽古（月３回※公演前は毎週末）と公演（年一回）を通じ、以下の点を醸成する。
・自分の意見や気持ちを伝えられるようになる。
・他者の話に耳を傾け、思いやりをもって受け入れられるようになる。
【保護者】
・子どもの成長において、演劇教育の有用性を理解してもらう。
【団体】　約４年間活動を継続してきて、現在は茅ヶ崎市内さらにはそれ以外の小学校・中学校からの参加者が在籍している。様々な地域での子どもたちや保護者のつながりは増えつつあるが、さらに学校や地域のコミュニティとの連携に力を入れ、子どもたちのより豊かな芸術活動の普及を目指す。

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

C.C.C.THEATERは、２０１７年に設立し、小学１年生から高校３年生までの幅広い世代が一緒に活動をしている。役者を育てるのではなく、演劇を通じて、子どもたちが自ら考える想像力、他者と一緒に作る創造力を育み、演じる経験で、自分にしかできない自己表現の楽しさを体験してもらい、自己肯定感を獲得すること。また、仲間との新しい出会いとともに多様性を受け入れ、思いやりの心を持つ事の学びを大切にしている。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

・コロナ禍において、なかなか思うように活動ができない状況でありましたが、子どもたち自身がこの状況に向き合い、みんなで作品をあきらめずに作り上げたことで自信や自己肯定感に繋がりました。
・保護者からは、学校や家庭では見れない姿や子どもの成長が見られて、良かったと多くの感想が聞くことができ、演劇の力を実感していただけたと考えています。
・市長をはじめ行政関係、市内の事業者、河野太郎衆議院議員など、多くの方からご支援いただくことに繋がり、今後の活動に向け、一定の認知がされたと考えています。
・タウンニュースにも複数回取り上げていただき、今後に繋がる関係性を築くことができました。

指導、運営上の工夫

〇児童・生徒への指導の工夫
・小学生から高校生まで、幅広い世代がいるため、小学生低学年、高学年、中学生以上とカテゴリーを分け稽古を行い、公演作品のテーマや方向性が浸透してきたのちに全体での稽古へ移行しました。
・子どもたち自身が、何を感じ、考え、どうしたいのかを問い、自己決定を促すことを大切にし、作品を自分ごとにすることを徹底的に行いました。
〇運営上の工夫
・コロナ禍でも実施できるように、３つの世代別カテゴリーに分け、密にならないように行いました。また、全体稽古の際にも、シーン毎に分けて稽古をするなどの工夫を行いました。
・公演一ヵ月前と一週間前にPCR検査を実施し、すべての参加者、スタッフの陰性を確認をし、安全に十分に配慮を行いました。

今後に向けた方針・方向性

・活動場所については、地域移行をするにあたって、定期的にできるだけ、同じ場所である必要があると考えています。今後は、メンバー数に応じて、新たな場所を検討するか、行政や教育機関と連携し、年間で場所を用意していく必要があると考えています。
・指導者については、作品作りにサポートとして参加してくれる人を募り、その活動過程において、理念や目的を伝えることで、共通認識を持てる人材を発掘する必要があると考えています。また、管理者については、高校を卒業したメンバーや保護者をはじめ、協力者を募り、サポーター体制を作る必要があると考えています。
・活動経費については、メンバーを増やす以外に、資金に限らず、活動全体を維持していくために、地域企業のスポンサーシップを募ったり、寄付金や賛助メンバーを募る取り組みをしていく必要があると考えています。
・過去に学校公演の実績もあり、特定の学校には評価をしてもらっています。今後は、今回できた行政との繋がりを進展させるとともに、教育委員会にも働きかけを行う必要があると考えています。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_28.pdf

No.28 一般社団法人シアター＆アーツうえだ

Ⅰ．基本情報

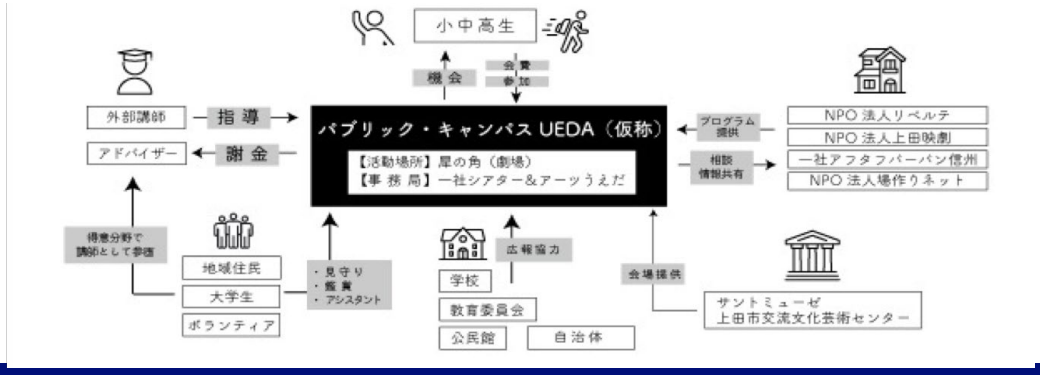
（運営主体）一般社団法人シアター＆アーツうえだ

主な活動種別

演劇、文芸、音楽、芸術、郷土歴史、将棋

（事業目標）	長野県東信地域の小学生から大学生が、自身の自発性に基づいて文化芸術活動に参加し、年代や障がいの有無によらず相互に創造性、社会性を育んでいくことができる場を創設すること。地域住民が主体的に関わりながら、こどもたちが安心して活動できる居場所づくり、質の高い文化芸術との継続的な関わりの提供等を通して、個々人に分断した地域社会のつなぎ直し、次世代の文化の担い手を育成することを目標とする。

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

週に一回、ファシリテーターやコーディネーター、ボランティアとともに５、６種類の部活から自身の興味関心によってその日ごとに選択し、活動する。活動の種類は演劇、美術、音楽、ダンス、実験、地域探索、ボードゲーム、映像など。参加者の意思・希望で新しい部活を創設することも可能。毎回、活動の最後の時間で発表の時間を設け、それぞれの部活がどんなことをしたか、作ったものなどを他の参加者と共有した。子どもが自分自身の意思で活動を選択することにより、能動的、自発的な参加となり、発表の時間を設けた事により毎回の活動の目標が出来、モチベーションアップに繋がった。第一線で活躍するアーティストを招聘する「スペシャルデイ」を3回開催。質の高い技術や、アーティストの人柄を身近で体感する機会となった。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

・応募段階で、部活動が始まる以前の小学校低学年が圧倒的に多く、この年代の子どもたちが放課後に過ごす居場所や受け皿が地域社会に足りないことが明かになった。主な活動は低学年を中心に組み立ていくこととなった。これにより今までなかった小学生低学年が文化的な活動をする場を地域社会に創り出すことができた。

指導、運営上の工夫

・本活動は、日常的に「創作する現場」である劇場（民間複合文化施設）を拠点とし、ファシリテーターやコーディネーターは舞台作品を作る環境に深く関わる俳優、舞台スタッフ、アーティスト等や、劇場を中心に集う地域のユニークな人材や、日頃から連携している地域の福祉法人等の人材などを多く起用した。

今後に向けた方針・方向性

・地域との結びつきを強化し、文化施設や関係機関との連絡会議や視察などを複数回実施する。特に、コーディネーターが地域社会のさまざまな文化施設や関係機関同士を、またそこの人材同士を繋ぐことにより、子どもが過ごせる場所や人材のネットワークを作り、特に高学年、中高生が地域のさまざまな拠点で放課後を過ごせるように働きかけていく。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_29.pdf

No.29 特定非営利活動法人 静岡地域教育芸術協会

Ⅰ．基本情報

（運営主体）特定非営利活動法人　静岡地域教育芸術協会

主な活動種別

吹奏楽

（事業目標）

少子化の進展により中学校１校あたりの生徒数が減少している。相対的に教員の人数も減少し、吹奏楽部の顧問となる教員が各校で不足している現状がある。
　また、教員の働き方改革を踏まえ、教員の献身的な勤務に頼ってきた吹奏楽部の活動について、外部人材を登用する必要が生じており、吹奏楽を楽しみたい生徒が高額な費用負担なく地域で活動できる受け皿となるスキームを構築し、活動を行う。さらに、市内の吹奏楽を希望する児童を受け入れることで、切れ目のない楽器体験を実現することができる

団体・組織等の連携

地域の音楽家の協力をいただき、パート指導を手厚く実施した。

Ⅱ．活動概要

合奏を18回、パートレッスンを9回、各3時間ずつ予定した。合計27回の集会計画だったが、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置で会場が使用できず、12回はキャンセルとなった。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

生徒たちは、学校の部活動が大幅に制限され、モチベーションが十分に得られない環境の中、本事業に参加することによって、演奏への積極性をもった行動、自主的な練習、打楽器運搬などの共同作業、他校生徒との活動により能動的なコミュニケーションなど、多くの成果を得ることができた。また、専門家による多数のレッスンや合奏によって、生徒たちの演奏能力の向上が顕著に表れ、アンケート調査でもその結果と満足度は大変に高いことが把握できている。
※演奏技術の向上ができた、という設問に対し、十分にできた＝５０％、まあまあできた＝４２％で、できたと回答した生徒が合計９２％となっている。また、つまらなかった活動については、１００％の生徒が「なし」と回答している。

指導、運営上の工夫

〇児童・生徒帆の指導に関する工夫
パート指導や合奏指導においては、音楽大学または同等のレベルを持ち、かつ指導や演奏の経験豊富な人材を登用し、生徒のモチベーションを保つことができた。その結果、アンケート調査では、「技術を上げることができた」、「成長を感じることができた」、「専門的な知識をたくさん教わった」、「どれも新しい経験ばかりだった」、「真剣にやる空気が良かった」、などの自由記述をほとんどの生徒が記載している。
〇運営所の工夫
NPO法人として日々活動する私たちが運営主体となることで、保護者や指導者との連絡調整などは、事務局員などがEメールやLINEを使用し、スムーズに行うことができました。大型楽器の保管場所についても、当NPOと信頼関係のある学校長の協力で音楽室近くのスペースに保管することができました。

今後に向けた方針・方向性

残念ながら、本市教育委員会の展望方針や、活動場所の音楽教員の理解不足から、来年度への継続事業とはなりません。

来年度は活動がないため、不記載とします。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_30.pdf

No.30　公益社団法人　教育演劇研究協会(劇団たんぽぽ)

Ⅰ．基本情報

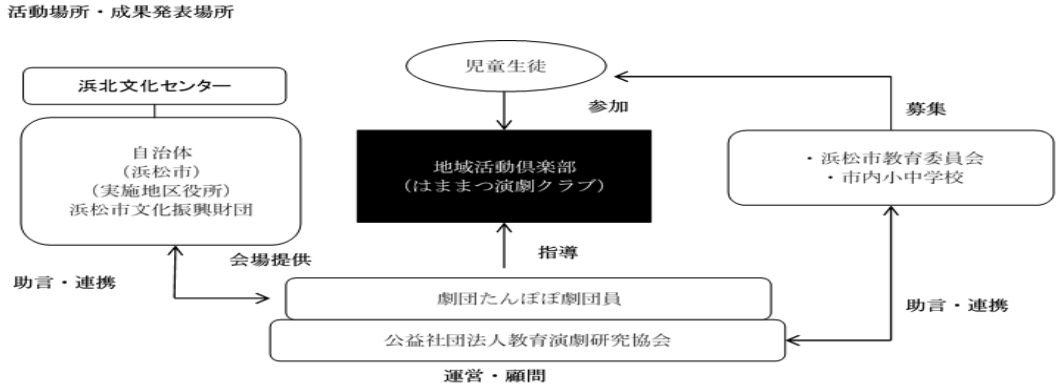
（運営主体）公益社団法人　教育演劇研究協会（劇団たんぽぽ）

主な活動種別

演劇

（事業目標）本事業の実施を通して、児童生徒に文化芸術活動（演劇）体験の機会を提供するとともに、継続した演劇クラブとして様々な学校や学年の児童生徒が集える、地域に根付いた活動拠点を作る。また、参加する児童生徒の自主性、主体性を育み、その保護者や地域住民が、芸術文化に触れ、楽しむ機会を増やすことも目標。

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

浜松市浜北文化センター内施設において、毎週土曜日（3時間）を基本とし活動。参加者は、小学校4年生～中学2年生まで。基本的に劇団たんぽぽ劇団員が指導にあたるが、今後は、外部指導者のコーディネートもしていく予定。台本を使い、演技だけでなく、照明、音響、美術、脚本等、幅広く演劇に触れながら、作品作りを目指す。年度末には、成果発表会を行い、一年間の活動の成果を地域住民や学校教育関係者に発表する。また、劇団たんぽぽの実際の公演現場を体験する機会も作る。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

・募集から2週間で定員に達し、その後も応募の問い合わせ相次ぎ、この事業が、地域に求められている活動であると強く感じた。教育委員会等のヒアリングから、「演劇に興味のある児童生徒が多いにもかかわらず、これまで学校内での創部に至らなかったのは、顧問や指導にあたれる教員がいないことも要因のひとつ」とのことで、教員の負担軽減という点では、事業実施の成果につながっていると考える。
・活動の様子を視察にきた行政や教育関係の方からは、異年齢の壁を超え協力しあって、子どもたちが伸び伸びと自分を表現している姿に感動したとの声をいただいた。
・参加児童生徒たちも、毎週の活動を楽しみしており、出席率は9割である。来年以降も続けたいという声も多く、高校生になったら演劇部に入りたいという子や、高校に演劇部がなければこのクラブを続けたいという子もおり、子どもたちに演劇に対する大きな興味を抱かせることができた。
・3月に実施した成果発表会では、まん延防止期間のため、来場者を家族に限定したが、ご家族から「こんな表情をする子だったんだ」との感想が聞かれたり、子どもたちからも、「この演劇クラブに入ったことで、学校でも色々なことにチャレンジしてみようという気持ちになった」との声があり、様々な変化が見られたことも成果である。

指導、運営上の工夫

○児童・生徒への指導
演劇クラブとして、子どもたちの自主性も尊重するよう工夫している。
演技が上手になることが目的ではなく、作品作りを通して、お互いの意見や役割を認め合い、協力しあって出来上がるものが演劇の舞台であることを感じてほしい。そのため、意見や感想を出し合い、話し合う場も十分設けることにしている。その上で、気持ちや言葉を伝えることの大切さや、どういう声、言葉、表現がその場に適当であるかの指導を行っている。

○運営上の工夫
活動を土曜日に設定することで、法人の通常業務にかかる負担を軽減させている。演劇は、コロナの影響に左右されやすい分野であるため、状況や現状把握に学校関係者や教育関係者からの情報収集や意見交換を頻繁に行いながら運営している。
今後、自立した運営へと結びつけたいため、部費を徴収。保護者からの理解を得る努力を行っている

今後に向けた方針・方向性

まずは、自立した継続的な活動としていくための、基盤を作らなければいけない。そのためには、活動を多くの人に認知してもらい、協力者を募る必要がある。今年度は、コロナの影響で、思うような活動ができなかった。来年度は2年目ではあるが、ゼロからの気持ちで取り組んでいく。また、補助金等が活用できるよう行政にも働きかけていく。初年度に活動場所とした浜北文化センターは、立地や交通の便がよく、参加者が集まりやすい。今後も、ここを活動の拠点とするために、会館や地域の生涯学習課に協力依頼し連携を図りながら、会場費の減免を利用していきたい。
教育委員会へのヒアリングで、浜松市は、既存の部活動を中心に地域へ移行していくことで手一杯という現状であるようだ。しかし、いずれ、この演劇クラブが中学校の課外部活動として、認められるよう活動報告を密に行い、学校の現状把握や学校と参加者の情報共有も行えるような関係を構築していく。
また、ニーズが大きいことから、基盤が整ったら、市内での参加者数や活動地域なども広げたいため、指導者も劇団員に留まらず、コーディネートしていけるよう計画していく。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_31.pdf

No.31 袋井市文化協会グループ

Ⅰ．基本情報

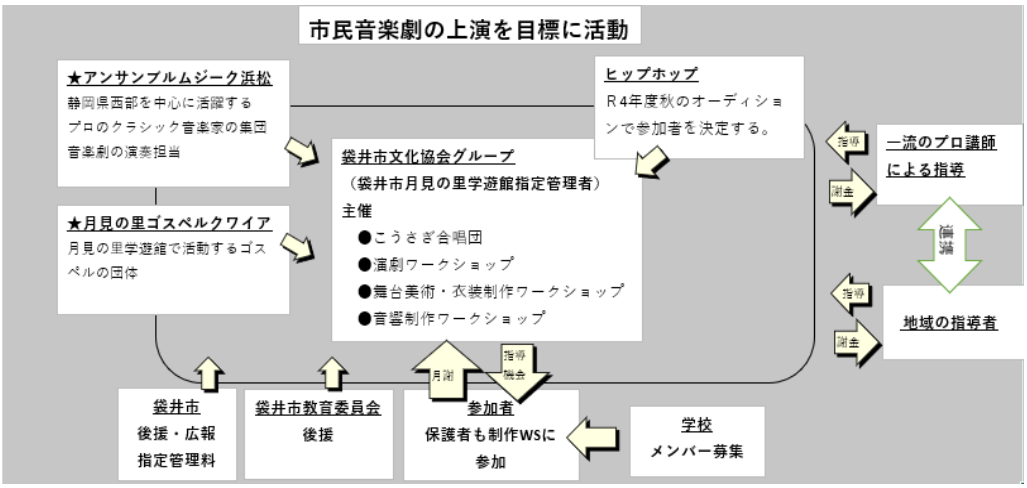
（運営主体） 袋井市文化協会グループ

主な活動種別

合唱、演劇、ヒップホップ

（事業目標）
①参加者同士の交流を図るとともに、多様なジャンルの文化芸術活動の体験の場を作る。
②本活動を通して参加者及び両親や祖父母といった世代間での交流が深まる。
③地域の講師と各ジャンルのプロの講師が連携することで、より質の高い文化芸術を体験する場となる。
④月見の里学遊館と地域の文化芸術活動団体、保護者、ボランティア、学校、市が連携しこどもの文化芸術体験の受け皿となるコミュニティを作り、育て、地域活性と文化芸術力の向上を目指す。

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

①これまで個別に活動していたこどもたちの文化芸術体験の場を繋げ、音楽劇の発表を目標に活動することで、横の繋がりを作り、袋井市の文化芸術体験の場を広げ、学校のクラブ活動を支援する。
②月見の里学遊館だけで活動するのではなく、地域で活動している文化芸術系の教室や団体、学校、保護者、市と連携することで、より多くの方々に関わっていただき、袋井市全体でこどもたちの文化芸術体験を持続的に行うことを実現する。また、音楽劇を2年に1回など継続して開催することで、新たに加わっていただく個人、団体を増やし、活動を継続的且つ発展的なものとするために、月見の里学遊館を核とした地域の文化芸術活動を支援するコミュニティを育成していく。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

アンケートやヒアリングを取った結果、学校での文化芸術活動の内容を把握をすることができ、市の文化施設として何ができるか考えるきっかけとなった。
1人の負担を減らすため、各ジャンルごとに講師を立て、さらにコーディネーターとの連携も取っている。
学校と同様、施設使用料がかからず、内容も合唱やダンス、演技と、楽器などがかからない事業のため、普段の活動は参加者からの月謝でかなりの部分を賄うことができるので、部活動の代替となる可能性は充分にある。
音楽劇の上演を目標に、地域の各ジャンルのプロにお願いしているため、各々分担することができ、無理のない活動ができた。

指導、運営上の工夫

合唱については文化施設の強みを生かし、毎週の練習だけでなく12月に一般客を入れての「クリスマスコンサート」に出演し、地域のプロオーケストラや地域で活動している大人の混声合唱団とともに出演した。一般客を入れた有料のコンサート出演という明確な目的を持つことで、こどもたちの練習に対する熱意が上がり、レベルアップが図れた。また、出演後のこどもたちのモチベーションが更にアップした。
文化芸術関係のコーディネーターや地域活性アドバイザーなども行っているディレクターを採用したことで、首都圏からのプロの講師の招聘が容易にでき、これまでの市民の発表レベルよりも質の高いレベルで練習やワークショップを行うことができた。

今後に向けた方針・方向性

月見の里学遊館は市内北部にあり南部の生徒は参加しづらいため、地域格差がある。そのため、市内14か所にあるコミュニティセンターなどと連携し、合唱、ダンス、演技などのワークショップを各ジャンル３か所程度、地域を分けてで開催し、合同練習や発表は月見の里学遊館にて行う計画を立てている。
低所得者家族については、所得額に応じて月謝について補助を出すなどの措置が必要。企業からの協賛金などで対応したい。
これまで担当部署とは連絡を取ってきたが、地域に活動を移行することについて積極的ではない印象を持った。教育委員会だけでなく、地域の担当部署である協働まちづくり課とも話し合い、行政へ理解をしていただく必要がある。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_32.pdf

No.32　NPO法人 日本地域部活動文化部推進本部

Ⅰ．基本情報

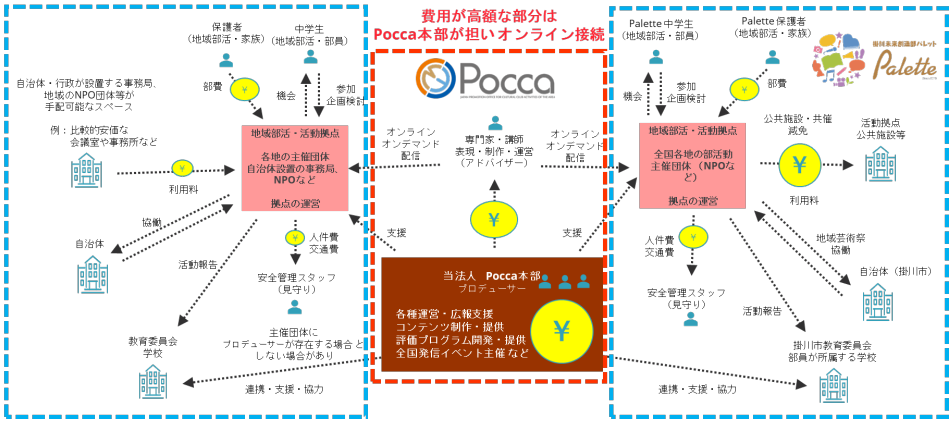
主な活動種別

文化芸術全般

（運営主体） NPO法人 日本地域部活動文化部推進本部

（事業目標）・個別最適かつ協働的な学びを得られる活動実現のための仕組み
・活動を支える担当スタッフ人員確保とオンライン・オフラインを融合した仕組みの構築、活動を補完するオンライン・オンデマンド配信コンテンツの開発制作
・地域と共に持続可能な活動を展開可能な資金基盤の獲得

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

「学びのきっかけの機会提供」と「人材・資金の持続可能な確保」の両面から、ＮＰＯ本部（Pocca）と部活動拠点（Palette）をオンラインで接続し、拠点は安全管理スタッフ若干名と会場費とスタッフ人件費を基本に確保できれば、子どもたちの自主性を最大限に発揮しながら、継続的な運営が可能なことを実証する。

◇参加者数

・本部スタッフ数 ： 総合プロデューサー1名、事務局専属人員 1名、会計・総務 1名

・部活動拠点の部員数 ： 46名（中3：4名、中2：23名、中1：19名）　・安全管理スタッフ数 ： 1名（10月～）

◇NPO本部⇔部活動拠点の接続

・5～11月 プロデューサーはじめ大人スタッフが直接部員の前に立っての指導や、副顧問やアドバイザー

・12～3月 Pocca本部（ホール舞台袖の仮本部も含む）⇔Palette拠点をオンライン接続して部活動を実施

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

子どもたちのニーズに沿って、現在学校にないジャンルの活動を実現し、部員が増加、そして、その拠点が年々市内各地に拡大していくことで、学校部活動が中長期的視点で合同部や拠点校方式への移行促進につながる。
［新たに設けた数：10ジャンル］
表現：演劇、ダンス、MC、声優、デジタルアート、制作：脚本、舞台技術、ITプログラミング、衣装制作等

指導、運営上の工夫

現場で関わる大人スタッフは、離れたところで安全面を見守るのみ。技術指導は行わず、すべて独学で調べて学んだり、お互いに教え合ったりが基本。
「自分がやりたいことができる」「自由」「楽しい」という感想を大多数の部員が語るほど、満足度が高い。
企画したり、制作したり、という観点の考え方や手法について、アドバイザー（オンライン講師）やプロデューサーがアドバイスを行っている。

今後に向けた方針・方向性

・オンラインワークショップ、教材の充実、プロデューサーの人材養成、全国規模の大企業グループ資金の協賛体制、全国規模の研究機関等とのタイアップ、円滑な運営のための各種ツールや資料の作成、支援
・見守りスタッフの確保、できるだけ安価な会場と通信環境（WIFI）の確保
・Palette以外の新しい部活動拠点を新設・連携し、全国展開の実証

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_33.pdf

No.33 有限会社総合劇集団俳優館

Ⅰ．基本情報

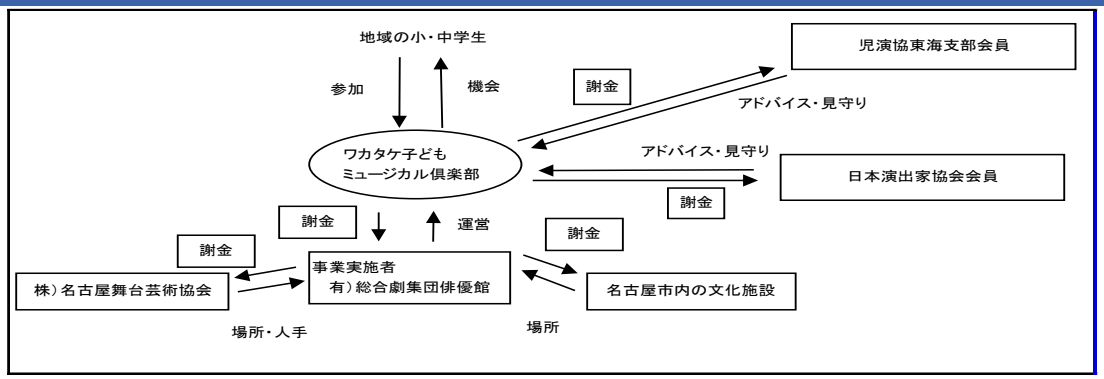
（運営主体）有限会社総合劇集団俳優館

主な活動種別

ミュージカル

（事業目標）子どもたちが自由な発想を持ち、のびのびと自由に表現ができるようになること。また、これを目指すうえで学校現場への負担を軽減する目的を果たすこと。

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

子どもたちが主体となって、表現者となり、学校現場では専門的で扱いにくいであろうミュージカル作品（歌やダンスの入った作品）を作り上げる。地域で活動する役者や演出家が、作品作りのサポートを行う。

①～９月　参加者を募集・決定。
②１０月　演劇に関するワークショップ
③１１月～２月　作品制作
④3月　制作発表

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

今までお芝居や歌・ダンスを経験したことのない子どもたちが、芸術分野に触れる機会を得ることが出来た。

一般募集で参加者を募ったため、参加した子どもたちの活動に対する意欲も高かった。子どもたちのみでオンラインを活用した自主練習を計画したり、表現方法を子どもたちから提案するなど。

事業の最後に、参加した子どもたちと保護者の方々から「楽しかった」「みんなと出会えてよかった」「初めて子どもがこんなにも熱量をもって取り組んでいる姿を目の当たりにすることが出来た」と伺うことが出来た。

また成果発表を観に来たお客様からのアンケートによると、回答者の全員から「とてもよかった」と回答頂いた。また「来年度以降このような企画があったら身近にいる小中学生に参加を勧めたいか」の質問には、回答者の全員から「とても勧めたい」「まあまあ勧めたい」との回答を頂いた。

指導、運営上の工夫

○児童・生徒への指導に関する工夫

子どもに表現方法を押し付けるのではなく、子ども自身が、与えられた役・セリフ・シーンの中で「どんな表現をしたいのか、どう感じるのか」を考えて表現することに重きを置いた。そのためあまり動きの指定はせず、「どうしたい？」「どう思う？」という問いかけや、子どもたち同士の話し合いを多く取り入れた。

○運営上の工夫

お芝居やミュージカルに参加したことの無いお子様や保護者様が多数だったため、参加するにあたって、基礎的なところから説明する必要があった。主にメールで共有事項を頻繁に連絡した。

普段、お子様と離れる時間が少ないご家庭も多く、稽古場でどんなことをやっているのか不安に思われる保護者様もいた。そのため、メールの文章だけでなく稽古時の写真や動画を共有した。

また、コロナ対策の為、本人が体調不良でなくてもクラスが学級閉鎖になった場合等は、稽古を休んでもらうこともあった。その際、稽古時にお休みの子どもとオンラインでつなぐ等のフォローをした。

感染症対策の為、PCR検査を１回、抗原検査を２回実施した。

今後に向けた方針・方向性

参加する子どもも、成果発表をみる子どもや大人も、子どもたちが初めてお芝居をしている姿に感銘を受けることが今回わかった。今後成果発表をする場合は、より多くの人に観客になってもらうことを目指すべきである。

特に、学校の教員が、普段接している児童・生徒の舞台に立つ姿を見ることで、学校現場に生かせるヒントを得ることができるのではないかと考える。成果発表の際は、事前に学校関係者に広く企画を周知すると良い。

また、部活動の地域移行が進めば、教員の教育現場での負担が減り、子どもと接する際のパフォーマンスがあがる可能性がある。空いた時間で、このような事業に参加する子どもたちを観に行き、新たな刺激を得ることが出来るかもしれない。地域の活動に教員が関わり、相乗効果を生めるような計画を立てられると尚良いと考える。

部活動を地域に移行することで、複数の学校の児童生徒が一緒にひとつの目標に向かって挑戦することが出来る場をつくりやすくなる。普段学校で人間関係に悩む子どもや不登校気味の子が本企画に参加し、結果、日々の楽しみを増やすことができたという声を実際に頂いた。放課後、学校ではないところで気楽に活動する場があるということは、非常に意義があるのではないかと感じた。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_34.pdf

No.34　NPO法人むすめかぶき

Ⅰ．基本情報

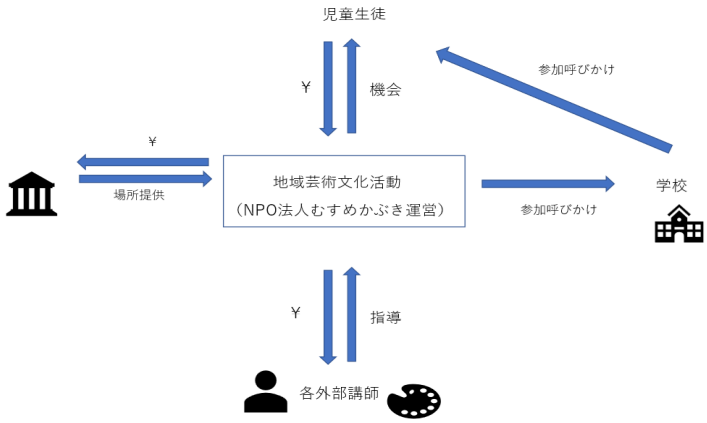
（運営主体）NPO法人むすめかぶき

主な活動種別

伝統文化（歌舞伎）、日本画

（事業目標）　質の高い文化伝統芸術を学び、仲間と共に「心」を創る場を提供。
西洋化の中、さらなるコロナ渦でごく少数となった今、日本の伝統文化芸術を師を持ち子供たちが学ぶことは人格形成に重要な役割を果たす。

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

①日本画を描く　計５回
　日本画の描き方やその方法、国宝や重要文化絵画に描かれている日本人の想いを学びながら実際に描き、その心と表現方法を学ぶ
②こどもかぶきを踊る　計11回
　挨拶など作法ふくめた「こどもかぶき」の身体表現を学ぶ

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

＜日本舞踊＞
着付けはもちろんのこと、お作法の襖の開け方、お辞儀の仕方など基本から始まり、古典の１つである「菊づくし」を覚え発表。日本古典での所作、動きなどの基本を体感することが出来た。
＜日本画＞
クレヨンや絵具になれた子供たちは和紙や顔彩も初めて。日本画屋さんに行き道具一式を購入することから始まり、未知な世界を知る事を楽しむ。

指導、運営上の工夫

●日本舞踊
着物の着方、浴衣でのお稽古で揃えるべき一式のご案内、扇子の選び方などのご案内各御礼、お辞儀、正座、作法の方法
浴衣の着方のユーチューブ配信
お稽古での振付動画配信にて復習
正式な場での着物と帯の選び方
正式な場でのお作法一式
●日本画
慣れ親しんだ絵具やクレヨンでなく顔彩の特徴や使用方法、和紙への取り扱い、国宝の日本画におけるその時代の画法、歴史背景を伝える
自身の描いた絵が現代最先端技術と融合する様を体感し、昔と今の融合を体で取得する。
＜指導者＞
各専門家を呼び専門分野をわかりやすくレクチャー。

今後に向けた方針・方向性

学校教師が部活動指導に当たる際、専門的な知識や経験に偏りが生じることが課題である。子どもたちのために教師が部活動に力を入れることは、子どもにとって財産とはなるが、教師の労働時間に問題が生じてしまう。実際に指導を行うのは、専門の人材が行った方が子どもたちは平等に活動することが出来る。前もって実演家と教師が計画会議を綿密に行い、教師はその分野独自の背景・歴史・技能を知り、子どもと実演家の橋渡し役となることが理想である。また実演家も教師より教育のノウハウを学ぶ必要がある。幅広い地域の行事に参加してゆくことが、開かれた部活動を形成するのではないか。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_35.pdf

No.35 大津芸能倶楽部プロジェクト

Ⅰ．基本情報

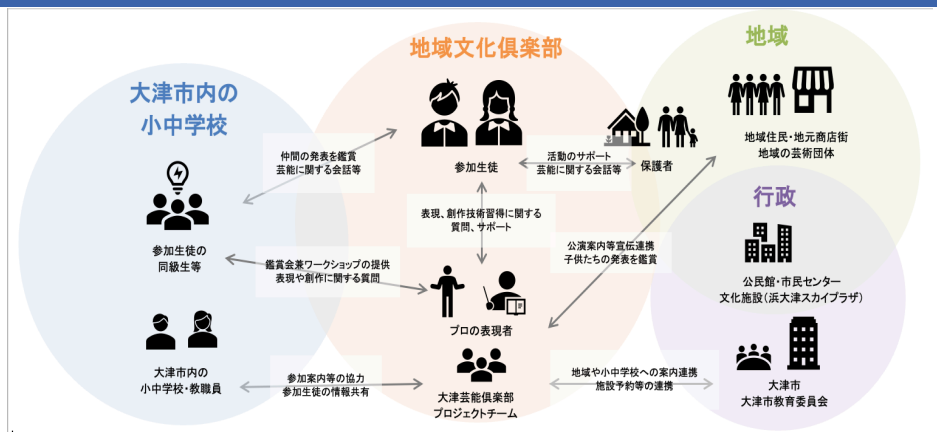
（運営主体）大津芸能倶楽部プロジェクト

主な活動種別

落語、常磐津（三味線音楽）、芝居（コント）

（事業目標）
①子供たちの潜在的ニーズの掘り起こし
②保護者への負担軽減
③学校側の負担軽減
④行政や自治会等との地域連携

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

①鑑賞の機会の提供と参加者募集
　大津市内で鑑賞会兼ワークショップを実施し、生の舞台の鑑賞機会を提供（５月）
　行政や地域を巻き込んだ宣伝活動の実施（通年）
②プロによる稽古と発表会の実施
　地域の施設で対面・オンライン稽古会を実施（７月－９月）　・地域の施設で、発表会＆鑑賞会の開催（９月）
③観劇や取材を通じた芸能研究の実施
　参加者自らがテーマを設定し、大津市近郊で開催される公演や大津にまつわる芸能等を鑑賞研究（１０月－１２月）
④鑑賞の機会の提供と参加者募集
　大津市内で親子鑑賞会&ワークショップを実施し、保護者の理解を得る（オミクロン株による第６波のため中止）

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

①計4回のプロ公演の生鑑賞、体験機会を作り、子供たちの潜在的ニーズの掘り起こしと、プロの技術とICTを活用した稽古の機会の提供ができた。
②保険や衣装代等を実費負担のみにし、また、子供たちだけで通える稽古場が確保と、対面とオンラインの２種類を組み合わせたことで費用、送迎の保護者負担軽減ができた。
③学校ができること、できないことを事前に把握、教員の負担軽減に寄与できた。
④行政の記者クラブを活用し、効率的なプレスリリースを行えた。学区内の支所を利用して自治会に協力を依頼できた。

指導、運営上の工夫

指導の工夫
・体験する芸能と地域の歴史の関係を児童生徒に紹介
・プロと児童生徒との関係づくり
・コロナ対策の徹底

運営上の工夫
・学校・教員との信頼関係の構築
・応援してもらうための情報発信の徹底
・活動継続のための業務効率化

今後に向けた方針・方向性

①地域、自治体、保護者の理解
　地域の青少年育成にとって必要であり、教員の働き方改革に良い影響を与える団体であると認識してもらうことを目標に、活動の継続と情報発信に努める。
②活動内容
　参加者がプロの指導を手軽に受けられ、表現力や主体性を身につけられる活動を、継続して実施する。
③資金調達、経費
　対象を限定せず、さまざまな方法で資金を調達する。業務効率化によって経費を削減し、家庭環境によらず希望者が参加できる運営を行う。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_36.pdf

No.36 プレイングラボ

Ⅰ．基本情報

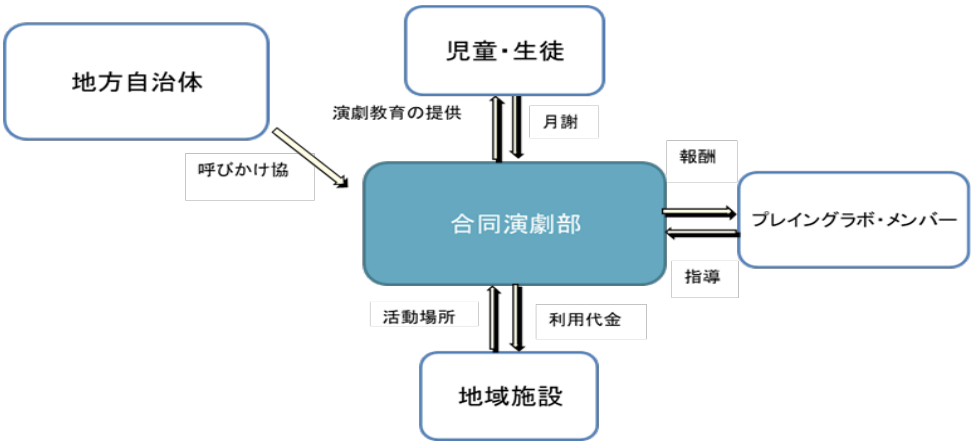
（運営主体）プレイングラボ

主な活動種別

演劇

（事業目標）
・「演劇部を作りたいが、専門講師がいない、人数が集まらない。」という問題を解決する。
・「演劇」という、人と関わり合いひとつの目標に向かって協働する作業を通じて、様々な課題を抱える子ども達の第二の居場所となる。

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

「演劇教育を通じて“自分らしく生きる為の人間力”を育みたい」と考えた、演劇教育の実践経験を持つ講師らが主体となり活動している。本事業では、学校の垣根を超えた「プレラボ演劇部」での活動と称し部員を募集、計17名の部員と週に1回（公演前の特別カリキュラムを除く）、1年間の部活動に励んだ。
演劇の公演（本番）を創り上げるための過程を経験してもらうことに加え、柔軟な発想と決断力で、前向きに問題突破する力を育成するためのカリキュラムを取り入れ、豊かな心と身体をつくる指導に注力している。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

・【感受性】好奇心を持ち、豊かな感性で物事を感じられる。〈70点→80点（＋10点）〉
・【表現力】表情や声、体の動きを使って表現できる。〈65点→75点（＋10点）〉
・【緊張に負けない力】緊張する場面でも、落ち着いて本来の力を発揮できる。〈60点→65点（＋5点）〉
・【臨機応変力】想定外の事態でも即興的に対応できる。〈35点→80点（＋45点）〉
・【積極性・自発性】進んで発言したり、自分から行動を起こすことができる。〈55点→60点（＋5点）〉
・【傾聴力】他者の話を聞き、相手の立場で理解できる。〈60点→75点（＋15点）〉
・【コミュニケーション力】他者との意思疎通をスムーズにできる。〈60点→75点（＋15点）〉
・【協調性】集団の中で調和を取り、協力し合うことができる。〈70点→75点（＋5点）〉

指導、運営上の工夫

・部員一人一人に合わせた到達度を設定した。また、異年齢集団での活動が主体であったため、発達の段階に応じて声かけを変える工夫等を行った。
・各自の目標へ向かって取り組む態度、仲間と意見が違うときに合意形成する力、協力する意識の向上なども重点に置いた指導を行い、「表現」という、答えのない問題に向かって部員一同協力することを中心においた指導を徹底した。

今後に向けた方針・方向性

・さらなる活動の周知を、学校、地域、教育委員会、教員、保護者等に働きかける。そのことを通して、演劇部がない、講師がいない、地域での表現活動を展開したいが人が集まらない、等の課題の解決を図る。
・安全な学校外での部活動運営のためにも、各所と連携した保健・安全のガイドラインを明確にする。
・関係者の負担を軽減し、かつ質の高い内容を保持するためにも、自治体の補助金等の活用を積極的に行い、部活動回数・計画の設定を見直す。また、外部の人材への協力依頼を積極的に行う。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_37.pdf

No.37 堺シティオペラ一般社団法人

Ⅰ．基本情報

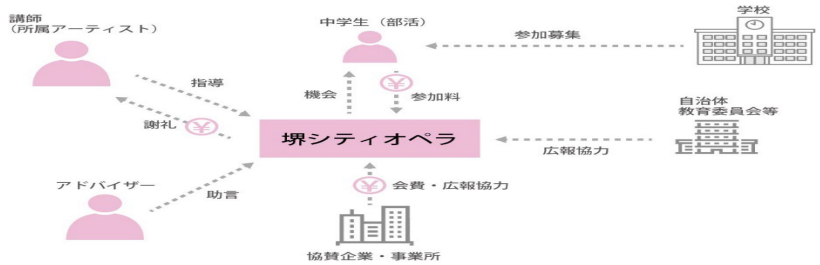
（運営主体）堺シティオペラ一般社団法人

主な活動種別

オペラ

（事業目標）	「オペラ」と言う総合芸術に携わる堺シティオペラが、地域の教育委員会や学校と連携し、様々な分野で活躍するアーティストや指導者をコーディネイトし地域の中学生・小学生に学校の部活動に代わり継続的で質の高い多様な文化芸術活動の機会を提供する。オペラだけに特化するのではなく、日本の伝統文化、演劇、ミュージカル、ダンス、舞台の裏方など、舞台芸術に関する様々なことに触れる機会を作り、音楽や舞台芸術を身近に感じてもらい、今後の子どもたちの将来の芸術文化の普及や発展に寄与する。

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

地域文化倶楽部・ジュニアオペラは、地域の団体である堺シティオペラが主催し文化庁の助成を受け2021年に立ち上げられた事業である。
大阪府内の全小・中学生を対象に部員を募集し、音楽、演劇、ミュージカルなどの表現分野と伝統芸能（狂言や日本舞踊）、舞台芸術や作詞など制作分野を融合した総合文化芸術部として活動している。大阪府内の小・中学生が部員となり、週1回1時間～3時間程度堺シティオペラの施設であるエタニティ エイトで集まり、活動している。講師は、オペラや舞台芸術の様々な分野で活躍するアーティストが、毎回違ったテーマを題材にして指導を務める。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

• 参加児童は技術の向上だけではなく、学校や・年齢の幅が広く垣根なく友人ができるなどの副次的な効果が得られている。
• 小学生の参加が多いので、中学生になってからも舞台芸術に関わる子どもが増えていくと考えられる。
• 今年度実施したことにより、学校の校長へ今後どのようなことが出来るかという参考例としてプレゼンテーションが出来事業を認知いただくことができた。また学校長と意見交換をし、教育現場ではどのようなことが求められているか等を知ることが出来た。今後の課題としてき地域の学校の先生方の認知していただき、部活動顧問をしている教員の負担軽減につながる可能性がある。
• 伝統文化の指導を取り入れることにより子どもたちに普段学校では習えない伝統文化を理解する機会を与えた。
• 指導者として意欲を持たれている先生方にとっては、部活動の内容や質を向上する取組としてよい受け皿に
なり、優れた人材を青少年育成の現場に招くことができた。

指導、運営上の工夫

○児童・生徒への指導の工夫
・学校では習えない現役のアーティストを指導者として選定している。
　専門的な知識をもつ指導者から指導を受けることで、生徒の技術習得や意欲向上、保護者の理解につながっている。
・学校の都合などで毎回参加しなくても遅れをとらないよう継続的ではない講座（毎回指導者が代わる）を開催。
• 地域のイベント（公演）ではオーケストラや現役の歌手と一緒に公演に参加できる機会を提供。
• メインの講師以外にも指導補佐が付き添い低学年の児童の練習をサポートするといった工夫も行っている。
・コロナ禍の中では、密をさけるためにリモートでのレッスンも開催。
・年度末には、1年間の成果を発表するための発表会も開催。
運営上の工夫
○児童・生徒への指導の工夫
・子どもたちが様々な経験ができるような様々な分野で活躍する指導者を選定
　（当初の予算からの減額で　厳しい状況であったが、スケジュールや謝礼など、
　当団体で指導経験のある講師やアーティストの協力を得た。）
・活動時間は学校終わりの時間にあわせて参加しやすい時間に調整
・生徒たちの募集は当団体のホームページやSNSで告知と、地域の音楽教員にチラシの配布。
・保護者との連絡調整については、当団体の事務局員が必ず講座が開催される前日にメールで連絡。
　指導者との連絡も頻回に行い、参加している児童の状況や他の講座の内容に関しての情報提供も行う。
・指導者の参考になるように、他講座の動画データを指導者に配信
・地域の公演に参加するなど、他団体とのイベントにも積極的に子どもを参加させている。
・活動支援・事業運営のためにリモートレッスンや動画配信などでICTを活用。

今後に向けた方針・方向性

【子どもたちには】「オペラ」と言う総合芸術に携わる堺シティオペラが、地域の教育委員会や中学校と連携し、様々な分野で活躍するアーティストや指導者をコーディネイトし地域の中学生・小学生に学校の部活動に代わり継続的で質の高い多様な文化芸術活動の機会を提供する。オペラだけに特化するのではなく、日本の伝統文化、演劇、ミュージカル、ダンス、舞台の裏方など、舞台芸術に関する様々なことに触れる機会を作り、音楽や舞台芸術を身近に感じてもらい、今後の子どもたちの将来の芸術文化の普及や発展に寄与する。
・学校ではできないような活動をしてもらい、将来の選択肢を広げる
・専門性の高い指導を受けられる機会を提供する
・参加するしないを自由に選択できるようなシステムにする
・様々な価値観を持つ人や、学校や年齢の幅が広く垣根なく交流でき、成長できる環境を提供
【教職員、学校には】　地域の中学校では音楽を指導する教師が1名しかいないことも多く、離れた学校の音楽教師が地域文化倶楽部により繋がり今後の学校での指導の向上になるようなイベントを企画し、学校関係者も参加できるように学校や教育委員会と連携を図る。指導者を巻き込んだ活動にし、生徒だけでなく教師も一緒に学べる機会を作る。
地域の学校や教育委員会などの行政機関などと連携をして、生徒や各家庭への広報協力を得るように働きかける。また、地元の企業や事業所に広報協力などを依頼しサポートをしてもらうことにより、将来的に子ども達の文化芸術活動を行政機関や地元の企業・事業所がサポートするシステムを構築することを目標としている。
・部活動指導の負担が減る。授業準備など本来業務により時間とエネルギーを割けるようになる。
・ 地域との関係性が強まる。部活動以外でも連携しやすくなる。
【地域にとって】　・ 地域のスポーツや文化活動の活性化
・ 地域のなかでの連帯、関係性の向上
・ 地域の企業等のビジネス活性化

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_38.pdf

No.38 一般社団法人 江原河畔劇場

Ⅰ．基本情報

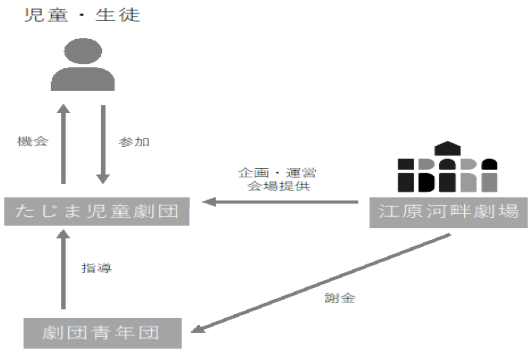
（運営主体）一般社団法人江原河畔劇場

主な活動種別

演劇

（事業目標） 豊岡市を中心に実施されている「演劇的手法を用いたコミュニケーション教育」の授業において、より演劇に関心を持った児童・生徒の受け皿として本格的な演劇の場を提供する。また、中高生には、公演の実施を通じて、まちづくりや観光など地域の課題に関心を持ってもらう広範なプロジェクトとする。

団体・組織等の連携



メンバー募集や活動の案内チラシを兵庫県但馬地域の教育委員会を通じて対象の学年全員に配布した。指導は劇団青年団の演出家や俳優、技術スタッフが務めた。

Ⅱ．活動概要

小学生の部と中高生の部に分かれ、それぞれ月１～2回の活動を実施。
中高生の部では、2021年1月9日～10日に本格的な演劇公演を実施。冬休みを利用して1週間の集中稽古を行なった。指導は全て劇団青年団の演出家や俳優、技術スタッフが務めた。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

◎参加者アンケートより
・学校に演劇部がないので応募した。今後も演劇を続けたい
・将来、俳優を目指しているので、参加できてとてもよかった
・学校では自分から積極的に意見を言うタイプではないが、ここでは自然と自分からコミュニケーションを取ることができた。すぐに学校で活かせるかはわからないけど、今後の自分の糧になると思う
・他校の人と仲良くなることができて嬉しかった
・今回の活動を通して演劇にはまったので、学校の演劇部に所属した

指導、運営上の工夫

・指導者を含めた運営チームで各回終了後にフィードバックを実施した。
・劇団青年団に所属するプロの演出家、俳優、技術スタッフによる専門的な指導を行った。
・劇場を使って本格的な演劇活動を行った。
・江原河畔劇場を拠点とする劇団青年団の劇団員により、安定して指導者の確保ができた。
・各市町の教育委員会の協力を得て、学校でチラシを配布したりポスターを掲示した。
・保護者との連携はメールを利用した。コロナの感染状況や天候不良などで中止や日程変更があった際も、随時スムーズに連絡をとることができた。

今後に向けた方針・方向性

・参加者へのアンケートからも、演劇創作を通じて他校生と交流ができたことが満足度やモチベーションにつながっていることがわかった。学校単位の部活動ではなく、地域の部活動となることで生じた価値の一つであり、部活動を地域移行する意義が強く感じられたため、広範に公募をかける形は継続する方針。
・当劇場から最も近い兵庫県立日高高校にヒアリングを行い、令和４年度より既存の演劇部の活動を部分的に移行する方針で合意を得た。前項でも記した通り、当劇場のある豊岡市地域が広範囲に及ぶため、まずは最も近い高校と連携し、徐々に広域に広げながら継続可能な形を模索しながら段階的な移行を目指す。
・平日の放課後に活動可能な運営体制を構築し、通うことのできる範囲の児童・生徒を受け入れる。
・成果発表として本格的な演劇公演を行うことで、地域住民に楽しんでもらうとともに、地域の誇りとなる活動を展開する。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_39.pdf

No.39　特定非営利活動法人　やんちゃんこ

Ⅰ．基本情報

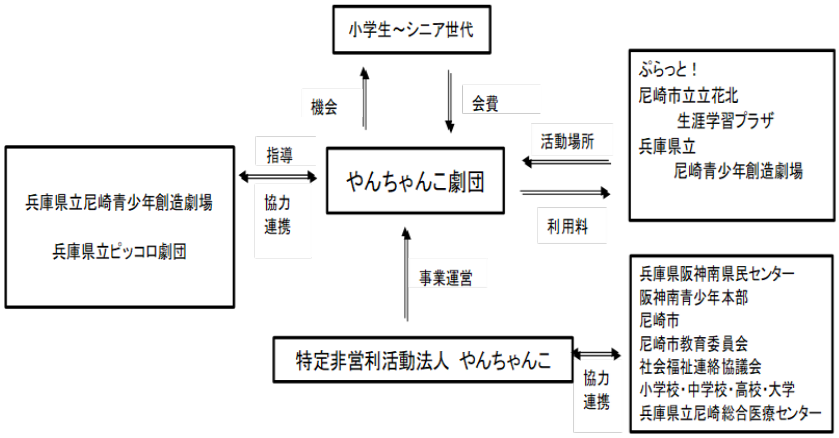
（運営主体）特定非営利活動法人　やんちゃんこ

主な活動種別

演劇

（事業目標）・演劇活動を通して、集団活動の大切さや表現力を学ぶ
・世代間交流・コミュニケーション力の習得　　・不登校や発達特性等の子どもたちの居場所作り
・自己肯定感の向上・地域福祉支援等を目指す。

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

①ピッコロ劇団員によるワークショップの実施とやんちゃんこ劇団員の参加者募集
　演劇の基礎となる動きや発声のためのゲームを実施、演劇用語等を学ぶ（4月～５月）
　行政や地域を巻き込んだ宣伝活動の実施（通年）
②ピッコロ劇団員による劇活動の練習開始
　地域の施設での練習（6月－９月）　台本読み・立ち稽古・衣装合わせ等
③ピッコロ劇団員による劇活動上演に向けての練習（10月～12月）　立ち稽古・小道具作り・ホール練習等
④やんちゃんこ劇団　本番上演　（1月）
⑤上演後の振り返りと反省会の実施　アンケートからの分析　今後の予定企画の実施　（2月～3月）

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

・活動する中に発達特性を持つ子どもが数名いるが、個々に伸び伸びと自己表現ができ自信につながる姿が見られた。
・地域の見守りや協力のもとに自分たちの活動が成立しているということを実感することができ、一つの舞台の準備から片付けまでをやり遂げることで、達成感や責任感を育成できることができた。
・行政（県民センター・青少年本部・レクリエーション協会・市教委等）や地域団体（社会福祉協議会・子ども会等）と常に情報共有ができているため、広報や、人事確保のための協力体制が構築されている。
・劇団の活動には保護者からも賛同を得ており、運営に関しても協力的である。

指導、運営上の工夫

・兵庫県立尼崎青少年創造劇場との連携活動は、以前から子育て支援事業で関係性ができているため、今後もピッコロ劇団から指導者の協力については確保ができる。
・地域活動であること、参加劇団メンバーが小学生から中学生、高校生、社会人で構成されているため、日曜日等の休日を中心とする。
・民間も基金はできる限り活用していけるように努めている。
・保険（公益財団法人スポーツ安全協会等）への加入は安心・安全に活動していくために必須としている。
・練習場所であるホールや会議室等は、法人として減免措置がある所を利用する。

今後に向けた方針・方向性

・尼崎市の福祉課からの繋ぎで来年度は中学生や高校生で地域貢献活動をしているところと連携する予定である。
・大学との連携において、大学生とのコラボも計画
・情報提供の場として、地域の小児科・学習塾・商店街にも協力を得ている。人材確保にもつながると考えている。
・今後もエフエム尼崎と連携協力し、情報発信や募集等を発信していく。
・専門性を高めた活動を継続していくため、活動費の確保にも努めていかなければならないため、助成金などによる支援に加え、参加者からの定期的な収入も安定させることが必要。今後、企業などにも協力・支援を求めていきたい。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_40.pdf

No.40　大手前大学

Ⅰ．基本情報

（運営主体）大手前大学　さくら夙川キャンパス

主な活動種別

演劇

（事業目標）
〇演劇を主体としたワークを展開することによって、豊かな感情表現を醸成させる。
〇参加者それぞれが今後、「地域のリーダー」となれるような人材を育成する。

団体・組織等の連携

Ⅱ．活動概要

大手前大学内の施設を使い、「からだとこころの表現」計４回／「音楽と声の表現」計３回／「リズムとダンスの表現」計３回／「劇の発表に向けて」計３回（最終日は成果発表会）の合計13回のワークを実施する。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

・参加者11名のうち、ほとんどは自ら志願して応募をしてきた（保護者の勧めは１名のみ）。そのことから、表現そのものを実践的に学ぶ機会の需要性が高いことが窺えた。
・中学の部活動に直結させるなら演劇部となるだろうが、所属した際にはその自信からリーダー的な存在になり活動を牽引できる人材になることが期待できる。また、人数がひっ迫している学校においては、本講座が設けられることによってこちらのみへの参加を希望するケースも生まれるであろう。
・スタッフワークに関して、プロで活動される人材と触れる機会を設けられたことにより、技術的な悩みが生じた際に連携をとることができるようになった。

指導、運営上の工夫

・感情表現のアプローチのみではなく、外部指導者として声楽・ダンスのプロフェッショナルや音響、照明、美術の技術職においても専門家を有することでより深い関心、理解を促すことを意識した。
・大学のゼミナールに所属する学生の研修も兼ね、現場で一緒に活動してもらうことにより、参加者においてもより近い年齢とコミュニケーションができる場を提供した。また、参加学生には、表現指導をする際のポイントや導き方、考え方などを時間外を使ってレクチャーを重ねた。
・従って、今後、部活動の顧問教員から実技的なワークショップなどの要望が生じた場合に、複数人を派遣、対応できる仕組みを構築できた。

今後に向けた方針・方向性

・部活動の意義と部活動の地域移行の関係性
・学校、社会教育（教育委員会、社会教育施設）等の役割分担の検討
・人材確保、育成の方策
・教員及び子供の部活動負担軽減
・安定性・継続性の確保
・活動経費の負担の在り方、確保の方策
・学校施設設備の開放の方針
・ICTの活用

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_41.pdf

No.41 特定非営利活動法人ダンスボックス

Ⅰ．基本情報

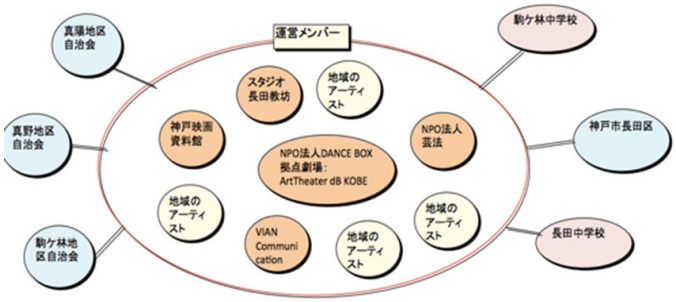
（運営主体）	特定非営利活動法人ダンスボックス 拠点：神戸市長田区南部

主な活動種別

コンテンポラリーダンス

（事業目標）	・参加生徒の創造性や主体性を育むこと、多様な表現方法に触れる中で自身に合う表現方法を見つけること。 ・地域のなかに生徒にとっての第三の居場所（サードプレイス）をつくること。

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

「地域文化倶楽部：劇場でアート・プログラム」

■活動の実施期間　　※火曜日展開
令和3年９月～３月
■活動の実施回数＝18回　１回＝９０分～１２０分

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

・コロナ禍で学校での活動が縮小したり制限される中で、これまであまり体験することができなかった機会を生みだすことができた。
・生徒たちとのフィードバックの中で、自分の言葉で考えていることを言えるようになってきた。
・自分自身のルーツ（彼女は母親が外国人）を否定することではなく、ポジティブに捉えることができるようになり、将来の夢が広がったと聞いた。
・地域の施設やアーティストとの連携がとれ、次年度に向けての関係性を構築できた。

指導、運営上の工夫

【生徒への指導に対する工夫】
・生徒たちが、自分達の言葉で話せるような場づくりを心がけた。
・生徒達の取り組みたいことを大事にし、自主的・能動的に部活動に取り組むことができるような流れに持って行けるように工夫した。
・神戸大学の大学院生をアシスタントとしてむかえ、理論と実践をつなげられるよう大学との連携を図った。
【運営上の工夫】
・効果が最大限に創出できるように、各指導者とは事前に入念に打合せを行った上で、部活動に取り組んだ。
・今年度のプログラムの最終日に発表会を行い、保護者・地域住民・関係者が、成果発表に立ち会う場をつくった。
・生徒達が、ゲスト講師だけではなく、劇場で活動するアーティストや技術スタッフなど、いろんな表現活動に取り組む大人たちと出会う機会を多く設けた。

今後に向けた方針・方向性

・令和4年度は、予算のこともあり9月～３月の期間のなかで実施した。神戸市のほかの助成制度に申請を行いながら、４月から３月までの実施を目指したい。年間を通しての実施を行う事で、より学校部活動の活動展開に近い形をとりながら、地域で実施できる体制を整えたい。

・令和４年度は、駒ヶ林中学校の校長先生との会議のなかで進める事ができたが、次年度も続行して連携をとっていく。また、近くの長田中学校の先生とも連携をとり、部活動の内容についてさらに踏み込んだ形で意見を得ながら進めていく。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_42.pdf

No.42 株式会社Global Entertainment-JAPAN

Ⅰ．基本情報

（運営主体）株式会社Global Entertainment-JAPAN

主な活動種別

タップダンス、大道芸（道化師）、ミュージカル

（事業目標）弊社が企画・運営する日本初の総合エンターテイメント教育機関「G・E-JAPANエンターテイメント・カレッジ(兵庫県西宮本校)」内に、「西宮子ども文化倶楽部(仮称)」を創設し、地域の子どもたちが「エンターテイメント教育」を通じて「自己表現力」や「コミュニケーション能力」を豊かに養うことを目標とする。

団体・組織等の連携

「G・E-JAPANエンターテイメント・カレッジ」⇔各クラス講師陣←一般社団法人日本エンターテイメント連盟がフォロー

Ⅱ．活動概要

タップダンス・クラウン(道化師)・ジャグリング・パントマイム・ミュージカル等の様々なエンターテイメントジャンルのレッスンの他、出張ワークショップ、全国規模での学校公演・芸術鑑賞会の実施等。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

普段、学校での教育活動では体験することが難しいと思われるエンターテイメントジャンルを設定した。例「タップダンスクラス」「クラウン(道化師)クラス」「ミュージカルクラス」等。

その点では、学校の先生の負担軽減にも繋がったかと思うと共に、専門性の高い指導を行うことが出来た。

指導、運営上の工夫

【生徒への指導に対する工夫】
子どもたちが自分自身で受講ジャンルを決められるよう、クラスの選択肢を設けた。また各クラスに専門の講師を置くことによって、子どもたちに「本物」を見せ、生の文化芸術に接する感動を体験させることが出来た。レッスンの最後に成果発表の機会を提供することによって、人前で表現し拍手を頂くことの醍醐味を体験させることが出来た。

【運営上の工夫】
・各クラスに共通する受講生もいた為、講師間で随時連携して指導方針を策定した。・時間の厳守やレッスン前後の挨拶を徹底することによって、講師から指導を受ける姿勢を学べるようにした。

・他の受講生の取組に敬意を払いお互いを認め合えるような環境を整えた。これにより、エンターテイメントの答えは一つではなく様々な表現の可能性があることを伝えられたと思う。

今後に向けた方針・方向性

・学校での部活動から移行して行く大きなメリットとして、指導講師がエンターテイメントの専門家であることが挙げられる。
指導の質をより向上させると共に、やはり学校の部活動では時間的に制限されやすい、各受講生へのきめの細かい指導や支援サポート体制を整えて行きたい。
発表の機会を随時提供出来るよう、地域コミュニティと親密に連携を取って行きたい。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_43.pdf

No.43 和歌山小さなこどもの歌声倶楽部

Ⅰ．基本情報

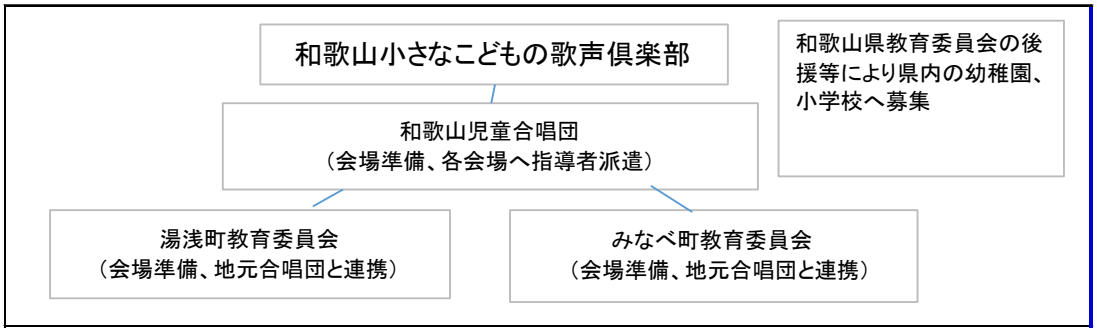
（運営主体） 和歌山小さなこどもの歌声倶楽部

主な活動種別

合唱

（事業目標） 地域（和歌山県）における幼児（3歳以上）～小学3年生までの感性を育てるために大切な年齢のこどもに向けて合唱音楽を通じた「小さなこどもの歌声倶楽部」を新設し、先進的な取り組みで世界的に活躍している和歌山児童合唱団の指導スタッフ等が指導にあたり、こども達への健全育成と、地域における音楽文化の振興を目指す。

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

和歌山県内の４か所（和歌山市２か所、湯浅町、みなべ町）において、それぞれの地域の教育委員会と児童合唱団と連携し、小さいこども（3歳から小学3年生）が継続的に文化芸術活動である音楽に触れる拠点（場所）へと繋げていく。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

コロナ禍のなか、子ども達の文化芸術体験、とりわけ歌う機会が難しくなる中、当初は和歌山県内4か所で約80人集まればと計画していたところ、200人を超す応募があり、その要望の大きさを感じました。

レッスンでは新型コロナウイルス感染対策を徹底し実施。期間中、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置などの発令により、参加者が減っていたものの、半数以上の子ども達が保護者と共に参加し、ヨーロッパの音楽教育であるハンドサインなど身体を使ったレッスンにより、毎回、元気に歌うことができました。

用具の調達は和歌山児童合唱団、各会場、教育委員会と連携を図りました。

指導、運営上の工夫

【生徒に対する指導上の工夫】
ヨーロッパの小さなこどもへの音楽教育で主流である、音階を手で表すハンドサインを使い、まずは分からない楽譜を見るより、口伝えによる音階で身体を使い楽しく学ぶことで、より綺麗なメロディーを奏でることができました。また、歌の起源であるラテン語の母音発声も身体全身を使うことが出来、美しい言葉で歌うこともできました。
さらに日本語の良さを知っていただくため、また保護者も一緒に取り組めるように「唱歌」や「童謡」を用い、レッスン時間だけではなく、家庭でもこどもと保護者が一緒になって取り組める楽曲を選びました。
【運営上の工夫】
64年の歴史がある和歌山児童合唱団での過去33回の海外演奏旅行や年間約20回の演奏会やイベントを運営しているノウハウを生かし、参加者へは詳細にホームページサイトやメールを使った案内、受付や会場準備、特にコロナ禍で参加者の健康状態の把握や使用する椅子などの消毒換気など感染拡大対策を徹底し行いました。

今後に向けた方針・方向性

・日本では小さなこども（３歳から小学３年生）に対し音楽教育を行う際、あまり音楽経験や知識のない指導者を当てる場合が多く、そのため、小さなこどもの時代に音楽体験をすることで身に付けることができる言語発達や運動能力、聴力などの向上にしっかり取り組まれていないのが現状です。

・今回の「小さなこどもの歌声倶楽部」の実施により、コロナ禍のなかでも多くの参加者があり、この世代の保護者が子ども達に音楽体験させたいという要望の大きさと、それを地域で継続的に体験できる拠点づくりの必要性を強く感じました。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_44.pdf

No.44 KOCHI中高生ミュージカル部SKY （株）千クリエイティブカンパニー

Ⅰ．基本情報

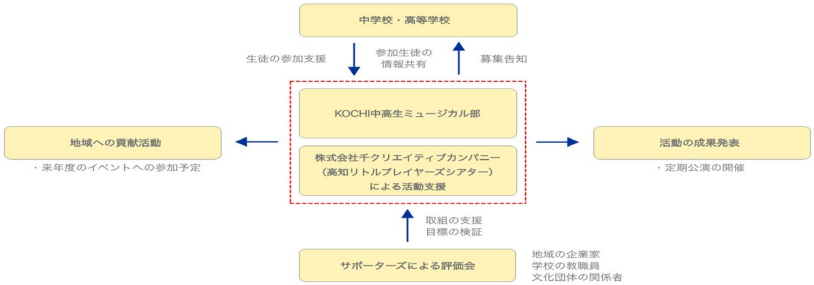
（運営主体）（株）千クリエイティブカンパニー

主な活動種別

ミュージカル

（事業目標）第44回全国高等学校総合文化祭（2020こうち総文）総合開会式開催地発表のオリジナルミュージカルにおける活動の成果を継承し、学校の枠を超えてた新しい形の部活動としてミュージカル活動のできる場（地域文化倶楽部）を創設する。
学校単位では活動できない生徒のニーズに応えるとともに、専門的な講師陣の指導によってより質の高い活動の機会を確保し、生涯を通じて文化芸術に親しみ表現力、コミュニケーション力の育成などの自己成長を図る。

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

KOCHI中高生ミュージカル部は、高知県下の中高生で集まり劇団「SKY」を発足。地域の専門家による指導の元、月2回～3回程度の練習を重ねミュージカル作品を制作する活動を実施。地域の起業家、文化団体、教育機関の方々からなるサポーターズクラブも結成され、活動を見守ってくれている。令和4年1月9日に高知市文化プラザかるポートにて創作ミュージカル「ANDROID」を上演。
追加公演も実現し、2回公演延べ220名の観客（コロナ対策により客席半数設定）の方に鑑賞いただけた。
また配信もでき（http://youtu.be/sd2t4JFFjGO）　1 年間の間、視聴できる。
次年度への活動へ繋げようと準備を進めている。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

令和４年1月９日（日）「高知市文化プラザかるぽーと」にて14:00～と17:00～の2回公演
アーカイブ　https://youtu.be/sd2t4JFFjGo

添付資料①　活動報告　舞台終了後　劇団員とスタッフ　アンケート

添付資料②　活動報告　活動終了後　アンケート

添付資料③　サポーターズによる評価

添付資料④　観客の方及び保護者のアンケート

指導、運営上の工夫

○児童・生徒への指導に関する工夫
【指導者の工夫】
学校の枠を超えて集まったメンバーなので、まずはコミュニケーションを取りやすくする配慮をした。
初めの何回かのレッスンで、メンバーの個性を見て、脚本の構成上で関わる組み合わせを考慮して、スムーズにコミュニケーションを取れるようにした。
コロナ禍もリモートレッスンを駆使して、中止やお休みがないように努力した。

【参加者への工夫】
活動がなるだけ参加者の自主性を発揮できる活動となるように、全員に役割を設け、部長、副部長、ダンスリーダー、ボーカルリーダー、広報、場ミリ（稽古準備）など、劇団員主体の活動となるようにした。また練習の最後には一日の振り返りをみんなでミーテイングし、次回の練習につなげていった。

○運営上の工夫
【地域等との連携】
社会、文化、教育の各分野に精通する地域の企業家や文化活動家から構成される「サポーターズ」を組織し本活動をサポート、成果発表公演の後には評価会を行い年度の活動・これからの継続的な運営に関して支援をしていただく。

【活動の情報共有】
ツールを活用し保護者の方も活動内容・稽古風景を見ることができ情報共有を行いながら透明性のある活動を行なった。

【ICTの活用】
コロナ禍においてZOOMの活用（ICT）をすることにより遠隔で稽古が行え、それぞれの学んだ技術知識を保ちながら安全に感染リスクの少ない稽古を行なった。

今後に向けた方針・方向性

・「サポーターズ」メンバーである、文化振興事業団、県民文化ホール事業課、藁工ミュージアム、高知県高等学校文化連盟や教育機関との連携をより一層行い、地域の文化振興に寄与する活動へと繋げる

・地域で活躍する新たな専門家と連携しワークショップの開催を企画したり、活動の場をミュージカルだけでなく広げていくことで、より多くの中高生の参加を促し、新たな活動の場を提供する。（舞台に関する制作、音響、照明、装置などの技術面にフォーカスした内容も盛り込み、さらに舞台芸術の研鑽に努める）

・高知県高等学校文化連盟との連携を図り、学生の活躍の場所を広げるとともに、参加者の成長を図るプログラムとなるよう検討していく。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_45.pdf

No.45 合同会社 TC Entertainment

Ⅰ．基本情報

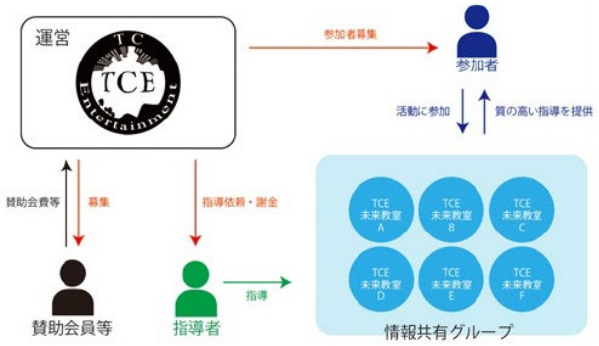
（運営主体）合同会社 TC Entertainment

主な活動種別

ボーカル、ギター、ジャグリング、アナウンス

（事業目標）	専門性に富んだ質の高い講師による、多ジャンル合同での参加費無料の文化教室を開催し、良質な文化活動を提供すると共に、地域特性を加味した継続可能な地域文化倶楽部の運営システムとネットワーク作り。

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

TCE未来教室は、2021年に合同会社TC Entertainmentを運営主体とする事業である。
高知県内の学生を対象の中心として参加者を募集し、音楽、大道芸(マジックを含む)、お笑い等の分野において無料文化教室を開講。(※当初は県下6市町村を周る移動式の無料文化教室開催の事業モデルであったが、コロナ禍において会場や、各開催地の教育委員会や生涯学習課への相談や聞き取りを行った結果、全スケジュールをオンライン開催に変更した。)
講師には現役で活躍するプロを起用することで質の高い授業内容を展開し、高知県の芸術・芸能の意識や質の向上に努める。
また、各地域での自発的な地域文化活動の発生を期待し、親子参加、指導者として意欲のある者などの参加も受け入れる。
毎回受け入れ上限30 名、１０回の開催で総受講者数のべ３００名程度、次年度以降も継続しての受講希望者８０％以上、継続的な活動の為の賛助会費等総額100 万円、を目標とし活動。
オンラインに切り替わり受け入れ上限を毎回２０名とした。
最終的に１０回の開催で総受講者数のべ１２０名。次年度以降も継続しての受講希望者９０％以上、賛助会費等金額０円であった。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

未来教室という事業を通じて沢山の方が興味を持ってくれたことから派生し、来年度実際に軽音楽部の外部指導員としてオファーを頂くなど学校の働き方改革、教員の負担軽減に少しは貢献出来ているのではないかと思う。

指導、運営上の工夫

・HP 上の参加受付フォームにて指導に必要になるいくつかの事前質問への回答を求め、学びたい事や興味のあること、課題を感じることなどを聞き取りし、効果的な指導の為の資料とした。
・広報段階で事前に授業内容の発表をしており、講師側が何に焦点を当てて指導をするのかを参加者に事前に知ってもらう仕組みにした。

今後に向けた方針・方向性

本年度において、新型コロナウイルス感染症の動向が一進一退するなか、オンライン教室へと事業内容の変更を行い、手探りでの事業実施となった為、学校や行政等に積極的なアプローチをとれなかった。次年度においては、地域や学校との信頼関係を構築するため、県教育委員会等に積極的にアプローチを行い、次年度以降は今年度できなかったオフラインでの開催に力を入れたい。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_46.pdf

No.46 ホルトホール大分みらい共同事業体

Ⅰ．基本情報

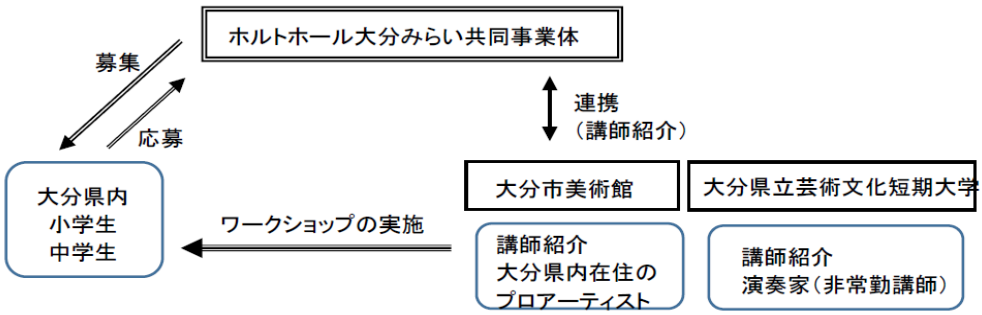
（運営主体）ホルトホール大分みらい共同事業体

主な活動種別

図工／美術、音楽

（事業目標）子ども達が身近な地域で平等に質の高い文化芸術に触れあう機会を創出する。
大分県には、多くのジャンルのアーティストが住んで活動をしているので、そのアーテイストと直に触れ合い、作品制作を間近で見て体験することで「自由に表現する」ということを体感して貰う。

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

全３回のワークショップ
①様々の技法の紹介（絵を描く時の技法紹介＆実践）
②ライブペイント鑑賞会（チェロ・ピアノの演奏を聞き、その音楽に合わせて作家５名がライブペイントを行う。そのライブペイントを自由に鑑賞し、プロ作家の表現の違いを体感して貰う）
③作品制作（自分の書きたいものを自由にキャンバスに書いて貰う）

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

画家が目の前で作品制作をする姿や、生の演奏を聞くことで刺激となり、「自分で自由に表現する」ということを考えるキッカケになった。
【参加者の声（アンケートより）】
・今までよりも芸術に興味を持てた。
・好きな様に絵をかけて楽しかった。
・様々な表現方法を知り、少しの工夫をすることで自分だけの作品をつくることができて、達成感を感じた。
・アーティストの完成したものではなく、完成するまでを見ることができて面白かった。
・大好きなアーティストさんに会えて話ができて嬉しかった。
他、特別な体験ができたと感じている参加者が多かった。
地元で活躍するアーティストとの出会いを作ることで、このアートスクールが終わっても、各アーティストの個展やイベントに親子で出かけるキッカケ作りの場となった。
アートスクールが終了しても、参加者自身がアートを身近に感じ、アーティストのイベントに積極的に出かけることにより、大分県全体の文化芸術の盛り上がりに繋がると感じた。

指導、運営上の工夫

○児童・生徒への指導に関する工夫
・スタッフ・アーティスト等、関わるスタッフを40代以下とし、参加者が話しやすい環境を作った。
・学校ではなかなか触れられない道具を揃えて、絵を描くことへの意欲が増すようにした。
・「自由に描きたいものを描こう」というとても抽象的なコンセプトだったので、一番最初に技法を紹介し、何を描いたらいいか分からない。ということがない様に進めた。
・１クラス25名という少人数制にしたことで、講師がまんべんなく話かけることができた。

○運営上の工夫
・講師を大分県で活躍しているプロのアーティストにお願いし、質の高い文化芸術活動が充分に出来る環境を整えた。
・募集は、主催であるホルトホール大分みらい共同事業体で行った。大分市にも協力して貰い、近隣の小中学校には、生徒１人１人にチラシを配ってもらった。予算がもう少しありチラシを刷る枚数を増やせれば、近隣のみでなく、市内・県内の学校への配布が可能であったと思う。

今後に向けた方針・方向性

・予算の増額は必須だと感じた。
・ホール主体だと、年間を通じて継続的にイベントを行うことは、スタッフの人数等を考えても難しいように感じる。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_47.pdf

No.47 特定非営利活動法人 MIYAZAKI C-DANCE CENTER

Ⅰ．基本情報

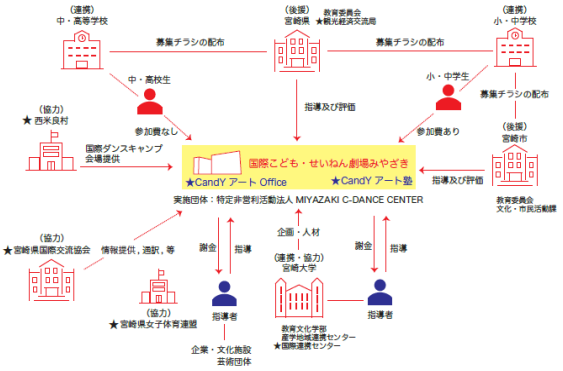
（運営主体） 特定非営利活動法人MIYAZAKI C-DANCE CENTER

主な活動種別

ダンス

(事業目標)
令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に向けて、本県の文化活動の関係者の地域文化倶楽部への理解が向上するような地域文化倶楽部のモデルづくりを目的に以下に示す観点から、2つのモデルについて実践研究する。
　観点① 児童生徒が、質の高い文化芸術に親しめるような、継続的な機会の創出
　観点② 自主的・主体的に次代を担う児童生徒の文化芸術活動の支援

団体・組織等の連携



Ⅱ．活動概要

●Aコース（モデルA)　CandYアート塾　対象：小・中学生 ※児童生徒が保護者の同意を得て参加する
　内容：小集団で、協働して、新たな価値を生み出す活動（芸術表現）を体験する（全20回）。
　　1,000円/回、10名程度/回　※後期は、「ちいきメタバースクラブ」を発足

●Bコース（モデルB)　CandYアートoffice　対象：中学生～ ※学校と連携・協力して実施する
　内容：アートイベントの企画・運営を体験する活動及びオンラインのアート会議及び講義 （全14回）。
　　参加者の費用負担なし、1～10名/回

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

〇コロナ禍の影響で、計画していた活動ができなかった。その中で、児童生徒が保護者の同意を得て参加するAコース(モデルA)と、学校と連携・協力して実施するBコース(モデルB)を実践研究した。アンケート等の調査からも、モデルAならば、本団体のような地域のアートNPO法人が部活動に変わり得る活動として実施していけるのではないかということがわかった(得られた成果)。

〇Bコースでは、中学校と連携して活動を実施した。担当教員にお願いしたのは、本団体との日程調整が主で、全てメールまたは電話で行ったため、教員の負担感軽減に寄与することができた。

〇なお、本団体は、文化部活動の地域移行により、教員には、本団体及び参加者とこまめに連絡を取り合い、学校や参加者が期待した活動になっているかの観点から助言をお願いしたり、保護者も参加する活動成果の発表会・報告会等での講評・評価をお願いしたいと考えている。

指導、運営上の工夫

〇今年度は、教職大学院(教育学・美術科教育・情報教育)を修了した本団体のスタッフ3名と舞踊教育の専門家が指導者となった。なお、このスタッフ3名は、国内外で活動する振付家であり、文化庁の「芸術家の派遣事業」の派遣講師として県内外の学校・教員と協働している。

〇本県に芸術系大学等はないが、本申請団体はアーティスト（振付家）が立ち上げたアートNPO法人であり、毎年、国内の美術館等と協働している。今年度は、坂本善三美術館（熊本県小国町）と森美術館と協働した内容も参加者と共有するなど、児童生徒のモチベーションアップを図りながら、本実践を広く発信することができた。

〇今後の講師候補者に対し、活動を参与観察したり、補助者として実際に活動に参加できる場を設けている。

今後に向けた方針・方向性

〇令和5年度までに、本団体が拠点とする自治体(宮崎市)の公立学校 (特に中学校)が、地域文化倶楽部の導入を決定し、さらに児童生徒から最先端の部活動(今年度のメタバースクラブ的な活動)を求めれた場合は、児童生徒のニーズに沿うような部活動を本団体が立ち上げて受け入れる。ただし、それは教員の負担・負担感減にはならないが、負担・負担感増にもならない。その際は、宮崎市や地域の教育委員会と、予算化も含めて、パートナーシップを組ませていただくなど本格始動させるためには、無理のない仕組みの構築は必須である(要検討事項)。

〇一方、既存の学校部活動の段階的な地域移行については、自治体等の補助金制度が整備されたり、民間の基金等の活用を図ることができるならば、地域の教育委員会、保護者・学校と相談しながら本格実施に向けた移行を図る。

URL：https://www.bunka.go.jp/seisaku/geijutsubunka/sobunsai/pdf/93721702_48.pdf

No.48 公益財団法人宮崎県芸術文化協会

Ⅰ．基本情報

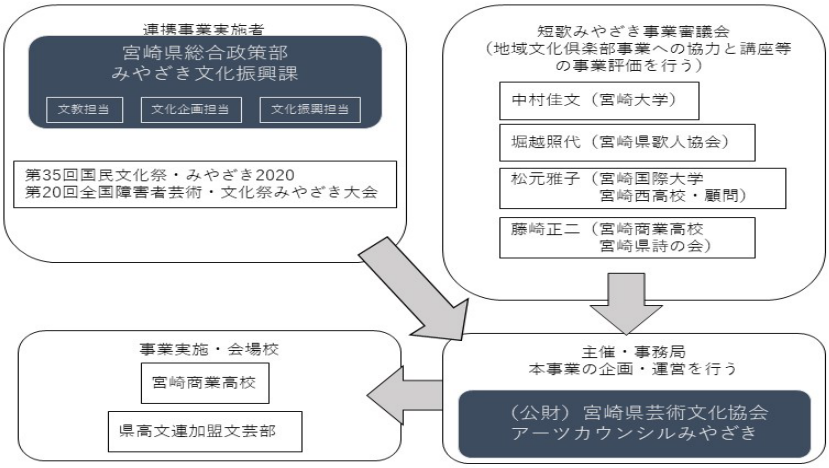
主な活動種別

短歌

（運営主体）公益財団法人　宮崎県芸術文化協会

（事業目標）
・宮崎県内市町村へのヒアリング・・・26件
・事業形成と評価のための審議会の形成と協議の開催・・・3回
・リーディングプロジェクトの開催・・・3回

団体・組織等の連携



教育機関、地域、その他組織等の連携について（事業計画書に記載したイメージ図等）

Ⅱ．活動概要

宮崎県内において短歌を始めとする文芸活動は「牧水短歌甲子園」をはじめとして以前より盛んである。ただ若年層の流出や、成人後の文芸活動については高齢化の一途をたどり、若年層の加入は喫緊の課題である。
また、県内の市町村の中には、文化部を設置していない公立学校も多く存在している。「日本一の短歌県」を掲げる宮崎県としては、若年層における文化活動の振興と、文化活動を通じての地域アイデンティティの形成を狙っていきたい。
今年度の地域文化倶楽部創設支援事業では、短歌を中心とする文芸活動の可能性を検討し、設立に向けた実験事業を通じ、今後の事業展開の指針を議論した。

Ⅲ．成果・課題

本事業による成果

１.宮崎県内の短歌文化のリサーチ
宮崎県内は南北に広い県域であり、短歌文化に対する取り組みが盛んなのは、県北、県央地区である。

２.審議会での議論
審議会の開催前より、委員となる方へのヒアリングを行った。地域文化倶楽部創設に向けた取り組みについては高い関心を得られた。

３.リーディングプロジェクトの実施
小島なおさんをゲストに招き、宮崎県内の高校の文芸部・短歌部に対する講座を開催した。

指導、運営上の工夫

・参加する学生に対して、押し付ける形にはせず、対話型で実施する。

・短歌の特性上、創作に対する指導を行わず、自由な批評と解釈に重点を置いた。

・当初は対象校を限定しての実験的な取り組みの実施を予定していたが、美郷町で開催する講座が新型コロナウイルスの影響を受けて開催ができなくなったため、オンラインで広く県内の学生に届く形で実施した。

今後に向けた方針・方向性

OB/OGを招いたオンラインによる複数校合同の講座を定期的に開催していく予定である。これによって・文芸活動に造詣のない先生や顧問であっても部活動の指導、ならびに質の向上が図れる。
・講師と、運営と、審議会、学校といった複数のステークホルダーによる議論により、県内全域での文化部活動の盛り上がりの形成が図れる。・指導や部活動の運営にかかる顧問の負担を、私共のような中間支援団体が担い、教員に対する働き方改革の推進を行う。
以上のような効果が期待できる。

文化庁

Agency for Cultural Affairs,
Government of Japan